高崎市文化財調査報告書第271集

# 大八木・伊勢廻遺跡2

## ―店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査―

2010

高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第271集

# 大八木・伊勢廻遺跡2

－店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2010

高崎市教育委員会

# 例　言

1．本書は店舗建設に伴う大八木・伊勢畑遺跡第２次調査（高崎市遺跡番号 456）の発掘調査報告書である。
2．本遺跡の所在地は、群馬県高崎市大八木町字伊勢畑 561-2・562-1・-4・-5・575-1・-12・578-4 番地である。
3．発掘調査・整理作業は高崎市教育委員会が委託契約を締結した株式会社測研の協力を得て実施した。
4．発掘調査から整理作業を経て本書刊行に至る経費は、事業主である須藤英治氏に負担して頂いた。
5．発掘調査は平成 21 年 10 月 7 日～同 12 月 19 日まで実施し、平成 22 年 8 月 12 日まで整理作業を実施した。
6．発掘調査の体制は下記の通りである。
　高崎市教育委員会　　田口一郎　須田奈保子　角田真也
　株式会社　測研　　水谷貴之
7．本書の執筆はⅠを田口、Ⅱ～Ⅴを水谷が行った。編集は水谷が行い、高林真人（測研）の協力を得た。
8．整理作業の実施にあたっての出土遺物の注記内容は、遺跡番号・出土遺構名・出土位置などを記入した。
9．弥生時代の出土石器・石製品の石材は、パリノ・サーヴェイ株式会社・石岡智武氏に鑑定して頂いた。
10．出土遺物及び図面・写真などの測査記録類は、すべて高崎市教育委員会が保管している。
11．本報告書の作成にあたり、土器実測・観察について、高崎市教育委員会若狭　徹氏よりご教示をいただいた。
12．発掘調査と整理作業にあたり、下記の方々・機関からご指導・ご協力を賜った。（順不同・敬称略）
　須藤英治　阿久澤智和　小川卓也　佐々木清貴　鈴木徳雄　千葉博俊　口沖剛史　福田貫之
　山際哲章　山下歳信　山ド工業株式会社

# 凡　例

1．本書で使用した座標は全て世界測地系である。挿図中では下３桁を表示し、Y 座標にはマイナスを付した。
2．本書の挿図中における位置（N）は座標北を示す。断面図中の「L」は標高を示す。
3．遺構の主軸・長軸方位などは、座標北（N）から東（E）または西（W）方向への角度として計測した。
4．発掘調査と本書で使用した遺構名称の略称は下記の通りである。
　竪穴住居跡＝SI　土坑＝SK　溝＝SD　井戸＝SE　ピット＝P
5．遺構実測図の縮尺は全て挿図中に明示したが、主なものは下記の通りである。
　竪穴住居跡　平面・断面図　S=1/60　土坑　平面・断面図　S=1/60　井戸　平面・断面図　S=1/60
　溝　平面図　S=1/100　断面図　S=1/60
6．遺物実測図の縮尺は全て挿図中に明示したが、主なものは下記の通りである。
　土器　S=1/4　瓦　S=1/4　石器・石製品　S=1/2・1/3・1/4
7．本書で使用した地図は下記の通りである。
　第１図　国土地理院発行 S=1/200,000 地勢図「日光」「宇都宮」「長野」「高田」
　第２・42 図　高崎市発行 S=1/2,500 都市計画基本図
　第４図　国土地理院発行 S=25,000 地形図「前橋」「下室田」
8．発掘調査での土色観察、本書での遺物色調観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖（1998 年版）』を参考とした。
9．本書で使用したテフラ名称は下記の通りである。
　As-A：浅間Ａ軽石（1783 年）　As-B：浅間Ｂ軽石（1108 年）As-C：浅間Ｃ軽石（3 世紀後半）
　As-YP：浅間板鼻黄色軽石（1.3 ～ 1.4 年前）　Hr-FA：榛名二ッ岳渋川火山灰（6 世紀初頭）
10．本書の遺物実測図で使用したトーンなどは下記の通りである。
　縄文土器・弥生土器・土師器・「土師質土器」／酸化焼成・・・・・断面白抜き　□

須恵器／還元焔焼成・・・・・・・・・・・・・断面黒塗り

須恵器／酸化焔焼成気味・・・・・・・・・・・断面黒塗りに白丸

灰釉陶器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・断面ドット　施釉範囲ドット

付着物など・・・・・・・・・・・・・・・・・点描・黒塗り

赤彩・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・トーン

# 目　次


例言・凡例・目次

Ⅰ．調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ．調査の方法と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・2

　1．調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

　2．調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ．遺跡の地理的・歴史的環境・・・・・・・・・・・・・2

　1．地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

　2．歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅳ．調査した遺構と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・6

　1．遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

　2．縄文時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

　3．弥生時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

　4．古墳時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

　5．平安時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

　6．中世以降・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

　7．その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

Ⅴ．まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51

写真図版

発掘調査報告書抄録・奥付


## 挿図目次


第１図　遺跡の位置

第２図　調査区位置

第３図　基本土層

第４図　周辺の遺跡

第５図　全体図

第６図　SK-11・13 平面・断面

第７図　縄文時代の遺物

第８図　弥生時代の遺構分布

第９図　SI-3 平面・断面

第10図　SI-3 断面・遺物出土状況

第11図　SI-7 平面・断面

第12図　SI-8 平面・断面

第13図　SI-8 断面・掘り方

第14図　SI-12 平面・断面

第15図　SB-1・SK-6・7・8 平面・断面

第16図　SK-18・19・20・27・31・32・38・39 平面・断面

第17図　弥生時代の遺物（1）

第18図　弥生時代の遺物（2）

第19図　弥生時代の遺物（3）

第20図　弥生時代の遺物（4）

第21図　弥生時代の遺物（5）

第22図　弥生時代の遺物（6）

第23図　弥生時代の遺物（7）

第24図　弥生時代の遺物（8）

第25図　古墳時代の遺構分布

第26図　SI-1 平面・断面

第27図　SI-1 掘り方・SI-9・SK-9 平面・断面

第28図　SK-23・28・29 平面・断面

第29図　古墳時代の遺物

第30図　平安時代の遺構分布

第31図　SI-2・SI-4 カマド・SI-6 カマド 平面・断面

第32図　SI-4～6・10 平面・断面

第33図　SI-11・SI-13・SI-14 平面・断面

第34図　SI-15・16・SB-2・SK-1・2・10・16・17 平面・断面

第35図　SK-5・21・25・35・40・41・44 平面・断面

第36図　SK-45～49・51 平面・断面

第37図　SD-1・2・3 平面・断面

第38図　SD-5～9 平面・エレベーション

第39図　平安時代の遺物

第40図　SB-1・SK-3・4・14・15・24・26・43 平面・断面

第41図　中世以降の遺物

第42図　本遺跡周辺の弥生時代遺構分布


## 表目次


第１表　遺構番号対応一覧表

第２表　縄文時代の土坑一覧表

第３表　縄文時代遺物観察表

第４表　弥生時代の土坑一覧表

第５表　弥生時代遺物観察表（1）

第６表　弥生時代遺物観察表（2）

第７表　弥生時代遺物観察表（3）

第８表　古墳時代の土坑一覧表

第９表　古墳時代遺物観察表

第10表　平安時代の土坑一覧表

第11表　平安時代遺物観察表

第12表　中世以降の土坑一覧表

第13表　中世以降遺物観察表

第14表　ピット一覧表


## 写真図版目次


図版１　調査区　全景（東西調査区を合成／上が北）

　　調査区　鳥瞰（左側の道路が南畦道路／東から）

　　調査前現況（北東から）

　　SI-3　全景（南東から）

　　SI-3　遺物出土状況（1）（南西から）

図版２　SI-3　遺物出土状況（2）（南から）

　　SI-7　全景（東から）

　　SI-7　遺物出土状況（北西から）

　　SI-7カ1　遺物出土状況（東から）

　　SI-8　全景（南東から）

　　SI-8　遺物出土状況（北西から）

　　SI-12　全景（P14は未検出／南東から）

　　SI-12　P12・P14 検出状況（南東から）

図版３　SI-12　遺物出土状況（南東から）

　　SB-1　全景（北から）

　　SK-7　全景（南から）

　　SI-1　全景（西から）

　　SI-9　全景（北から）

　　SI-2　全景（西から）

　　SI-4・5・6・10　全景（北から）

　　SI-13　全景（西から）

図版４　SI-14　全景（西から）

　　SI-16　全景（西から）

　　SB-2　全景（北から）

　　作業状況（北西から）

　　SI-3 遺物集合

図版５～７　遺物写真

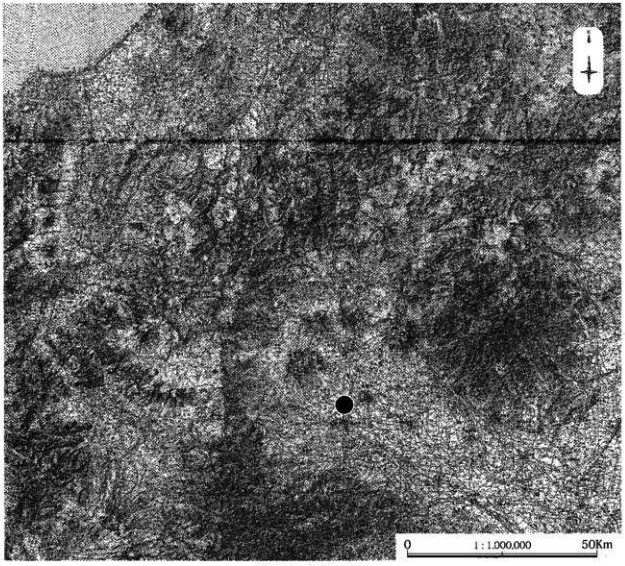
# Ⅰ．調査に至る経緯

平成21年5月、須藤英治氏より高崎市教育委員会（以下市教委）に店舗建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、該当地が縄文～中世に至る散布地として遺跡台帳・地図に登録された埋蔵文化財包蔵地であり、南側には道路建設に伴い調査された雨壺遺跡が隣接するため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年6月16日付けで、事業者より文化財保護法第93条の届出と試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は7月15日に工事予定地の試掘調査を実施し、部分的な攪乱はあるもののほぼ全域で弥生・古墳・平安・中世の遺構を確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行った。再三の協議・検討によっても全体的に遺構面の掘削が不回避との結果を受けて、文化財保護法第93条の規定による回答で、記録保存の発掘調査が必要であると指示を出した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、株式会社測研に委託して実施することとなり、平成21年9月30日付けで高崎市長・事業者・測研の三者協定を締結し、さらに協定に基づき9月30日付けで事業者と測研の二者で発掘調査委託契約が締結された。




第1図　遺跡の位置

# Ⅱ．調査の方法と経過

## 1．調査の方法

今回の発掘調査対象地の面積は約 2,134㎡であった。調査では対象地内において掘削残土置き場を確保する必要があったため、残土置き場を反転する方法をとった。すなわち対象地を東西調査区に分割したうえで西側調査区を先行調査し、終了後に残土置き場を反転する形で西側調査区を埋め戻し、東側調査区を調査した。各調査区の終了時にはラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行い、合成することで 1 枚の空中写真として提示した。

表土掘削には 0.45㎥バックホーを、掘削土運搬には 10 t クローラーダンプを使用した。試掘調査の所見を参考として基本土層Ⅵ層上面まで掘削を行い、この面を遺構確認面とした。しかし、宅地造成時の土の入れ替え等による攪乱や旧畑の耕作攪拌、樹木の抜根攪乱等が多く存在し、一部Ⅵ層以下を遺構確認面とした個所もある。

遺構の確認は人力によるジョレン精査にて行い、確認できた遺構には遺構番号を与えて調査へと移行した。各遺構の調査には移植ゴテを用い、土層観察用のセクションベルトを残して掘り下げることを原則とした。ただし明らかな攪乱、近現代の掘り込みはこの限りでは無い。抜根痕を含む攪乱については原則的に全て掘り上げ、遺物の出土場所を特定できるように通番号を付与した。上層断面の記録を終えた遺構は順次完掘することとし、出土遺物のうち必要なものについては適宜出土状況の記録を行い、最終的に遺構平面図の作成を行った。

遺構の記録図面は断面・平面図ともにデジタル測量にて作成した。遺構写真の撮影には 35 mm 1 眼レフカメラを使用し、モノクロフィルム・リバーサルフィルムにて同一内容を撮影することを原則とした。また、併せてデジタル 1 眼レフカメラによる撮影も行った。

## 2．調査の経過（発掘調査日誌抄）

10 月 5 日：安全対策の実施。7 日：仮設資材搬入。西側調査区の表土掘削開始。9 日：作業員による作業開始。表土掘削の進捗に合わせて、随時ジョレンによる遺構確認を行う。13 ～ 16 日：攪乱痕跡の掘削。各遺構の調査。適宜土層断面の記録化を行う。表土掘削は 16 日に終了。19 日：各遺構調査継続。高崎市教育委員会（以下、市教委）田口係長来訪。21 日：SI-7 から管玉出土。22 日：SI-8 から磨製石鏃製作関連遺物の出土を確認する。ただちに飾がけを目的とする覆土の全量回収を開始。23 ～ 28 日：各遺構の調査継続。SI-8 覆土の飾がけを実施。以後断続的に行う。29 日：市教委角田氏来訪。30 日：調査区内のピット調査中に SB-1 の存在を認識する。

11 月 2 ～ 13 日：各遺構調査継続。土層確認用のテストピットを設定し、旧石器時代遺物の出土に留意しつつ掘り下げる。16 日：西側調査区の空撮前清掃。空撮実施。市教委による終了確認あり。17・18 日：SI-3 遺物取り上げ。SI-8 掘り方調査など。19 日：調査区反転のための掘削残土の整理。西側調査区の埋め戻し開始。ただし、SI-3・12 部分は埋め戻さずに調査継続。20 日：SI-8 覆上の飾がけ。SI-12 調査継続。東側調査区の表土掘削開始。23 日：表土掘削のみ実施。24 ～ 27 日：各遺構調査継続。表土掘削は 26 日に終了。30 日：市教委小泉氏・滝沢氏・高橋氏・大野氏・折原氏・赤見氏来訪。

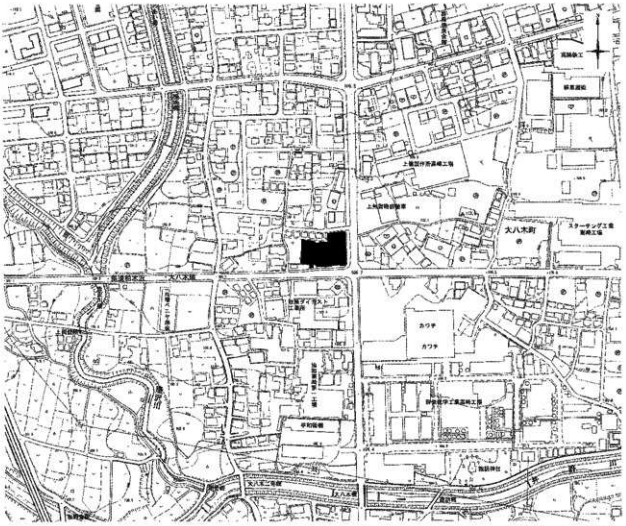
12 月 1 ～ 15 日：各遺構調査継続。4 日には市教委田口係長来訪。16 日：東側測査区の空撮前清掃。市教委による終了確認あり。17 日：空撮実施。各遺構調査継続。18 日：撤収作業。各遺構調査継続。19 日：記録の補足を行い、現場での作業を終了する。21・25 日：安全対策以外の仮設資材の撤収。

# Ⅲ．遺跡の地理的・歴史的環境

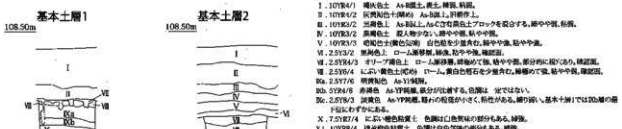
## 1．地理的環境

群馬県は関東平野の北西部に位置し、埼玉・栃木・福島・新潟・長野の各県と接している。県域の地形は南東側に開ける平野部と、北・西・南側の山地に大別することができ、総面積の 85％が山地とされる。

本遺跡の所在する高崎市は、群馬県の中央やや西寄りに位置する。近年の市町村合併によって市域は大きく拡大し、南東側は埼玉県と、北西側は長野県と接することになった。すなわち市域の形は南東から北西へと長い弧状をなしており、関東平野の最奥部から群馬・長野県境の山地にかけての位置になる。市域の北側にそびえる




第２図　調査区位置




基本土層

Ⅰ：10YR4/1　暗灰色土　As-B混土。表土。畑裏。転裏。
Ⅱ：10YR4/2　灰黄褐色土(褐色)　As-B混土。耕耘作土。
Ⅲ：10YR3/2　黒褐色土　As-B混土。As-C2ブロック混在土ブロックを混かする。締やや弱。転裏。
Ⅳ：10YR3/2　黒褐色土　殺人物少ない。締やや弱。軟やや弱。
Ⅴ：10YR3/3　暗褐色土(黄色混)　白色粒を少量含む。締やや強。粘やや強。
Ⅵ：2.5Y3/2　黒褐色土　ローム層移層。締強。粘やや強。暗部部。
Ⅶ：2.5YR4/3　オリーブ褐色土　ローム層移層。締強めで強。粘やや強。部分的に粘りあり。硬部部。
Ⅷ：2.5Y6/4　にぶい黄色土(灰色)　ローム。黄白色粒石を少量含む。締緩めで強。粘やや弱。層部部。
Ⅸa：2.5Y7/6　明黄褐色　As-YP純層。
Ⅸb：5YR4/6　赤褐色　As-YP純層。鉄分が比較する。白部は　完ではない。
Ⅸc：2.5YR/3　暗黄色　As-YP純層。粒子の粒径がかさく、粘性がある。締り弱い。基本十層1では2Db層の層下以上にわずかにある。
Ⅹ：7.5YR7/4　にぶい橙色粘質土　色調は白色気味の部分もある。締強。
Ⅺ：10YR8/4　浅黄橙色粘質土　色調は白色気味の部分もある。締強。
XII：2.5Y7/2　灰黄色の粗いシルト質土　細砂粒子混じる。締強。粘弱。
XIII：2.5Y7/2　灰黄色(やや明るめ)のシルト質土。細砂粒混じる。締強。粘弱。
XIV：7.5YR8/4　浅黄橙色(桃色気味)の強いシルト質土　締強。粘弱。
XV：10YR6/1　暗灰色土　細砂質。ラミナ状堆積が認められる。締強。粘弱。

第３図　基本土層

榛名山は群馬県を代表する山のひとつとして有名であり、古墳時代には大規模な火山災害を２度引き起こした。この山の東南麓には広大な裾野扇状地地形が形成されており、相馬ヶ原扇状地と呼ばれる。この扇状地地形は扇端部へと下るにつれ緩やかな傾斜になり、関東平野の北西辺奥部である前橋台地の平坦面へと移行していく。相馬ヶ原扇状地には複数の中小河川が流下するが、これらと合流した井野川が前橋台地のほぼ中央を貫流する。この流域には井野川低地帯が広がっており、これを境として前橋台地の西側を特に高崎台地と呼ぶことがある。

本遺跡の所在する大八木町は高崎台地の北限付近と考えられており、相馬ヶ原扇状地扇端部との境である。標高は107m前後にあり、南東方向への緩傾斜面である。遺跡の西側には相馬ヶ原扇状地面内に源をもつ唐沢川が南流し、猿府川を合流する。この唐沢川も本遺跡の南西側ですぐに井野川へと合流し、北西方向から流下する井野川は、この合流点付近で流路を東へと向けている。遺跡地周辺の地形は土地区画整理事業や工業団地の造成、または宅地化によって多く改変されているため、本来の微地形を読み取り難い。おそらく唐沢川や井野川に起因する自然堤防や後背湿地が形成されていたと思われ、洪水による氾濫原もあったであろう。さらに地形図上では南東方向への谷地形が推定できる地割りも存在することから、旧地形は比較的複雑な様相であったと推察する。

本遺跡は主要地方道「高崎・渋川線」と県道「柏木沢・大八木線」が交差する「大八木町」交差点の北西隅にあり、高崎市役所から見て北方向、直線距離にして約4.8kmの位置にある。

## 2. 歴史的環境

本遺跡の周辺では各種開発によって発掘調査が行われる機会が多く、地域の考古学的情報が蓄積されつつある。

旧石器時代の遺跡の具体相は、高崎市域では不明瞭である。単発的に少量の石器が見つかっているのみであるが、その一つとして、本遺跡に隣接する雨壺遺跡（3）から出土した槍先型尖頭器が知られている。この遺物は平安時代竪穴住居跡の覆土中に混入していたものであるが、付近に当該期の遺跡が存在する可能性を示唆する。

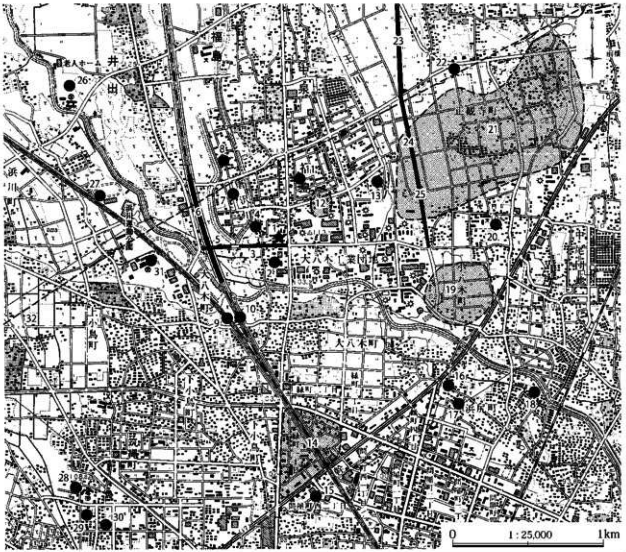
縄文時代では前期の竪穴住居跡が熊野堂遺跡（6）にある。中期では雨壺遺跡にて阿玉台式期の遺構が、大八木箱田池遺跡（12）にて勝坂式～加曽利Ｅ式期の遺構が調査されている。さらに西浦北遺跡（8）では中期後半の柄鏡型住居跡が調査されている。後期になると正観寺遺跡群（21）で称名寺式期の敷石住居跡が、雨壺遺跡では堀之内式期の竪穴住居跡が調査されている。当地域では中期、特に加曽利Ｅ式期の遺跡が多いことが指摘されている。

弥生時代では井野川流域において中期後半の遺跡が多く発見されており、浜尻Ａ・Ｂ地点遺跡（16・17）・浜尻組貝戸遺跡（18）・大八木富士廻り遺跡（15）・熊野堂遺跡・雨壺遺跡で遺構が調査されている。当該期の土器は従来竜見町式土器と呼ばれてきたが、近年では長野県に主分布する栗林式土器と同一とされることがある。後期樽式期になると遺跡数は増加傾向にあり、正観寺遺跡群・小八木志志貝戸遺跡（25）・諸口遺跡（13）・西浦北遺跡・西浦南遺跡（7）などで調査例がある。熊野堂遺跡や雨壺遺跡でも後期の遺構は調査されており、特に熊野堂遺跡での後期初頭の磨製石鏃製作址の調査事例は注目されている。墓域は福島富士腰南遺跡（4）で方形周溝墓とされる溝跡があり、小八木志志貝戸遺跡では複数の土器柏墓と併せて人面付き土器が出土している。As-C降下以前の遺構としては、熊野堂遺跡で前方後方形周溝墓や水田跡が調査されている。

古墳時代では前期の遺構が熊野堂遺跡や雨壺遺跡にあり、中～後期の遺構は正観寺遺跡群で調査されている。墓域は諸口遺跡に古墳群が存在しており、調査された円墳は後期の帰属が推定されている。生産域としては熊野堂遺跡・同遺跡（26）・御布呂遺跡（27）・浜川菅田貝戸遺跡（31）などでFA直下の水田跡が見つかっている。

奈良・平安時代では多くの集落遺跡の調査例があり、至近では大八木伊勢廻遺跡（第１次）（2）や雨壺遺跡で確認されている。当地域は『倭名類聚抄』による『群馬郡八木郷』であったと考えられている。とりわけ大八木屋敷遺跡（9）での掘立柱建物跡群は、『上野国交替実録帳』に見られる「八木院」に比定されている。さらに平安時代では推定東山道とされる道路状遺構もあり、「国府ルート」として認識されている(32)。生産域ではAs-Bによって被覆された水田跡が広範に調査され、大八木水田遺跡（14）のように条里制に基づいた水田跡の調査事例がある。

中世後半の当地域は在地領主長野氏の影響下にあったとみられ、熊野堂遺跡では館の堀と考えられる遺構が調査されている。近世には三国街道が当地域を縦貫し、中山道から分岐し越後へと至る主要な脇往還であった。




| | 遺跡名 | 主な時代 | | 遺跡名 | 主な時代 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 大八木・伊勢殿遺跡(第2次)/本報告書 | 縄文・弥生(中～後初頭)・古墳(前)・平安 | 17 | 武尻B地点遺跡 | 弥生(中～後初頭)・古墳 |
| 2 | 大八木伊勢殿遺跡(第1次) | 平安・中世 | 18 | 武尻堀口戸遺跡 | 弥生(中～後)・古墳(前)・平安・中世 |
| 3 | 岡平遺跡 | 旧石器時代遺物・縄文・弥生(中～後)・古墳(前)・平安 | 19 | 小八木遺跡 | 弥生(後)・古墳(後)・中世・水田(B・C下) |
| 4 | 福島西1期南遺跡 | 弥生(後)・平安 | 20 | 小八木宅地開発遺跡 | 弥生(後)・古墳・平安 |
| 5 | 熊野堂遺跡B | 縄文・弥生(中～後)・古墳(前)・平安 | 21 | 小観寺遺跡群 | 縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・推定東山道(D区) |
| 6 | 熊野堂遺跡 | 縄文・弥生(中～後)・古墳・奈良・平安・水田(C・FA下)・推定東山道 | 22 | 笠井遺跡 | 平安 |
| 7 | 西浦南遺跡 | 弥生(後)・古墳(後)・推定東山道 | 23 | 菅谷石塚遺跡 | 古墳・奈良・平安・中世・水田 |
| 8 | 西浦北遺跡 | 縄文・弥生(後)・古墳(中)・平安・中世 | 24 | 小観寺西原遺跡 | 弥生(後) |
| 9 | 大八木観音遺跡 | 奈良・平安・中世・近世・水田(C・FA下/C・FA上) | 25 | 小八木志志ヒ戸遺跡 | 弥生・古墳・奈良・平安・中世 |
| 10 | 観音寺遺跡 | 旧石器時代遺物・弥生(後)・奈良・平安・中世・水田(古墳時代) | 26 | 岡辺遺跡 | 水田(B・C・FA・FP表面下)・中世 |
| 11 | 福島遺跡 | 水田(B下) | 27 | 御殿川遺跡 | 平安・中世・水田(B・C・FA・FP下) |
| 12 | 大八木堀田地遺跡 | 縄文・古墳(前)・平安 | 28 | 菊崎遺跡群 | 古墳・平安 |
| 13 | 諸口遺跡 | 弥生(後)・古墳 | 29 | 上曽根八反田遺跡 | 平安 |
| 14 | 大八木水田遺跡 | As-B下水田 | 30 | 上曽根新田第1・II遺跡 | 古墳・平安 |
| 15 | 大八木東土居り遺跡 | 弥生(中)・水田(5世紀代) | 31 | 門前東戸遺跡 | 水田(C・FA・FP・B下)・畑(FA下) |
| 16 | 武尻A地点遺跡 | 古墳(前)・弥生(中～後初頭)・近世 | 32 | 推定東山道 | 平安(伝説ルート) |

第4図　周辺の遺跡

# Ⅳ．調査した遺構と出土遺物

## 1．遺跡の概要

本遺跡の調査面積は約 2,134㎡であり、縄文・弥生・古墳・平安の各時代に帰属すると考えられる遺構を調査した。他に中世以降の帰属と判断した遺構も複数あるが、これらには近世～現代の掘り込みも含まれている。また、調査した土坑の中には倒木痕跡と判断したものもある。ところで、本遺跡と南隣の雨壺遺跡との調査成果では、遺構の帰属する時代に極端な違いは無いとみられる。立地的にも同一遺跡としてとらえることができよう。雨壺遺跡からは旧石器時代の槍先型尖頭器が 1 点出土しているが、本遺跡では旧石器時代の遺物は出土しなかった。

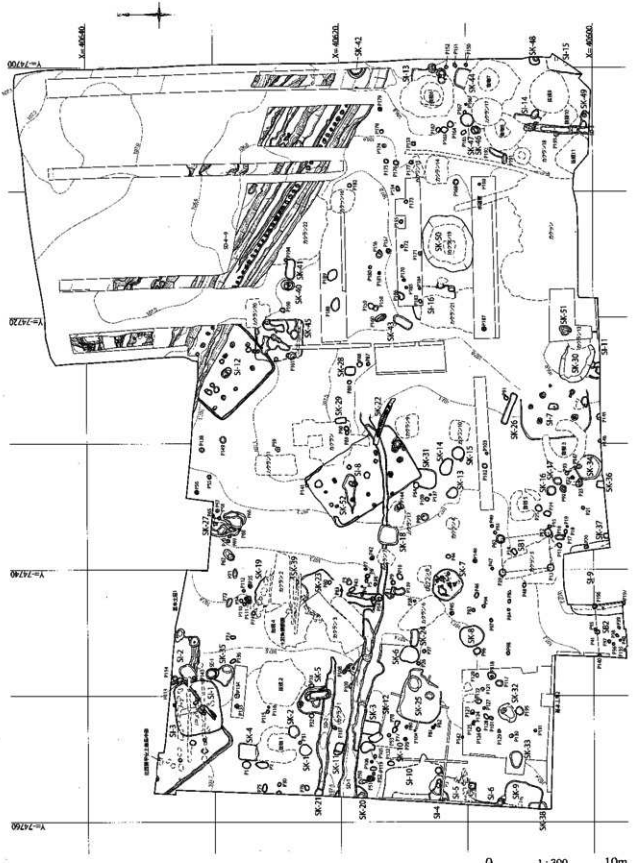
調査での遺構確認面は南東方向への緩い傾斜をもつ平坦面であったが、旧耕作による攪拌や宅地造成時の土の入れ替え等によって削平を受けている状況であった。そのため遺構の残存深度は浅いものが多く、既に滅失してしまった遺構もあると考えた。このことは調査区内での遺構分布状況を検討する際には考慮する必要がある。

縄文時代の遺構は 2 基の土坑であるが、出土遺物が無いため覆土の特徴からの判断である。弥生時代では竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑を調査した。竪穴住居跡の帰属時期は中期後半が 3 軒、後期初頭が 1 軒である。SI-3 での一括性の高い土器群や、SI-8 の磨製石鏃製作関連遺物の出土が注目される。古墳時代の遺構は竪穴住居跡と土坑であり、出土遺物や覆土の状況から全て前期に属すると考えた。平安時代の遺構は本遺跡で最も多く、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝を調査した。およそ 9 ～ 11 世紀の時間幅の中に収まると考えられる。中世以降とした遺構は覆土が As-B 混土であり、As-B 降下後から現代に至るまでの掘り込みである。ほとんどの遺構では時期判定し得る出土遺物が無いため、帰属時期を絞り込めない。印象としては近世～近現代の遺構が主体になると考えられ、近世陶磁器や現代遺物を出土する土坑も存在した。一方で中世まで遡る可能性のある遺構は SE-1 で、出土遺物からは中世後半頃に帰属する可能性が考えられる。これらの遺構のほかに、時期不明になってしまった土坑が 3 基、倒木痕跡と判断した土坑を 3 基調査している。ピットについては調査区内の全面で検出されており、覆土の観察結果から、前記した各時代に帰属すると考えた。

本報告書の遺構・図版では、ピット以外の遺構を各時代でまとめて掲載している。そのため調査時に任意の通番として設定した遺構番号と、本報告書での掲載順序は一致していない。このことは本報告書を通覧する上で煩雑になるとも思えるので、以下に遺構番号と帰属時期、掲載図版が対応する一覧表を掲げておく。

第 1 表　遺構番号対応一覧表

| 番号 | 時期 | 遺構掲載図版 | 番号 | 時期 | 遺構掲載図版 | 番号 | 時期 | 遺構掲載図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SI-1 | 古墳（前期） | 第 26・27 図 | SK-10 | 平安 | 第 34 図 | SK-37 | 不明 | 第 5 図（個別図版掲載無し） |
| SI-2 | 平安 | 第 31 図 | SK-11 | 縄文 | 第 6 図 | SK-38 | 弥生 | 第 16 図 |
| SI-3 | 弥生 | 第 9・10 図 | SK-12 | 近世以降 | 第 5 図（個別図版掲載無し） | SK-39 | 弥生 | 第 16 図 |
| SI-4 | 平安 | 第 31・32 図 | SK-13 | 縄文 | 第 6 図 | SK-40 | 平安 | 第 35 図 |
| SI-5 | 平安 | 第 32 図 | SK-14 | 中世以降 | 第 40 図 | SK-41 | 平安 | 第 35 図 |
| SI-6 | 平安 | 第 31・32 図 | SK-15 | 中世以降 | 第 40 図 | SK-42 | 現代 | 第 5 図（個別図版掲載無し） |
| SI-7 | 弥生 | 第 11 図 | SK-16 | 平安 | 第 34 図 | SK-43 | 中世以降 | 第 40 図 |
| SI-8 | 弥生 | 第 12・13 図 | SK-17 | 平安 | 第 34 図 | SK-44 | 平安 | 第 35 図 |
| SI-9 | 古墳（前期） | 第 27 図 | SK-18 | 弥生 | 第 16 図 | SK-45 | 平安 | 第 36 図 |
| SI-10 | 平安 | 第 32 図 | SK-19 | 弥生 | 第 16 図 | SK-46 | 平安 | 第 36 図 |
| SI-11 | 平安 | 第 33 図 | SK-20 | 弥生 | 第 16 図 | SK-47 | 平安 | 第 36 図 |
| SI-12 | 弥生 | 第 14 図 | SK-21 | 平安 | 第 35 図 | SK-48 | 平安 | 第 36 図 |
| SI-13 | 平安 | 第 33 図 | SK-22 | 近世以降 | 第 5 図（個別図版掲載無し） | SK-49 | 平安 | 第 36 図 |
| SI-14 | 平安 | 第 33 図 | SK-23 | 古墳（前期） | 第 28 図 | SK-50 | 倒木痕 | 第 5 図（個別図版掲載無し） |
| SI-15 | 平安 | 第 34 図 | SK-24 | 中世以降 | 第 40 図 | SK-51 | 平安 | 第 36 図 |
| SI-16 | 平安 | 第 34 図 | SK-25 | 平安 | 第 35 図 | SK-52 | 平安 | 第 12 図 |
| SB-1 | 弥生 | 第 15 図 | SK-26 | 中世以降 | 第 40 図 | SD-1 | 平安 | 第 37 図 |
| SB-2 | 平安 | 第 34 図 | SK-27 | 弥生 | 第 16 図 | SD-2 | 平安 | 第 37 図 |
| SK-1 | 平安 | 第 34 図 | SK-28 | 古墳（前期） | 第 28 図 | SD-3 | 平安 | 第 37 図 |
| SK-2 | 平安 | 第 34 図 | SK-29 | 古墳（前期） | 第 28 図 | SD-4 | 近現代 | 平面図配置せず |
| SK-3 | 中世以降 | 第 40 図 | SK-30 | 倒木痕 | 第 5 図（個別図版掲載無し） | SD-5 | 近現代 | 第 38 図 |
| SK-4 | 中世以降 | 第 40 図 | SK-31 | 弥生 | 第 16 図 | SD-6 | 近現代 | 第 38 図 |
| SK-5 | 平安 | 第 35 図 | SK-32 | 弥生 | 第 16 図 | SD-7 | 近現代 | 第 38 図 |
| SK-6 | 弥生 | 第 15 図 | SK-33 | 不明 | 第 5 図（個別図版掲載無し） | SD-8 | 平安 | 第 38 図 |
| SK-7 | 弥生 | 第 15 図 | SK-34 | 倒木痕 | 第 5 図（個別図版掲載無し） | SD-9 | 平安 | 第 38 図 |
| SK-8 | 弥生 | 第 15 図 | SK-35 | 平安 | 第 35 図 | SE-1 | 中世 | 第 40 図 |
| SK-9 | 古墳（前期） | 第 27 図 | SK-36 | 不明 | 第 5 図（個別図版掲載無し） | | | |


X=-62040
X=-62020
X=-62000
Y=-74700
Y=-74720
Y=-74740
Y=-74760
0
1:300
10m

第5図　全体図

## 2. 縄文時代

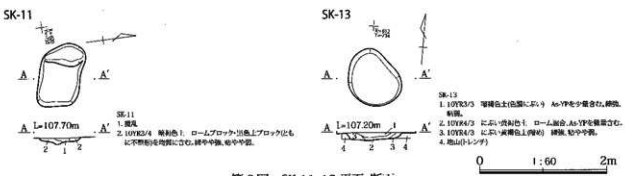
縄文時代の遺構と判断したのは２基の土坑である。その他、調査したピットの中にも当該期のものが含まれている可能性がある。調査区内での分布状況は極めて散在的である。

### (1) 土坑

SK-11・13の２基の土坑を調査した。どちらも遺物が出土していないため、覆土の状況から推測した。この覆土は別時代の遺構覆土とは明らかな違いがあり、隣接する雨壺遺跡の縄文時代遺構覆土と比較して、「粘質」の認識には相違があるものの、共通性があると判断したことから、縄文時代の遺構として扱った。

第２表　縄文時代の土坑一覧表　※規模欄の（　）＝残存値、〔　〕＝検討値、＜　＞＝推定値である。

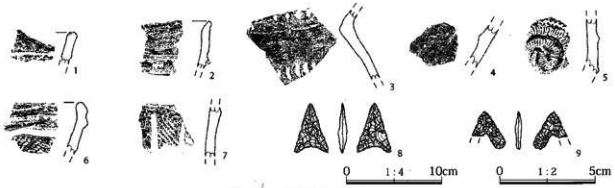
| 番号 | 位置 | 平面形態 | 長軸方位 | 規模（長×短×深）cm | 出土遺物 | ※被熱痕 | 調査所見 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK-11 | X=620・Y=755 | 不整円形 | N-75°-W | 100×64×9 | なし | なし | 底面は浅い皿状かあり、北西側の落ち込みは深さ17cm程度。 |
| SK-13 | X=612・Y=734 | 不整円形 | N-14°-W | 92×82×12 | なし | なし | 底面の起伏は少なく、平坦な状態である。 |




第６図　SK-11・13 平面・断面

### (2) その他の出土遺物（遺物第７図）

出土した縄文時代の遺物は、遺構外や別時代の遺構覆土に混入したものがほとんどである。深鉢破片を主体とし、わずかに浅鉢破片も認められる。時期的には中期が主体であり、阿玉台式期の破片が多い。他に勝坂式や加曽利Ｅ式期の破片が少量含まれる。雨壺遺跡では後期堀之内式期の遺構も調査されているが、本遺跡では明らかな後期の出土遺物は無い。打製石鏃は撹乱などからの出土であり縄風時期を判断し難いが、本項に掲載しておく。

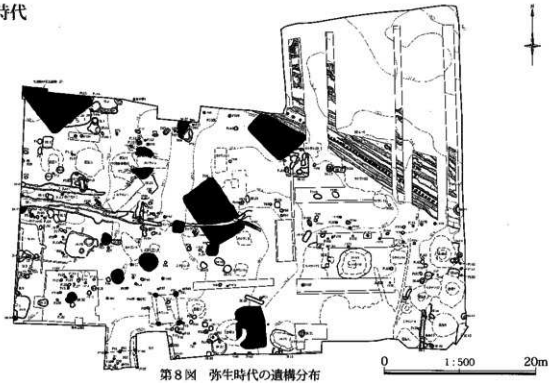



第７図　縄文時代の遺物

第３表　縄文時代遺物観察表　非測量欄の（　）＝残存値、〔　〕＝復元値を示す。単位は cm。

| 番号 | 出土遺構 | 出土位置 | 器種 | 胎土 | 底面 | 底面値 | 焼成 | 色調 | 成・整形技法の特徴など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | SI-8 | 覆土 | 深鉢 | 門前破片 | ―・―・(3.4) | 良好 | 良 | 褐色 | 波状口縁。押引文あり。阿玉台式。 |
| 2 | 表土 | | 深鉢 | 門前破片 | ―・―・(5.6) | 良好 | 良 | 黒褐色 | 波状口縁。口縁部と隆帯に沿って連続する押引文あり。阿玉台式。 |
| 3 | SD-6・9 | 谷底層 | 深鉢 | 雑破片 | ―・―・(7.5) | 良好 | 良 | 黒褐色 | 口縁部の形状は不整形に強く変化。阿玉台式。 |
| 4 | SI-1 | P3 覆土 | 浅鉢 | 口縁付近破片 | ―・―・(4.1) | 良好 | 良 | 褐色 | 内面に強い稜がある。阿玉台式？ |
| 5 | 表土 | | 深鉢 | 底付近破片 | ―・―・(3.8) | 良好 | 良 | 褐色 | 焼成による変色又は意つてキャビラー文を施文。勝坂式。 |
| 6 | SI-3 | 覆土 | 深鉢 | 口縁破片 | ―・―・(5.4) | 良好 | 良 | 褐色 | 口縁下の稜部に沿って連続する。地文は単節LR横位施文。加曽利Ｅ式。 |
| 7 | SK-10 | 覆土 | 深鉢 | 胴部片 | ―・―・(5.5) | 良好 | 良 | 赤褐色 | 稜線下に無節の平行沈線を等ドさせる。地文は単節RL横位施文か？加曽利Ｅ式。 |
| 8 | SD-5 | 覆土 | 打製石鏃 | 頁岩 | 長2.5cm・幅1.8cm・厚0.5cm・重1.2g・石材 | | | | チャート？ 備考：SD-5 出現代表 |
| 9 | 表土 | | 打製石鏃 | 凝灰 | 長1.8cm・幅1.8cm・厚0.3cm・重0.4g・石材 | | | | 加曽利 |

## 3. 弥生時代




第8図　弥生時代の遺構分布

弥生時代の遺構は竪穴住居跡4軒・掘立柱建物跡1棟・土坑11基を調査した。その他にピットの中にも弥生時代に帰属するものが含まれていると考えられる。遺物の出土した遺構は中期後半から後期初頭の時期が主体である。出土遺物の無い遺構は覆土からの推定であるが、おおよそ同時期の遺構であると考えた。表土や撹乱からは後期前半以降のの土器破片が出土しているものの、今回の調査では該当する時期の遺構が皆無のためである。

調査区内での遺構分布傾向は、西側に集中する傾向がある。特に竪穴住居跡の存在しないスペースに掘立柱建物跡や土坑が分布する。遺構確認面が削平されたことによる遺構の滅失は考慮せねばならないが、弥生時代の遺構は残存深度が浅いながらも安定的に残っていることから、滅失した遺構は少ないとみなした。

### (1)　竪穴住居跡

SI-3　(遺構第9・10図、遺物第17・18・19図)

**位置（座標）** 調査区北西隅（X=630・Y=-749付近）　**重複関係**　SI-1より古い。　**平面形態**　長方形か。調査区外へと連続するため、全容は不明。　**規模**　東西6m85cm・南北7m63cm（検出長）　**深度**　10cm　**主軸方位**　N-37°-W　**床面の状況**　比較的平坦であり、部分的に硬化が強い。　**柱穴の状況**　P1・2・3・8が主柱穴になると考えられる。南東壁下のP4・6は対になり、出入り口に関わるものとみられる。　**周溝**　南東壁下で断続的となるが、それ以外では連続して廻る。　**炉**　明確でない。おそらく調査区外に存在すると思われる。ただしP9の覆土中に焼土が存在しており、補助的な炉であった可能性もある。　**掘り方**　床面からの深度は浅く凹凸がある。場所によっては地山が床面になる。　**出土遺物**　複数個体の壺・甕・高坏か鉢・小型土器・砥石・扁平片刃石斧などが集中的に出土した。　**調査所見**　本遺構の北西部分は調査区外であるため全容は不明であるが、およそ半分を調査したと思われる。覆土中には焼土や炭化物が含まれており、南西壁付近と北東壁付近では焼土化が顕著であった。焼失住居跡と考えるが、明確な炭化材の出土は無い。出土遺物は多く、北西隅付近で集中的に出土した。全体的には床面から若干浮いた状態であるが、床面直上遺物との接合関係は確認できる。床面より上の遺物については焼土ブロックと同一レベルでの出土であり、全てではないが被熱痕跡のある遺物も含まれる。よって出土遺物は本住居跡に伴うものと判断しており、一括性の高い良好な資料として位置付けられる。遺構上位は耕作による攪拌を受けており、本来的な遺物量はさらに多かったと考えられる。**時期**　弥生時代中期後半

SI-7 （遺構第 11 図、遺物第 20・21 図）

**位置（座標）** 調査区中央南端（X=600・Y=-729 付近） **重複関係** なし **平面形態** 隅丸長方形か。東側削平のため全容不明。 **規模** 東西 3m48cm（残存長）・南北 5m54cm **深度** 11cm **主軸方位** N-7°-W **床面の状況** 地山を床面とする。比較的平坦で、硬化は弱い。南壁下付近ではローム混土による盛り上がりがあり、この上面は硬化が強めであった。 **柱穴の状況** P1・2・3・4 が主柱穴と考えられる。南壁下には小土坑状のＰ６がある。 **周溝** なし **炉** 床面のほぼ中央で検出した。浅い掘り込みで、火床の被熱痕跡を確認できる。

**掘り方** なし **出土遺物** 比較的出土量が多い。壺・甕・高坏か鉢・磨製石鏃・管玉などが出土した。 **調査所見** 東側壁面は削平によって失われる。さらに西壁の一部は抜根撹乱によって壊されている。覆土は被熱によって焼土化する部分があり、焼失住居跡と考えられる。炭化材の出土がわずかに認められたが、断片的であり、上屋構造の推定には至らない。遺物は床面より若干浮いた状態で出土しており、焼土とほぼ同一レベルである。壺・甕を主体としつつ、高坏か鉢と考えられる赤彩土器も含まれている。出土した土器群の一括性は高いと判断でき、本住居跡に伴うものと考えた。本来的にはさらに多くの遺物が存在したと思われるが、削平によって失われたのであろう。さらに炉内からも多くの土器が出土したが、炉に直接的に伴うものではないと考える。炉底面に土器片を敷き詰めていた状況でもなく、灰の確認もできなかった。他に主柱穴 P3 覆土中からは磨製石鏃が出土し、南壁下付近からは管玉の出土もあった。管玉については表土に含まれていた可能性があり、確実に本住居跡に伴うものかは判断し難い。 **時期** 弥生時代中期後半

SI-8 （遺構第 12・13 図、遺物第 21・22 図）

**位置（座標）** 調査区ほぼ中央（X=618・Y=-736 付近） **重複関係** SK-31 より新しく、SD-1・SK-22・SK-52 より古い。 **平面形態** 長方形 **規模** 東西 5m13cm・南北 7m90cm **深度** 14cm **主軸方位** N-34°-W **床面の状況** P1・2・3・4 が主柱穴と考えられる。P16・18 は南壁下付近に位置する対ピットである。P5 の周囲はローム混土によって土手状に盛上げられる。 **周溝** 床面精査段階では北西隅と北東隅で部分的に認識したのみであった。しかし、掘り方の調査によって壁下で連続的に全周することが判明した。床面精査段階では意識的な確認を行っているが、プランを認識できなかったものである。提示した平面図は床・掘り方での検出状態を示しており、合成は行わなかった。 **炉** 床面中央北寄りで検出した。SK-52 によって壊され、残存状態は不良である。不整形の浅い掘り込みであり、火床の被熱痕跡が認められる。炉石が 1 石出土した。 **掘り方** 床面からの深度は浅く、底面には凹凸がある。複数の小ピットが見つかり、Ｐ 19 は斜めの掘り込みである。この調査段階で周溝の大部分を確認した。 **出土遺物** 出土量は少なく、全形を復元しうるものも少ない。壺・甕・高坏・台石・磨製石鏃製作関連遺物などが出土した。 **調査所見** バックホーのバケット爪痕などによって壊される。出土した磨製石鏃製作関連遺物は床面に近い覆土中のものが多く、床面に密着して散らばる状態ではない。大半はチップ類であるが、中には加工痕跡のある素材や大振りの素材も含まれる。石材には種類があり、単一ではない。調査時の覆土は床面上 10cm 程度が残されており、調査開始時にチップ類の存在を確認できたことから、これを全量回収して篩がけを行った。出土したチップ類の合計重量は約 4.3g である（掲載遺物は除く）。覆土の回収はグリッド（1 × 1m）ごとに行い、住居跡中央から南東側半分に出土の集中傾向があった。 **時期** 弥生時代後期初頭

SI-12 （遺構第 14 図、遺物第 23 図）

**位置（座標）** 調査区中央北寄り（X=631・Y=-725） **重複関係** SD-5・SK-45 より古い。 **平面形態** 隅丸長方形 **規模** 東西 4m76cm・南北 6m43cm **深度** 5cm **主軸方位** N-45°-W **床面の状況** 宅地造成時の削平により、遺構確認段階で北側の床面はすでに露出していた。平坦だがやや南に傾斜する。硬化は弱い。 **柱穴の状況** P1・2・3 が主柱穴と考えられる。南西壁下付近の P12・14 は対ピットである。ただし、P14 は床面調査時に見落としており、掘り方調査時に検出した。写真記録を見ると、明らかに床面からの掘り込みである

ことがわかる。P12・14 には柱痕跡が認められ、南側に傾く状況を観察できた。 **周溝** 全周する。 **炉** 床面ほぼ中央で検出した。楕円形の掘り込みで、炉石として 3 石が配置される。また P13 内にもわずかな被熱痕跡があり、補助的なものであった可能性がある。 **掘り方** 床面からの深度は浅く、底面には凹凸がある。 **出土遺物** P2 付近に集中しており、壺・鉢などが出土した。 **調査所見** 覆土中に焼土層があり、焼失住居跡と考えられる。焼土は南隅付近で集中的に確認したが、削平によって北側の覆土が存在しないため、全体的な焼土分布状況は不明瞭である。確認した焼土直下には炭化物が散在的に認められた。このことから上屋根であった可能性を指摘できる。P2 付近で集中的に出土した遺物は床面直上のものが多く、焼土層よりは下位に位置する。
**時期** 弥生時代中期後半

## (2) 掘立柱建物跡

**SB-1** (遺構第 15 図)

**位置(座標)** 調査区南西寄り(X=605・Y=-737 付近) **重複関係** なし **平面形態** 長方形 **規模(柱穴心々)** 東西 2m76cm・南北 3m75cm **柱穴深度** P12・29cm/P13・24cm/P29・48cm/P62・36cm **長軸方位** N-7°-W **出土遺物** なし **調査所見** 4 本柱の南北棟建物跡である。出土遺物は無いが、覆土の特徴から弥生時代の遺構と判断した。中期後半から後期初頭の時期を推定する。柱穴の土層断面観察では、明確に柱痕の確認はできない。 **時期** 弥生時代

## (3) 土坑 (遺構第 15・16 図、遺物第 23・24 図)

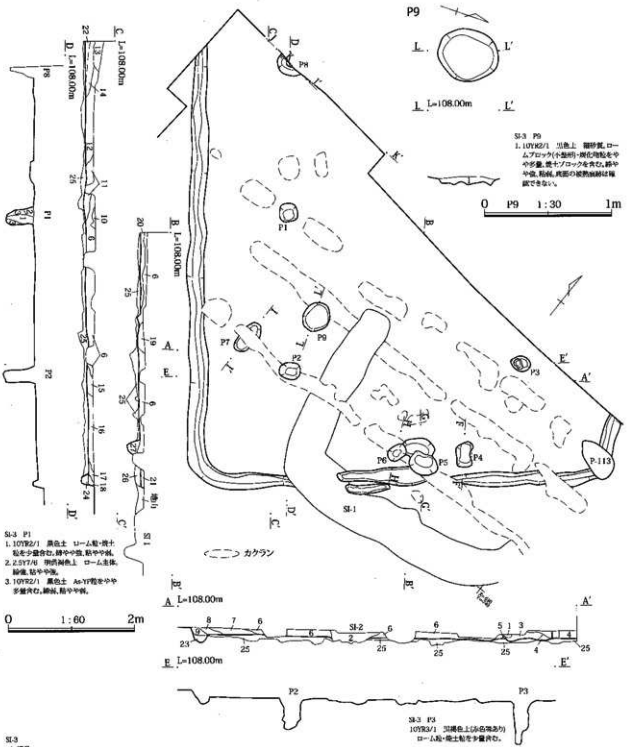
土坑は 11 基を検出した。SK-7 以外は出土遺物が乏しい。多くの平面形態は円形基調として共通的であるが、性格は特定し難い。墓坑の可能性も考慮して調査したが、根拠を得ることはできなかった。覆土に焼土や炭化物粒が混じるものや、SK-18 のように特徴的な混入物が含まれているものがある。

第 4 表 弥生時代の土坑一覧表 ※規模欄の( )=残存値、〔 〕=検出値、< >=推定値である。

| 番号 | 位置 | 平面形態 | 長軸方向 | 規模(長×短×深)cm | 出土遺物 | 重複関係 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK-6 | X=615・Y=-746 | 歪んだ円形 | N-20°-W | 152 × 141 × 11 | 弥生 | なし | 壁キに は焼土粒と炭化物粒を少量含む層がある。底面はわずかに起伏がある。 |
| SK-7 | X=611・Y=-740 | 歪んだ円形 | N-55°-W | 248 × 237 × 8 | 弥生 | なし | 底面には緩やかな起伏があり、小ピットを含む凹凸がある。遺物は出土しり ぃたが、比較的 ぃ。 |
| SK-8 | X=609・Y=-746 | 歪んだ円形 | N-15°-E | 191 × 159 × 9 | 弥生 | なし | 壁 に焼 ぃ粒と炭化物粒を多く含む層が、底面中央部には明瞭な被熱痕跡が認め ぃ。底面には小ピットによる凹凸が多 ぃあるが、低穴の可能性は低い。 |
| SK-18 | X=617・Y=-738 | 歪んだ隅丸方形 | N-85°-W | 155 × 154 × 10 | 弥生 | SB-1 より古 | 壁キに焼キブロックや炭化物粒を含み、炉の含有が認められる層もある。また他キブロックと炭化物粒が混じる部分がある。骨片のようにもみえる細いものが検出物出土している。これらは分析をしていないため、詳細不明。底面は平滑な硬キで、壁面も含めて被熱痕跡は認められない。 |
| SK-19 | X=627・Y=-742 | 楕円形か | N-90°-E | 269 × (113) × 10 | 弥生・土師・須恵 | 掘乱あり | 掘乱によって大きく削平が進むため、遺構の全容は不詳である。SK-39 と同一遺構である可能性が高い。その場合、長軸 4m20cm 以上の楕円形土坑が復元できる。出土遺物の特徴・調査順は第 6 表にから掲入した掘乱と推測される。 |
| SK-20 | X=619・Y=-758 | 歪んだ円形か | N-3°-E | 257 × (95) × 13 | 弥生・須恵 | SB-1 より古 | SB-1 によって中央部が壊されま。底面形状は不明瞭。上層断面の観察では「炉」時代土坑が重複していたと考えられ、1 点のみ出土した石器類の時期はこの中期土坑であろう。 |
| SK-27 | X=628・Y=-737 | 不整形 | N-15°-E | [224] × 140 × 32 | なし | P-56 より古 | 平面形は見わ ぃない。一応楕円形を想定する。 |
| SK-31 | X=613・Y=-732 | 隅丸方形 | N-9°-E | (183) × 154 × 14 | 弥生 | SB-8・P-64 より古 | 底面には凹ぃ起伏があるものの、平行 ぃ状である。壁土の金属片 ぃを行い、掘ぁげ上ぁ、特筆できる出土遺物はない。 |
| SK-32 | X=607・Y=-752 | 不整形 | N-52°-E | 156 × <120> × 27 | 弥生 | なし | 底面、P-135 を含めた矩形を不 ぃ土坑として認識していたため、南壁部分を掘り直せた。平面形態は不 ぃ。ピット状の部分、断面形態は中央部へと浅くなる傾向があり、底面には起伏がある。 |
| SK-38 | X=604・Y=-759 | 隅丸方形か | N-90°-E | [37] × (56) × 15 | 弥生 | SK-9 より古 | 遺構の全容は不明。SK-9 断面図側の方形土坑と連なるような印象 ぃ。壁キに焼キ粒が ぃ。 |
| SK-39 | X=627・Y=-742 | 楕円形か | N-83°-E | 252 × (145) × 12 | 弥生 | SK-23 より古 | SK-23 や新作図、掘乱によって破壊され、全容は不明である。SK-19 と同一遺構の可能性がある。 |

## (4) その他の出土遺物 (遺物第 24 図)

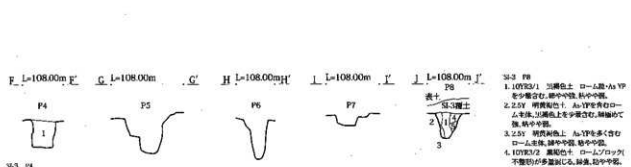
弥生時代の遺物には、表土・撹乱などの遺構外や別時代の遺構覆土に含まれたものが存在する。中期後半の破片が多いが、後期初頭が少量、後期前半以降の遺物も少量出土している。後期前半以降の遺構は今回検出していないため、付近からの混入が考えられる。また、樹木の抜根痕(抜根 4)には中期後半の土器破片が集積している部分があった。これは抜根時に出土した土器破片が一個所にまとめ置かれたものと理解したが、本来的には SK-39 に含まれていたのかもしれない。



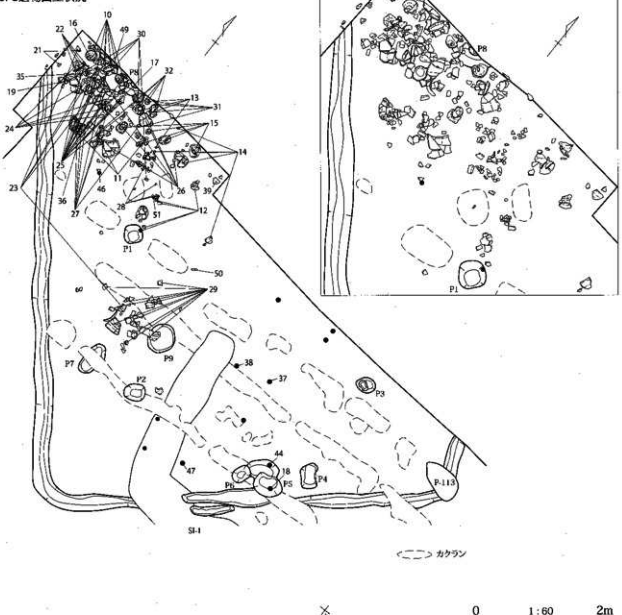

SI-3

1. 表土
2. 10YR3/1 黒褐色土 As-Cを多量、ロームブロック(φ1～2cm)を少量含む。締やや強、粘弱。(SI-1に伴う)
3. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒を多量、ロームブロック(φ3cm)をまばらに、焼土粒を少量含む。締やや強、粘弱。
4. 7.5YR2/2 黒褐色土(色調に不(赤色味あり) ロームブロック(φ5mm)をやや多量、焼土粒を少量含む。締やや強、粘やや強。
5. ロームブロック
6. 10YR3/2 黒褐色土(赤色味あり) 炭化物を少量、焼土粒を微量含む。締やや強、粘弱。
7. 10YR2/1 黒色土 ローム粒を少量、焼土粒をやや多量含む。締やや強、粘弱。
8. 10YR2/1 黒色土 ローム粒・焼化物粒を多量含む。締やや強、粘弱。
9. 10YR3/3 明褐色土(黄色味あり) ローム粒をやや多量含む。締やや弱、粘弱。
10. 10YR3/2 黒褐色土 焼土粒を多量含む。締強、粘やや弱。
11. 10YR2/1 黒色土(赤やや明るい) 焼土粒を少量含む。締やや強、粘弱。
12. 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ1cm)・焼土粒を少量含む。締やや強、粘やや弱。
13. 10YR3/1 黒褐色土 焼土粒を少量含む。
14. 10YR2/1 黒色土 ローム粒を少量含む。締やや強、粘やや弱。
15. 10YR3/1 黒褐色土(赤色味あり) 焼土粒・炭化物粒を少量含む。締やや強、粘やや弱。
16. 10YR2/1 黒色土 12層に似る。ローム粒を少量含む。締やや強、粘やや強。
17. 10YR3/2 黒褐色土(色調に近い) ローム粒を少量含む。締やや弱、粘やや強。
18. 10YR3/2 黒褐色土(色調に近く赤色味あり) ローム粒を少量含む。締やや強、粘やや強。
19. 10YR2/1 黒色土 As-Cを少量、ロームブロック(φ5mm～1cm)を多量含む。締やや強、粘やや弱。(SI-1の覆土)
20. 10YR2/1 黒色土 炭化物をやや多量含む。締やや強、粘やや弱。
21. 10YR3/2 黒褐色土 焼土ブロック(φ1cm)、炭化物粒を少量含む。締やや強、粘やや弱。
22. 由十遺物多数。分解できず。
23. 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ1cm)・炭化物・焼土粒を少量含む。締やや強、粘やや弱。
24. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒をやや多量、炭化物粒を微量含む。粘やや強、粘やや弱。
25. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒を多量、焼土ブロック(φ5mm)を微量含む。締やや強、粘やや弱。
26. 埋土(掘れ)
27. 自然掘れ(ピット)

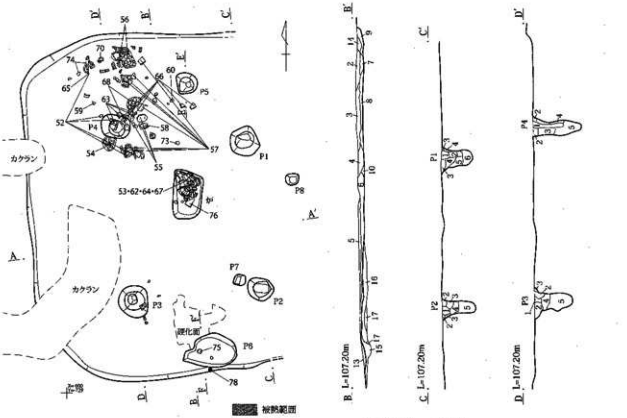
第９図　SI-3 平面・断面




SI-3遺物出土状況




第10図 SI-3 断面・遺物出土状況




SI-7 P1
1. 10YR2/1 三色土 ローム粒を微量含む。粘性やや強、粘性やや強。
2. 10YR2/1 黒色土 As-YPを多量含む。粘性やや強、粘性やや強。
3. 2.5Y7/6 明褐灰色土 ローム中体。As-YPを極めて多量含む。黒褐色土が混じる。粘性やや強、粘性。
4. 10YR2/1 三色土 ローム粒・As-YPをやや多量含む。粘性やや強、粘性やや強。
5. 10YR2/1 三色土 As-YP微集ブロックを含む。粘性やや強、粘性やや強。
6. 5層に似るが、As-YP微集ブロックの含有量が多い。

SI-7 P2
1. 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ 5mm)・焼土粒を少量含む。粘性やや強、粘性やや強。
2. 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック・As-YP微集ブロックを多量含む。粘性やや強、粘性やや強。
3. 10YR2/1 黒色土 ローム粒を微量含む。粘性、粘性やや強。
4. 10YR2/1 黒色土 As-YP微集ブロックを多量に含む。粘性やや強、粘性やや強。
5. 10YR2/1 黒色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒を少量、焼成粒に含む。粘性やや強、粘性やや強。
6. 10YR2/1 黒色土 As-YP微集ブロックの含有量が少ない。

SI-7 P3
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。粘性、粘性やや強。
2. 10YR3/1 黒褐色土 As-YP含有ロームブロック(不整形)を少量含む。粘性、粘性やや強。
3. 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒を少量、焼成粒に含む。粘性やや強、粘性やや強。
4. 10YR2/1 黒色土 As-YP・ロームブロック(φ 5mm〜不整形)を多量含む。粘性、粘性やや強。
5. 10YR2/1 黒色土 As-YP・ロームブロック(φ 5mm〜不整形)を多量含む。粘性、粘性やや強。
6. 10YR2/1 三色土 As-YP微集ブロックを多量含む。粘性やや強、粘性やや強。

SI-7 P4
1. 10YR2/1 三色土 ローム粒・As-YPを微量含む。粘性、粘性やや強。
2. 10YR2/1 黒色土 As-YP含有ロームブロックを極めて多量含む。粘性やや強、粘性やや強。
3. 2.5Y7/6 明褐灰色土 二次焼被の As-YP上体。粘性やや強、粘性。
4. 10YR2/1 黒色土 As-YP微集ブロックを多量含む。粘性やや強、粘性やや強。

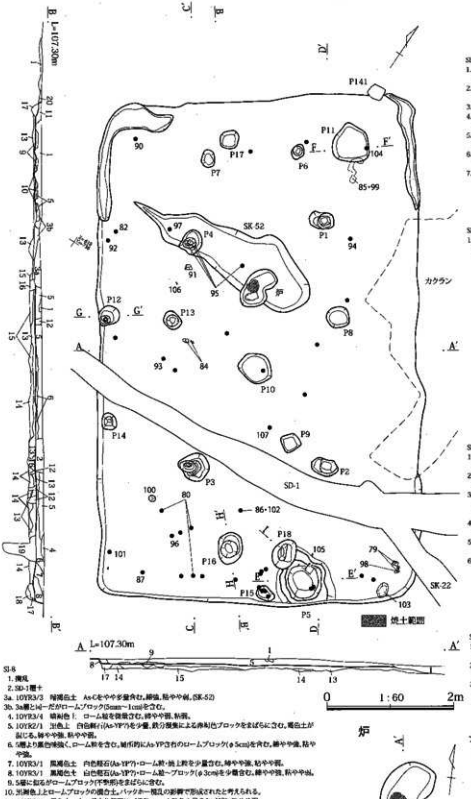
SI-7 P5
1. 10YR3/1 三黒色土 ローム粒・焼土粒をやや多量、炭化物を微量含む。粘性やや強、粘性やや強。
2. 10YR2/1 黒色土 ローム粒・As-YPをやや多量含む。粘性やや強、粘性やや強。
3. 10YR2/1 黒色土 ローム粒・As-YPをやや多量含む。粘性やや強、粘性やや強。
4. 10YR2/1 黒色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒を少量含む。粘性やや強、粘性やや強。
5. 10YR2/1 黒色土 As-YP微集ブロックを多量含む。粘性やや強、粘性やや強。
6. 地山(ピットの壁)

SI-7 P6
1. 10YR2/1 三色土 ロームブロックを局所的に含む。粘性、粘性やや強。
2. 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロックを含む。粘性やや強、粘性やや強。

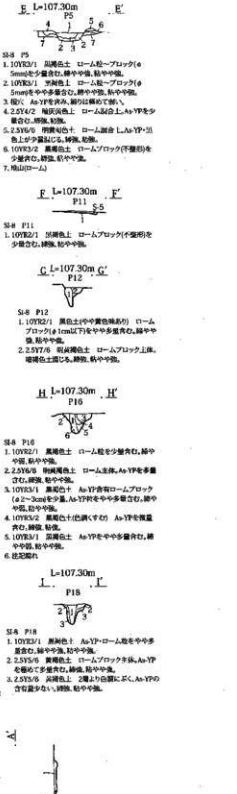
SI-7 P8
1. 10YR2/1 三色土 ロームブロックを局所的に含む。粘性、粘性やや強。

SI-7
1. 表土
2. 10YR2/1 黒色土 焼土粒・ブロックを少量含む。粘性やや強、粘性やや強。
3. 10YR3/1 黒褐色土 焼土粒・ブロックを少量含む。粘性やや強、粘性やや強。
4. 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ 1cm)を少量含む。粘性やや強、粘性やや強。
5. 10YR2/1 三色土 焼土粒・ブロックを少量含む。粘性やや強、粘性やや強。
6. 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ 1cm)を多量含む。粘性やや強、粘性やや強。
7. 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(φ 5mm)を少量含む。粘性やや強、粘性やや強。
8. 10YR2/1 黒色土 ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。粘性、粘性やや強。
9. 10YR3/1 黒褐色土 焼土粒・ブロックを少量含む。粘性やや強、粘性やや強。
10. 8層に似るが焼土粒を含まない。
11. 10YR3/2 黒褐色土(被熱部) ロームブロック(不整形)を多量混入する。粘性、粘性。
12. 9層に似るがロームブロックがやや多い。
13. 10YR3/2 三黒色土 ローム粒・ブロック(φ 5mm)をやや多量含む。粘性やや強、粘性。
14. 住居跡1のたぼ。焼土ブロックをやや多量含む。
15. ピットのくぼみ(掘り方)
16. 10YR3/1 三黒色土 上層に不整形のロームブロックを多量含む。炭化は確認しない。粘性、粘性やや強。(掘り方)
17. 地山

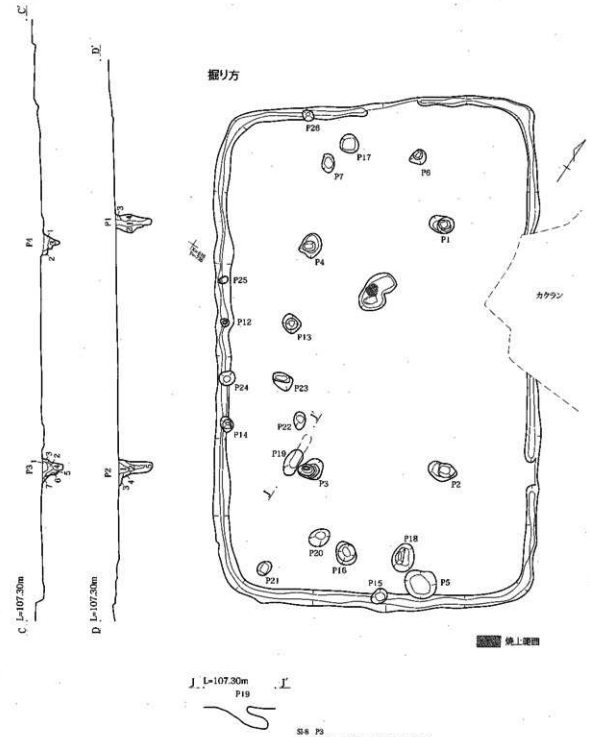
第11図 SI-7 平面・断面




SI-8
1. 表土
2. SD-1 溝＋
3a. 10YR3/2 暗褐色土 As-Cを中少量含む、締強、粘やや弱、(SK-52)
3b. 3a層と同一だがロームブロック(5mm～1cm)を含む。
4. 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を微量含む、締やや弱、粘弱。
5. 10YR2/1 黒色土 白色軽石(As-YP?)を少量、鉄分斑集による沖刻色ブロックをまばらに含む、褐色土が混じる、締やや強、粘やや弱。
6. 5層より黒色味強く、ローム粒を含む、結果的にAs-YP含有のローム、ブロック(φ 5cm)を含む、締やや強、粘やや強。
7. 10YR3/1 黒褐色土 白色軽石(As-YP?)・ローム粒・焼土粒を少量含む、粘やや強、粘やや弱。
8. 10YR3/1 黒褐色土 白色軽石(As-YP?)・ローム粒ブロック(φ 3cm)を少量含む、締やや強、粘やや弱。
9. 5層に似るがローム(ブロック)不明瞭をまばらに含む。
10. 黒褐色土とローム(ブロック)の混合土、パッチが一様に斑状で形成されたと考えられる。
11. 10YR2/1 黒色土 白～黄白色軽石(As-YP?)・ローム粒を少量含む、締強、粘やや弱。
12. 欠代
13. 10YR3/1 黒褐色土 As-YP斑集ブロック含む、ローム混じる、締やや強、粘やや強、床面の硬化はあまり強くない。(掘り方)
14. 2.5Y3/4 黄褐色土 地山しくずん状色調のローム。(掘り方)
15. 2.5Y4/6 オリーブ褐色土 ローム混じる、締強、粘やや強、(掘り方)
16. 10YR2/1 黒色土 As-YPとAs-YP斑集ブロックを少量含む、締強、粘やや強、(掘り方)
17. 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ローム混じる、締やや強、粘やや強、(埋戻)
18. 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(φ 5mm～1cmをやや多量含む、締やや強、粘やや強、(埋戻)
19. P148
20. 地山




第12図 SI-8 平面・断面




SI-8 P1
1. 10YR2/1 黒色土 ローム粒を少量含む。締やや強、粘やや強。(焼砂)
2. 10YR2/1 三色土 ロームブロック(φ5mm~1cm)を中間に中や多量含む。締何所にロームブロック(φ2mmを含む。締強、粘やや強。
3. 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒を少量含む。締強、粘やや強。
4. 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(中形)を多量含む。締やや強、粘やや強。

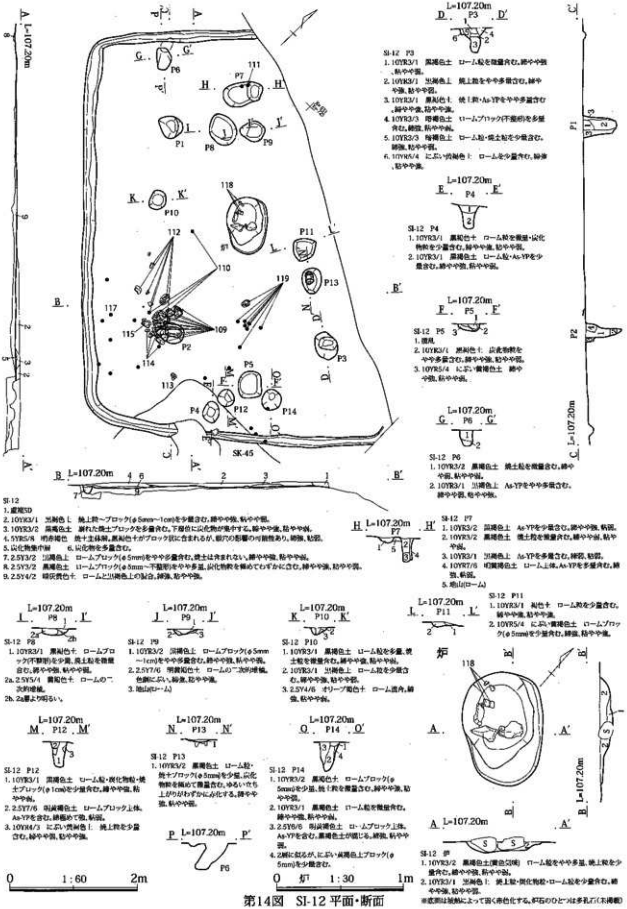
SI-8 P2
1. 10YR3/2 黒褐色土 炭入物少ない。締やや弱、粘やや強。(焼砂)
2. 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ5mm~1cm)を少量含む。締やや強、粘強。(焼砂)
3. 10YR3/3 暗褐色 ローム粒~ブロック(不形形)を少量含む。締強、粘やや強。
4. 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒が多量混じる。締やや強、粘やや強。
5. ローム色(6) ピットの壁に例当する。掘り過ぎではない。

SI-8 P3
1. 10YR3/2 三黒色土 締やや弱、粘やや強。
2. 10YR2/1 黒色土 炭入物少ない。締やや弱、粘やや強。
3. 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒を微量含む。締やや強、粘やや強。
4. 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ5mm)を微量含む。締やや強、粘やや強。(焼砂)
5. 10YR2/1 三色土 ロームブロック(φ5mm)を少量含む。締やや強、粘やや強。
6. 10YR3/1 黒褐色土 Au-TPとAu-TPの複合ブロックを含む。締弱、粘やや強。
7. 詳記録れ。

SI-8 P4
1. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。締やや強、粘やや強。
2. 10YR2/1 三色土 ローム粒を微量含む。締強、粘やや強。
3. 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ5mm~1cm)を少量含む。締やや強、粘やや強。

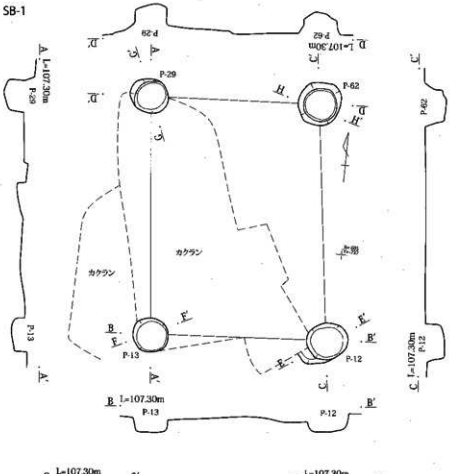
0 1:60 2m

第13図 SI-8 断面・掘り方




第14図 SI-12 平面・断面

SB-1




E L=107.30m P-12 E'

P-12
1. 10YR3/2 黒褐色土(色調にぶい) ローム粒を少量含む、締やや強、粘やや弱、(本段ピット)
2. 10YR3/3 暗褐色土(黄色笠状) ロームブロック(φ1cm)を微量含む、締やや強、粘やや弱、(直線ピット)
3. 10YR2/1 黒褐色土 白色軽石(As-YP?)を少量含む、締やや強、粘やや強。
4. 10YR2/1 黒色土 白色軽石(As-YP?)を少量含む。締やや強、粘やや強。
5. 10YR2/1 黒色土 As-YP微細ブロック(φ1cm～不整形)をやや多く含む。締やや強、粘やや強。
6. 10YR3/2 黒褐色土(やや赤色系)極 As-YPを少量、ロームブロック(φ1cm)をやや多く含む。締やや強、粘やや強。

F L=107.30m P-13 F'

P-13
1. 概況
2. 10YR2/1 黒色土 ローム粒・As-YPを少量含む。締やや強、粘やや強。
3. 2層上5As-YPを多く含む。
4. 10YR2/1 黒色土 As-YPを含むが2層ほどうるさくない。締やや強、粘やや強。
5. 10YR2/1 黒色土(白色味強い) 黄土粒を微量、As-YPをやや多く含む。締強、粘やや強。
6. 10YR3/1 黒褐色土 As-YPを多量含む。締弱土、粘やや強。

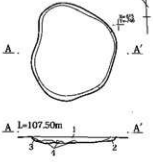
C L=107.30m P-29 C'

P-29
1. 概況
2. 10YR2/1 黒色土 ローム粒・焼土粒を微量含む、締やや強、粘やや強。
3. 10YR2/1 黒色土 As-YPを微めて多量含む。締やや強、粘やや強。
4. 10YR2/1 黒色土(青色味あり) As-YPを多量含む。締強、粘やや強。
5. 10YR2/1 黒色土 As-YPを少量含む。締強、粘やや強。
6. 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒をやや多量含む。締強、粘やや強。
7. 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ3cm土粒)を多量含む。締微めて強、粘やや強。
8. 10YR2/1 黒色土 As-YPを少量含むが、混入物は少なめ。締やや強、粘やや強。柱痕状。

H L=107.30m P-62 H'

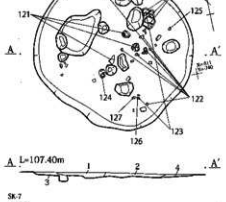
P-62
1. 10YR3/1 黒褐色土 黒白色軽石(As-YP?)を少量、焼土粒をわずかに含む。締強、粘やや強。
2. 10YR3/1 黒褐色土 黒白色軽石(As-YP?)を少量、混ったロームブロックをやや多量含む。締強、粘やや強。
3. 10YR2/1 黒白色軽石(As-YP?)・ロームR～ブロックを少量含む。締やや強、粘やや強。

SK-6



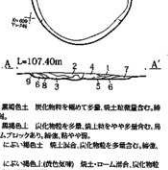

SK-6
1. 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒～ブロック(φ1cm以下)をやや多く、焼土粒・炭化物粒・黒白色軽石(As-YP?)を少量含む。締強、粘やや弱。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土(暗めの) ローム粒を多量含む。締強、粘弱。
3. 10YR4/2 にぶい黄褐色土(暗めの) 2層に似るが、ローム粒少ない。
4. 10YR6/8 明黄褐色土 ロームブロック主体。

SK-7




SK-7
1. 概況
2. 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒・As-C粒・As-YPをやや多く含む。締強、粘やや強。
3. 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(不整形)をやや多量、As-YPを少量含む。締強、粘やや弱。
4. 10YR3/4 暗褐色土 As-Cを微量、As-YPを少量含む。締弱、粘やや弱。

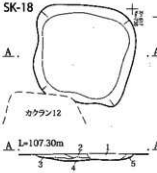
SK-8



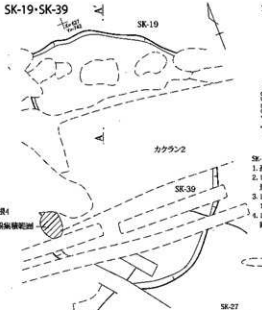

SK-8
1. 10YR2/3 黒褐色土 焼化物粒を極めて多量、焼土粒微量含む。締強、粘やや弱。
2. 10YR2/3 黒褐色土 炭化物粒を多量、焼土粒をやや多量含む。局所的にロームブロックあり。締強、粘やや弱。
3. 7.5YR5/4 にぶい褐色土 焼土粒合、炭化物粒を多量含む。締強、粘やや強。
4. 7.5YR5/3 にぶい褐色土(灰色気味) 焼土・ローム混合、炭化物粒をやや多量含む。締強、粘弱。
5. 焼土とローム2種褐色土の混合土。締強、粘弱。
6. 明褐色土とロームの混合土。炭化物粒をやや少量含む。締強、粘弱。
7. 10YR3/3 暗褐色土 焼化物粒・ローム粒を少量含む。締強、粘弱。
8. 10YR3/3 暗褐色土 焼化物粒を極めて多量含む。締強、粘弱。
9. 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を微量含む。締強、粘弱。

0 1:60 2m

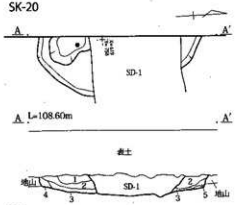
第15図 SB-1・SK-6・7・8 平面・断面




SK-18
1. 10YR3/3 暗褐色十 As-C・ローム粒を少量、極上ブロック(φ1cm)を局所的に含む、粘やや強、粘やや弱。
2. 10YR2/1 黒色土 焼土粒を少量含む、締やや弱、粘やや弱。
3. 10YR2/1 黒色十 焼十粒～ブロック(不整形)をやや多量、炭化物粒を少量含む、焼ブロック部分に軟質白色物質確認する、締やや強、粘やや強。
4. 10YR3/2 黒褐色十(黄色味あり) 焼土粒～ブロック(φ1cm)・炭化少量含む、粘やや強、粘やや強。
5. 10YR3/2 黒褐色土 焼土粒～ブロック(φ1cm以下)・ローム粒～ブロック(φ1cm)を少量含む、締やや強、粘やや強。

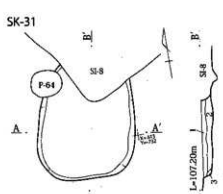



SK-19
1. 撹乱(耕作溝)
2. 10YR2/1 黒色土 ローム粒・焼十粒を少量含む、締やや強、粘やや弱。
3. 10YR2/1 黒色土 ローム粒～ブロック(φ1cm前後)を少量含む、締やや強、粘やや強。
4. 10YR2/1 黒色十 ローム粒を多量含む、締やや弱、粘やや弱。

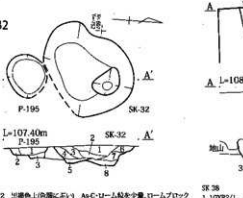



SK-20
1. 10YR3/3 暗褐色土 As-C を少量、ローム粒を微量含む、締やや弱、粘強。(間種ヤ宝土抗か?)
2. 10YR2/1 黒色十(色調にぶい) 焼土粒を微量含む、締やや弱、粘やや弱。
3. 10YR3/1 三褐色土 ロー土粒、ロームブロック(不整形)を少量含む、締やや強、粘やや強。
4. 10YR3/2 黒褐色土(黄色気味) ローム粒・白色粒を微量含む、締やや強、粘やや強。
5. 2層に似るが、やや黄色気味の色調。 締やや強、粘やや弱

SK-27
1. 撹乱
2. 10YR3/1 黒褐色土 白色粒・ローム粒含む、締強、粘弱。
3. 2層に似るが、ロームブロック(不整形)を少量含む。
4. 10YR3/3 褐褐色土 ローム粒を少量含む、締強、粘やや弱。
5. 10YR3/2 三褐色土 ロームブロック(不整形)を含む。炭の影響か、締やや弱、粘やや強。
6. 10YR2/1 黒色土 白色粒・ローム粒を少量含む、締強、粘やや強。
7. 10YR3/1 三褐色土 白色粒・ロー ム粒～ブロック(φ5mm)を少量含む、締強、粘やや弱。
8. 10YR3/1 黒褐色十 ロームブロック(φ2～5cm)を多量含む、締強、粘やや強。
9. 10YR2/1 黒色土 白色粒・ローム粒を少量、焼十粒を微量含む、締強、粘やや強。
10. 10YR3/1 黒色土 As-YP微量ブロックを含む、締強、粘やや強。
11. 黒色土とAs-YPの混合土、締強、粘やや強。
12. 10YR3/2 ロームブロック(φ3～4cm)を含む、締強、粘やや強。

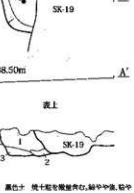



SK-31
1. 10YR2/1 三色土 焼土粒を少量、ロームブロック(φ1cm以下)を微量含む、締やや強、粘やや強。
2. 10YR2/1 黒色十 ロームブロック(φ1cm以下)を少量含む、締やや強、粘やや強。
3. 10YR2/1 黒色土 ローム粒～ブロック(不整形)を多量含む、締やや強、粘やや強。
4. 粘穴




P-195
1. 10YR3/2 三褐色上(色調にぶい) As-C・ローム粒を少量、ロームブロック(小型)をわずかに含む、締やや強、粘やや強。
2. 黒褐色土とロームの混合十 締やや強、粘やや強。
3. 10YR3/3 暗褐色十(色調にぶい) As-YPの古石ロー ムブロック(不整形)が多量に入る、締やや強、粘やや強。

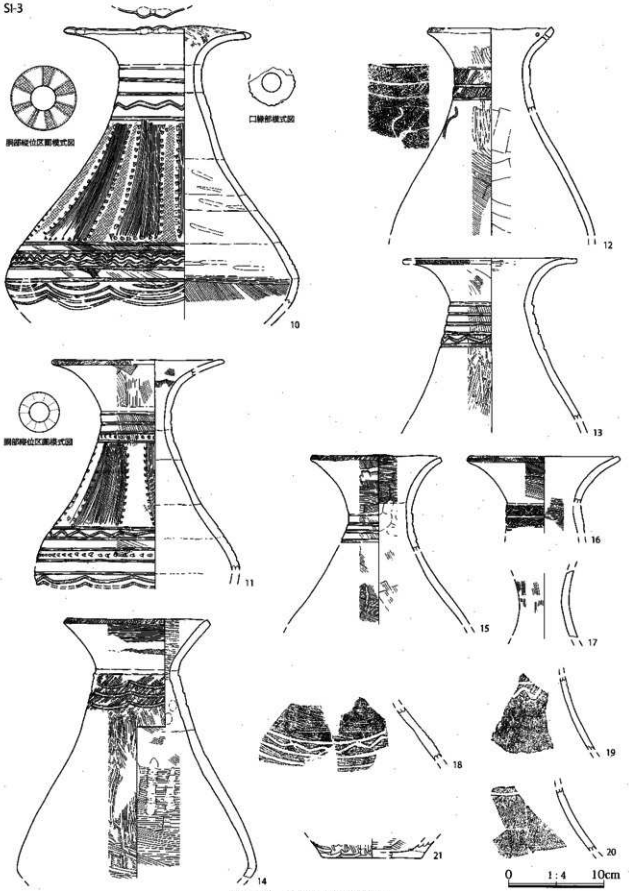
SK 32
1. 10YR2/1 黒色十(色調にぶい) ロームブロック(φ5mm)を微量含む、締やや強、粘やや強。
2. 10YR2/1 三色上(灰色気味) ローム粒・ロームブロック(不整形)を少量含む、締やや強、粘やや強。
3. 10YR2/1 黒色土 焼土粒を少量、石炭粒にロームブロック(φ1.5cm)を含む、締やや強、粘やや強。
4. 10YR2/1 黒色十(黄色気味) 地山(ローム基盤層)との混合土、ローム粒を少量含む、締やや弱、粘やや弱。
5. 10YR2/1 黒色土 ローム粒～ブロック(φ2cm以上)を多量含む、締やや弱、粘やや弱。
6. 10YR3/4 暗褐色土(黄色味強い) ローム土との混合十、締やや強、粘やや強。
7. 10YR2/1 黒色土(黄色気味) 4層と同一層と考えられるがローム粒多い、締やや強、粘やや強。
8. 10YR2/1 黒色十 ローム粒極めて多く混合する、締やや弱、粘やや弱。



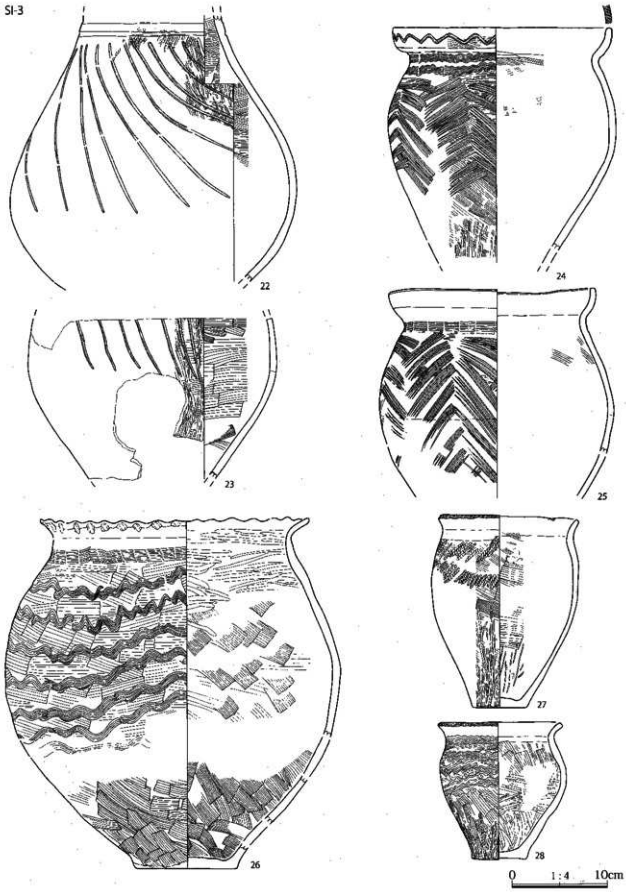

SK 38
1. 10YR2/1 黒色十 焼十粒を微量含む、締やや強、粘やや強。
2. 10YR3/2 三褐色土(黄色気味) 締やや強、粘やや強。
3. 10YR3/2 黒褐色土(黄色気味) ロームブロック(不整形)を少量含む、締やや強、粘やや強。

0 1:60 2m

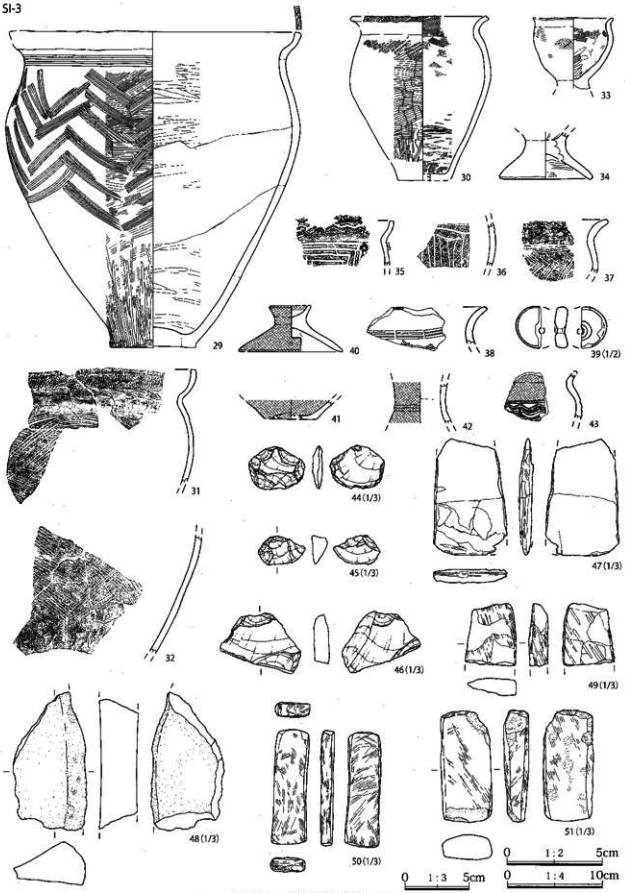
第16図 SK-18・19・20・27・31・32・38・39 平面・断面



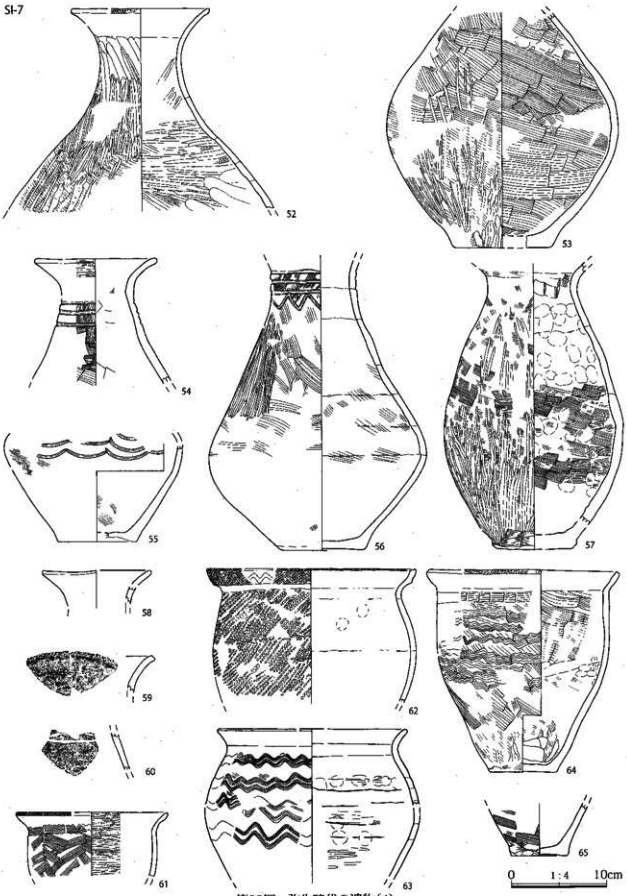

第17図　弥生時代の遺物(1)



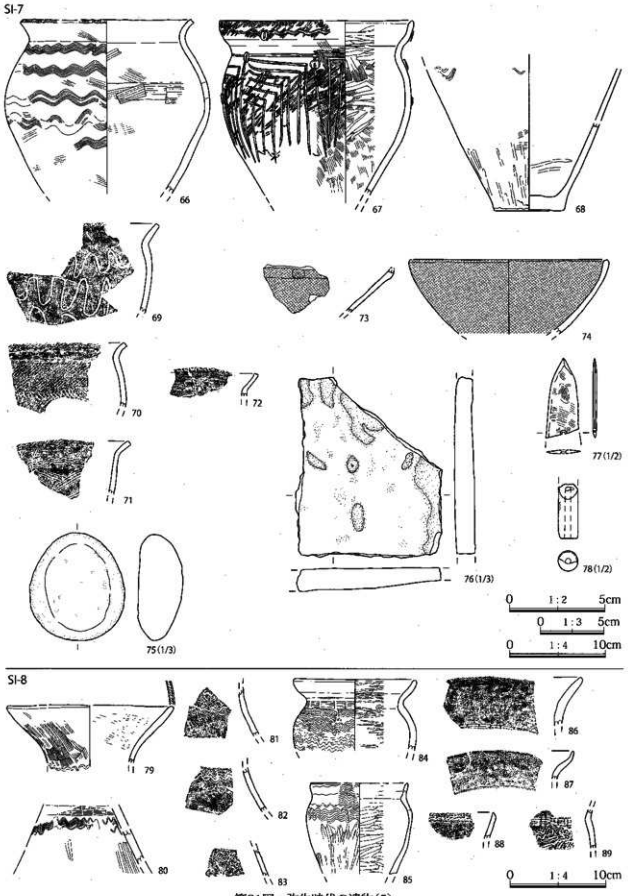

第18図　弥生時代の遺物(2)



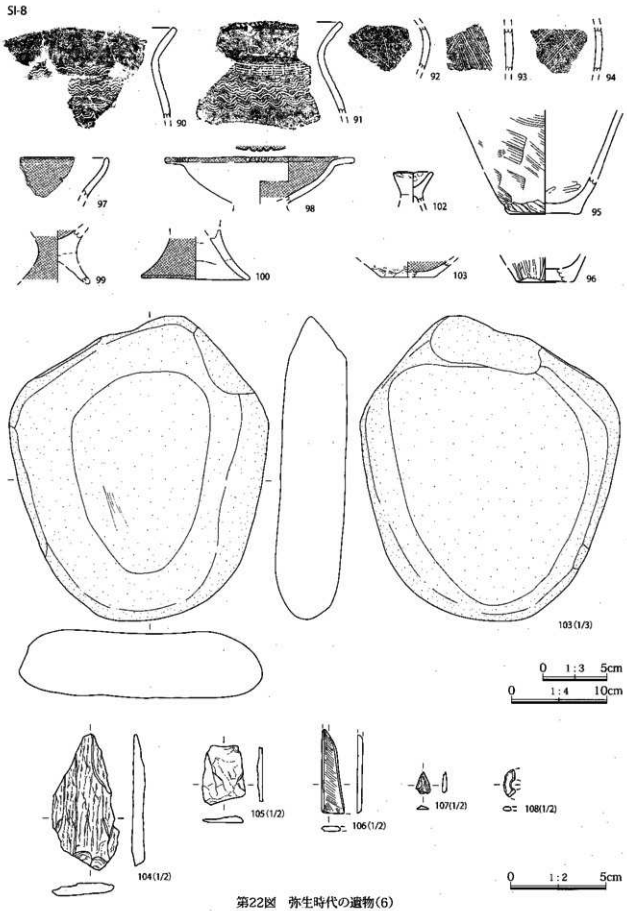

第19図　弥生時代の遺物(3)



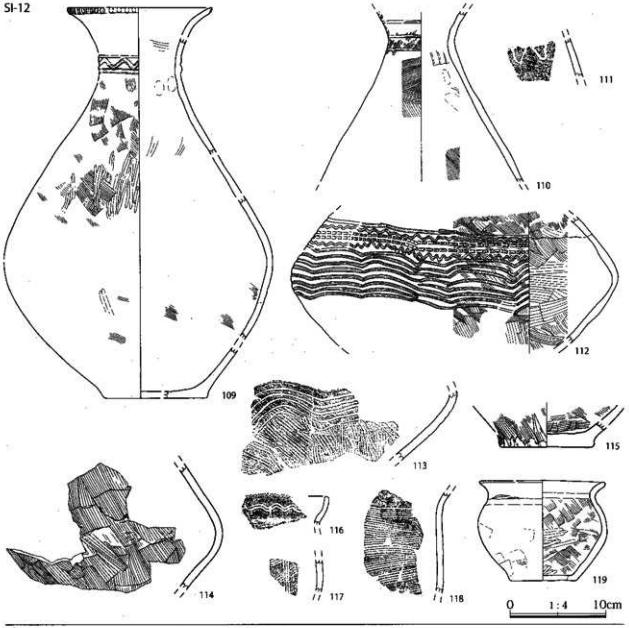

第20図　弥生時代の遺物(4)

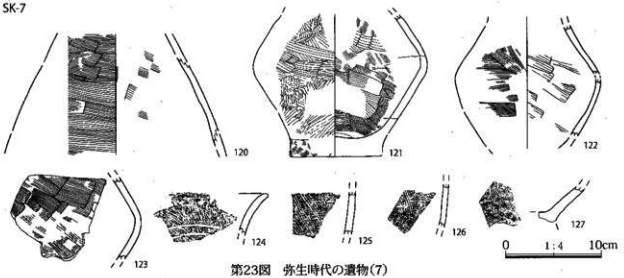



第21図　弥生時代の遺物(5)

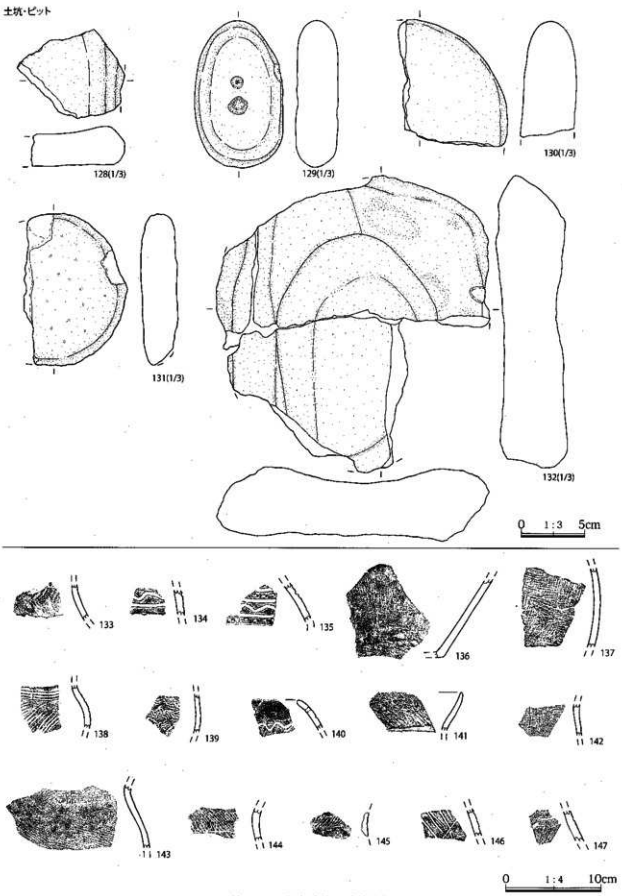



第22図　弥生時代の遺物(6)




第23図　弥生時代の遺物(7)




第24図　弥生時代の遺物(8)

## 第5表　弥生時代遺物観察表（1）

| 凡例 | 計測値は口径・底径・器高の順。単位は cm で、(　) ＝残存値、〔　〕＝復元値を示す。矢印は調整・施文の順序を示す。<br>ハケ目の観察では単位ごとの条線の密度の違いを相対的に「粗・中・密」の三段階にわけたが、全体的な視点は不統一である。 |
|---|---|

SI-3

| 番号 | 出土位置 | 器種 | 残存 | 計測値 | 焼成 | 色調 | 成・整形技法・施文の特徴など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 覆土 | 壺 | 口縁の一部と胴下位～底部欠 | 19.6・―・(31.2) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：口唇部に2個1組の棒状突起。口縁部ハケ。頸部文様帯は浅い沈線により有段になる。横位ヘラ沈線文の最下区画は幅広で、ヘラ描山形文がある。頸～胴部中位はハケ後に縦位櫛描文（6本1組・上から下）が7単位施され、1単位ごとの両縁と下端に竹管状刺突（上から下・左から右）がなされる。刺突列間は縦位ヘラミガキ後に赤彩。胴部中位はハケ後に横位ヘラ沈線文を4条施文、2条目下にヘラ描山形文（2条1組）がある。4条目下はヘラ描連弧文が4条あるが、1条目は連続せず。胴部下位ヘラミガキ。内面：ハケ。→ヘラミガキ。 |
| 11 | 覆土 | 壺 | 口縁の一部と胴下位～底部欠 | 〔17.8〕・―・(24.2) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：口唇部縄文、単節LR？。口縁部ハケ。頸部文様帯は浅い沈線により有段になる。横位ヘラ沈線文の最下区画内には竹管状刺突（右回り）がある。頸～胴部中位はハケ後に縦位櫛描文（6本1組・上から下）が5単位施され、1単位ごとの両縁に竹管状の縦位刺突（上から下）がなされる。刺突列間は縦位ヘラミガキである。胴部中位はハケ後に横位ヘラ沈線文が5条施文、1条目下にヘラ描山形文が、4条目下に竹管状刺突（右から左）がある。5条目下にヘラ描連弧文が2条ある。赤彩がわずかに残るが、範囲は不明。内面：口縁部ハケ。 |
| 12 | 床 | 壺 | 口縁～胴部上位 | 12.8・―・(22.0) | 二次被熱？ | にぶい黄橙色 | 外面：口唇部縄文、単節LR？。口縁部横位ナデ。→縦位ヘラミガキ。小穴がひとつ穿たれる。頸部文様帯は内面からの押し出しで有段になる。縄文、単節LR、横位。→横位ヘラ描沈線文。胴部ハケ。→ヘラミガキ。→頸部直下にヘラ描波状文が垂下する。全体で2単位。一方は口縁部の小穴の位置に対応し、一方はその対向にある。内面：ハケ。→ヘラナデ？。 |
| 13 | 覆土 | 壺 | 口縁～胴部上位 1/2残 | 〔18.7〕・―・(17.2) | 良好 | にぶい橙色 | 外面：口唇部縄文、単節RL。口縁部横位ナデ。→斜位ハケ。頸部縦斜位ハケ。→横位ヘラ描沈線文、最下位の区画にヘラ描山形文を施す。最上位の沈線は浅く、ここが有段部になる。胴部横斜位ハケ。→縦位ヘラミガキ。内面：調整不明。二次被熱？ |
| 14 | 覆土 | 壺 | 口縁～胴部中位 | 14.9・―・(27.6) | 良好 | 浅黄橙色 | 外面：口唇部縄文、単節LR。口縁部ハケ。→ナデ。口縁の横位ナデはハケナデの可能性あるか？。頸部有段部は浅い横位ヘラ描沈線による。縄文、単節LR。→ヘラ描連弧文、3条、右回転。胴部ハケ。→ヘラミガキ。内面：口縁部横位ヘラミガキ。頸部～胴部ハケ。→ユビナデ。ナデ技法痕。 |
| 15 | 床 | 壺 | 口縁～胴部上位 | 13.4・―・(17.7) | 良好 | 浅黄橙色 | 外面：口唇部縄文、単節LR。口縁部ハケ。頸部文様帯は内面からの押し出しで有段になる。縦斜位ハケ。→横位ヘラ描沈線文。胴部ハケ。内面：ハケ。頸部には指頭痕あり。 |
| 16 | 覆土 | 壺 | 口縁～頸部 | 15.5・―・(8.1) | 良好 | にぶい橙色 | 外面：口唇部縄文のようだが「節」に違和感があり、撚糸文の可能性もあるか？。口縁部ハケ。頸部縄文、単節RL。→横位ヘラ描沈線文の間にヘラ描山形文。文様帯は最上位の浅い沈線で有段になる。内面：ハケ。 |
| 17 | 覆土 | 壺 | 胴部 | ・　・(7.2) | やや不良 | 明黄褐色 | 外面：磨滅するが、わずかに縦位ハケが確認できる。内面：ナデ。→ハケ？。 |
| 18 | P5 | 壺 | 胴部下位破片 | ―・―・(5.6) | 良好 | にぶい褐色 | 外面：横斜位ハケ（中）。→縦位ヘラミガキ。→ヘラ沈線文、横位3条が並走し1・2本目間にヘラ山形文を施す、3本目の下にはわずかに刺突文を確認できる。内面：不明。 |
| 19 | 覆土 | 壺 | 胴部付近破片 | ・　・(8.1) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：ハケ（密）。→縄文、単節LR。→ミガキ。→横位ヘラ描沈線文とヘラ描山形文を施す。内面：ヘラナデ？ |
| 20 | 覆土 | 壺 | 頸部破片 | ―・―・(7.1) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：斜・横位ハケ（粗・中）。→ヘラ沈線文、横位。内面：ナデ。 |
| 21 | 覆土 | 壺？ | 底部破片 | ・〔10.3〕・(2.1) | 良好 | にぶい褐色 | 外面：ハケ。→縦・横位ヘラミガキ。底部ヘラミガキ。内面：横位ハケ（粗）。 |
| 22 | 覆土 | 壺 | 頸～胴部 1/3 程度残 | ―・―・(28.3) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：頸部縄文、単節LR？。→ミガキ？。→横位ヘラ描沈線文2条。胴部ハケ。→丁寧な縦位ヘラミガキ。→ヘラ描沈線による斜行文。内面：ハケ（中）。備考：黒斑あり。 |
| 23 | 覆土 | 壺 | 胴部下位 1/3 程度残 | ―・―・(17.2) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：ハケ。→丁寧な縦位ヘラミガキ。→ヘラ描沈線による斜行文。内面：ハケ（粗・中）。備考：焼成後の底部が円形状になる。意図的かは判断できない。黒斑あり。全体的な特徴から、No.22と同一個体と考えられる。実測図は復元実測のため両者に齟齬がある。 |
| 24 | 覆土 | 甕 | 底部欠 | 22.8・　・(24.4) | 良好 | 黄橙色 | 外面：口唇部縄文、単節LR。口縁部ハケ。→ヘラ描山形文。頸部櫛描簾状文、4本1組、右回転、2段。胴部ハケ。→下位ヘラミガキ。→縦位櫛描羽状文、4本1組、右回り。内面：ハケ。→ミガキ。 |
| 25 | 覆土 | 甕 | 底部欠 | 21.7・―・(20.4) | 良好 | 黄橙色 | 外面：口唇部縄文なし。頸部櫛描簾状文、5本1組、右回転。ただし1本は当たりが弱い。胴部ハケ。→縦位櫛描羽状文、4・5本1組。内面：ハケ。 |
| 26 | 覆土 | 甕 | 胴部 1/3 欠 | 〔28.0〕・10.4・37.3 | 良好 | 浅黄橙色 | 外面：口縁部ヒダ状、指頭によるものか？。頸部櫛描簾状文、5本1組、等間隔止、右回転。胴部ハケ（粗）。→櫛描波状文、4～5本1組（当たりの強弱によるか？）、7段、右回転。胴下位はヘラミガキ。底部ミガキ。内面：ハケ（中）。→ヘラミガキ。備考：胴中位付近に炭化物付着。 |
| 27 | 覆土 | 甕 | ほぼ完形 | 14.3・5.5・20.5 | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：口唇部縄文、単節LR。口縁部横位ナデ。→胴部ハケ（粗）→胴上位縄文、単節LR。胴下位縦位ヘラミガキ。底部ミガキ。内面：ハケ。→ヘラミガキ。 |
| 28 | 覆土 | 甕 | ほぼ完形 | 12.6・5.2・14.6 | 良好 | 橙色 | 外面：口唇部縄文、単節LR。口縁部横位ナデ。→頸部～胴部ハケ（粗）。→胴下位縦位ヘラミガキ。→胴上位櫛描波状文、4本1組？、右回転、多段（乱れ多い、5～6段か？）底部ナデ？。内面：ハケ。→ヘラミガキ。 |
| 29 | 床 | 甕 | 口縁 2/3 欠 | 〔30.2〕・9.0・33.6 | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：口唇部縄文、単節RL。口縁部横位ナデ。頸部横位簾状文、5本1組、止めなし。胴部ハケ。→胴上位縦位櫛描羽状文、5本1組、左回り。胴下位縦位ヘラミガキ。底部ミガキ。楕円状の小圧痕あり。内面：ハケ。→ヘラミガキ。備考：色調ムラ、黒褐色部分多い。 |
| 30 | 覆土 | 甕 | 口縁の一部と底部欠 | 14.0・〔5.2〕・17.5 | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：口唇部縄文、単節LR。頸部横位ナデ。胴部ハケ（粗・中）。→胴上位縄文、単節LR。縄文は全面施文ではなく、全周の1/2程度のみ施文。胴下位縦位ヘラミガキ。内面：ハケ。→ヘラミガキ。 |
| 31 | 覆土 | 甕 | 口縁～胴部破片 | ・・・(12.1) | 良好 | 浅黄色 | 外面：口唇～口縁部擬縄文、植物茎の切断小口面の押圧のようにも見えるが、不明。頸部横位ナデ。胴部ハケ。→縦位櫛描羽状文、4本1組、右回り。内面：ハケ。→ヘラミガキ。 |
| 32 | 床 | 甕 | 胴部下位破片 | ―・―・(12.6) | 良好 | 浅黄色 | 外面：ハケ。→縦位櫛描羽状文、5本1組、右回り。胴部下位ヘラミガキ。内面：ハケ。→ヘラミガキ。備考：No.31と同一個体の可能性あり。両者の櫛本数の違いは、単純には別個体とする根拠にはなりにくいと考える。 |
| 33 | 覆土 | 小型台付甕 | 口縁部 2/3 欠・脚部欠 | (8.3)・　・(7.6) | 良好 | 明灰黄色 | 外面：胴部ハケ（中）。→ミガキ？。脚部付近ヘラミガキ。内面：ハケ（中）。→部分的にヘラミガキ。備考：胴部外面に赤彩あるが、部分的なため範囲は不明瞭。 |
| 34 | 覆土 | 台付甕 | 脚部 | ―・〔9.2〕・(5.0) | やや不良 | にぶい黄橙色 | 外面：不明瞭。内面：横位ヘラミガキ。 |
| 35 | 覆土 | 甕 | 口～胴部破片 | 〔13.5〕・　・(4.8) | やや良好 | にぶい褐色 | 外面：口唇部縄文、単節LR？。口縁部2条のヘラ描沈線による山形文。頸部以下ヘラ描沈線によるコの字重ね文。円形貼付文あり。内面：ナデ？ |
| 36 | 覆土 | 甕 | 胴部破片 | ―・―・(4.6) | 良好 | 黒褐色 | 外面：斜位ハケ（密）。→ヘラ描沈線によるコの字重ね文。内面：横位ヘラミガキ。 |
| 37 | 床 | 甕 | 口～胴部破片 | ―・―・(5.3) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：口唇部縄文、単節。頸部横位櫛描簾状文、4本1組。胴部櫛描斜格子文、4本1組。内面：横位ヘラミガキ。 |
| 38 | 床 | 甕 | 口縁破片 | ・　・(3.9) | 良好 | にぶい褐色 | 外面：口唇部縄文、単節。頸部櫛描簾状文、3本1組、等間隔止、左回転。胴部櫛描文の痕跡ある。内面：ハケ→ヘラミガキ。 |
| 39 | P5・6 | 土製品 | 1/2 残 | 径2.1cm・厚0.6cm | 良好 | にぶい橙色 | 土器片加工の土製円盤か？断面形は湾曲する。表裏面ともにミガキで裏面が剥落。焼成後に両面から穿孔。 |
| 40 | 覆土 | 蓋 | 一部分欠 | 〔10.0〕・―・4.9 | 良好 | 暗赤色 | 外面：ヘラミガキ。赤彩。ただしツマミ内部は不明瞭。内面：ヘラミガキ。一部赤彩が残る。備考：紐止め孔あり。 |
| 41 | 覆土 | 鉢 | 底部破片 | ―・〔5.2〕・(2.0) | 良好 | 暗赤色 | 外面：ヘラミガキ。赤彩。底部には赤彩なし。内面：ヘラミガキ。赤彩。 |
| 42 | 覆土 | 壺？ | 頸部？破片 | ・　・(4.3) | 良好 | 暗赤色 | 外面：ヘラミガキ。赤彩。横位突帯状の盛り上がりに沿って、浅い沈線状の窪みがある。内面：ユビナデ。井戸付き壺の頸部を想定。器は天地逆の可能性あり。 |
| 43 | 覆土 | 甕 | 頸～胴部破片 | ―・―・(4.8) | やや良好 | 橙色～赤色 | 外面：頸部横位ナデ。胴部縄文、単節。→横位ヘラ描沈線文の下に3条以上のヘラ描山形文。右回転。補修孔あり。横位沈線文の上に赤彩が明瞭に残る。全面赤彩かは不明。内面：口縁部横位ナデ。 |
| 44 | P5 | スクレイパー | ― | 長3.4cm・幅4.4cm・厚0.8cm・重11.2g　石材：無斑晶質安山岩。横長の剥片素材を使用し、表面は周縁から細かい剥離調整が施される。裏面は主要剥離面を広く残し、周縁からの剥離調整が施される。 | | | |
| 45 | 覆土 | 未製品？ | | 長2.3cm・幅3.7cm・厚1.3cm・重7.0g　石材：頁岩。横長の断面三角形の剥片を使用し、表面には粗い周縁調整が施される。主要剥離面を広く残す。 | | | |
| 46 | 床 | 剥片 | ― | 長4.8cm・幅6.3cm・厚1.2cm・重32.2g　石材：頁岩。横長の扁平剥片の側縁に粗い剥離を施す。 | | | |
| 47 | 床 | 磨製石斧 | 破片 | 長(9.2)cm・幅5.7cm・厚1.1cm・重(69.7)g　石材：頁岩。被熱による剥離が著しい。わずかに残る刃部の状態から、扁平片刃石斧と考えられる。 | | | |
| 48 | 西壁際 | 砥石 | 破片 | 長(11.0)cm・幅(5.8)cm・厚3.4cm・重(170.3)g　石材：多孔質安山岩。断面三角形状で、周縁部を除き砥面が顕著に残る。 | | | |
| 49 | 覆土 | 砥石 | 破片 | 長(4.9)cm・幅4.0cm・厚1.5cm・重(29.8)g　石材：軽石質凝灰岩。被熱痕跡がある。確認できる部分の砥面は顕著である。 | | | |
| 50 | 床 | 砥石 | 完形 | 長9.1cm・幅2.8cm・厚1.2cm・重37.1g　石材：砂岩。扁平で細長い形状。全ての面を砥面として使用したと考えられる。 | | | |
| 51 | 覆土 | 砥石 | ほぼ完形 | 長8.8cm・幅4.0cm・厚2.0cm・重75.3g　石材：多孔質安山岩。形状は扁平で、ややふくらみを持つ。磨耗にかたよりがあり、表裏面で同一小口側の縁辺に顕著。 | | | |

## 第６表　弥生時代遺物観察表（2）

SI-7

| 番号 | 出土位置 | 器種 | 残存 | 計測値 | 焼成 | 色調 | 成・整形技法・施文の特徴など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 52 | 竪穴・内 | 甕 | 口縁～頸部上位 | ・(14.3)・・・(21.6) | 二次被熱？ | 褐黄色系 | 外面：口縁部横ヨコ、頸部上、口縁部縦ナナメ、→頸～胴部ハケ、→ヘラミガキ。内面：ハケ？、→ヘラミガキ。 |
| 53 | 炉 | 底 | 胴部上位～底部 | ・・・(10.0)・(25.0) | 良好 | にぶい赤褐色 | 外面：ハケ（粗・中）、→ヘラミガキ。内面：ハケ（粗）、横ナデ。黒斑あり。 |
| 54 | 竪穴 | 底 | 口縁～頸上位／胴～底部 | (12.5)・・・(13.6) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：口縁～口縁部横ナデ、→胴部縦刷毛ハケ（中）、→縦位ハケ調整痕あり。3条、基上位の区画線あり。ここが最大径になる。内面：口縁部横ナデ（粗・中）、胴部上：縦位刷毛ナデ。→横位ハケナデ。 |
| 55 | 竪穴 | 底 | 胴部下位～底部 | ・・・8.1・(11.6) | 二次被熱 | 灰黄褐色 | 外面：ハケ、→ヘラミガキ、→ヘラ状工具による刻目文。内面：ハケ。指ナデ：底部外面は剥離のため調整不明。 |
| 56 | 竪穴 | 底 | 口縁部全欠／胴～底部 2/3 欠 | ・・・8.5・(31.2) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：ハケ（粗）、→ヘラミガキ。内面：ハケ（粗）、横ナデ。指ナデ：底部外面は剥離のため調整不明。 |
| 57 | 竪穴 | 底 | 口縁全欠／底部 2/3 欠 | ・・(7.7)・(30.6) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：ハケ、→縦位ヘラミガキ。内面：ハケ（粗）、横ナデ。黒斑あり。指ナデ：底部外面は剥離のため調整不明。 |
| 58 | 竪穴 | 底 | 口縁部 | (11.2)・・・(4.0) | 二次被熱 | 灰黄色 | 外面：横ナデ？。内面：ナデ調。二次被熱によって表面が荒れ状態。 |
| 59 | 竪穴 | 底 | 口縁部破片 | ・・・・・(3.8) | 良好 | にぶい褐色 | 外面：口縁部横ヨコ、頸部上、口縁部縦ナナメ。内面：横ナデ。 |
| 60 | 竪穴 | 底 | 頸部破片 | ・・・・・(4.5) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：縦位ヘラミガキ→横位ヘラ状工具による刻目文。内面：ハケ。 |
| 61 | 炉 | 底 | 口縁～胴部 1/3 残 | (15.8)・・・(8.8) | 良好 | にぶい褐色 | 外面：口縁部横ナデ、頸部上、口縁～頸部縦ナナメ、→胴部縦刷毛状ハケ、4本1組だが1本の先が分岐し、一部胴部は横位刷毛。内面：口縁部横ナデ。→胴部上：縦刷毛ナデ。→下半全体はヘラミガキ。 |
| 62 | 炉 | 底 | 口縁～胴部 1/2 残 | 21.8・・・(15.2) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：口縁部横ナデ、頸部上、口縁部縦ナナメ、→胴部縦刷毛状ハケ、4本1組だが1本の先が分岐し、一部胴部は横位。内面：ナデ？。指押痕あり。 |
| 63 | 竪穴 | 底 | 口縁～胴部上位破片 | (19.6)・・・(18.0) | 良好 | 黄橙色 | 外面：口縁部横ナデ、頸～胴部ハケ、→縦位状ハケ、4本1組、4目。内面：縦位ハケ？、→ヘラミガキ。横ナデ：口縁部は頸部との接触のため横ナデの痕跡が不明瞭。指押痕あり。 |
| 64 | 炉 | 底 | 口縁～底部／胴 2/3 欠 | (19.7)・6.9・21.4 | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：口縁部横ヨコ上方ナデ、頸部下の可能性あり。ナデ。口縁部縦ナナメ。指押痕顕著状。中央～全1本。5本1組。刷毛目。胴部横ハケ（粗）、→縦位ヘラミガキ。→横位状ハケ。5本1組。刷毛目。胴部下半：下から→下段の順番ハケ。底部ミガキ。内面：ハケ（粗）。→ヘラミガキ。 |
| 65 | 竪穴 | 底 | 底部 | ・5.8・(5.5) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：横刷毛ハケ（中）。底部ミガキ。内面：ヘラナデ？ |
| 66 | 竪穴 | 底 | 口縁～胴部下位 1/2 残 | (17.6)・・・(18.8) | 良好 | にぶい褐色 | 外面：口縁部横ヨコ、頸部上、口縁部縦ナナメ、→胴部縦ハケ、→ヘラミガキ。4本1組。刷毛目。5段。5段目は赤褐しない。内面：横ナデ。 |
| 67 | 炉 | 底 | 口縁～胴部 1/4 欠／底部有欠 | (20.2)・・・(18.6) | 良好 | 黒褐色 | 外面：口縁部横ヨコ、口縁部縦ヨコ、頸部上、胴部：一部中央部に明瞭な分岐のある刷毛目状ナデ。胴～胴部ハケ（中）、→縦方、単線1本。見れない。底部に赤褐色しない。ヘラ状工具によるコロナ痕あり。→縦横斜線状の刷毛目状。胴部下半は：ヘラミガキ。内面：ハケ。→ヘラミガキ。 |
| 68 | 竪穴 | 底 | 胴部上位～底部 | ・・・6.9・(17.1) | やや不良 | 黒褐色 | 外面：胴部中位以上：わずかに縦位状ハケ。底部：底部の部分のみ中央部。胴部下位縦位ハケ？。内面：ヘラミガキ。 |
| 69 | 炉 | 底 | 口縁～胴部破片 | ・・・・・(3.0) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：口縁部横ヨコ、口縁～胴部ヘラミガキ（口縁部粗、胴部細）。→胴部：1本の先が分岐。一部縦ハケ。内面：ハケ。→ヘラミガキ。 |
| 70 | 竪穴 | 底 | 口縁～胴部破片 | ・・・(6.7) | 良好 | 浅黄橙色 | 外面：口縁部横ヨコ、頸部上、口縁部縦ナナメ、→胴～胴部縦ヨコ、単線1本。横方。見れない。底部：底部の部分のみ。底部：ヘラミガキ。内面：ハケ。→ヘラミガキ。指痕あり。 |
| 71 | 竪穴 | 底 | 口縁～胴部破片 | ・・・・・(5.7) | 良好 | 灰黄褐色 | 外面：口縁部横ヨコ、頸部上、口縁部縦ナナメ、→胴部縦刷毛状ハケ、4本1組。刷毛目。→縦方。内面：ハケ。→ヘラミガキ。 |
| 72 | 炉 | 底 | 口縁部破片 | ・・・・・(2.5) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：口縁部横ヨコ。口縁部横ナデ。胴部横ハケ。胴部縦刷毛状ハケ。内面：横ナデ。 |
| 73 | 竪穴 | 高杯 | 口縁部片並び方 | ・・・・・(4.7) | 二次被熱？ | 明赤色 | 外面：口縁部に垂直刷毛ある。ハケーミガキ。赤彩。内面：ハケ（粗）→ヘラミガキ。 |
| 74 | 竪穴 | 高杯？ | 口縁～脚部 | 20.6？・・・(7.9) | 良好 | 赤色 | 外面：ヘラミガキ。赤色。内面：ハケ。→ヘラミガキ。赤彩。 |
| 75 | 炉 | 紡錘 | 完形 | 長 8.4cm・幅 7.5cm・厚 3.6cm・重 298.7g | 石材：頁岩 | | 頁岩：黒褐色。周平面が潰れるが、側面は丸みを帯びている。わずかに赤褐色を帯びる部分がある。 |
| 76 | 炉 | 外台 | 脚片 | 長 (14.2)cm・幅 (11.5)cm・厚 1.8cm・重 (439.9)g | 石材：閃緑岩 | | 閃緑岩：黒褐色。周平面が潰れるが、側面は丸みを帯びている。わずかに赤褐色を帯びる部分がある。 |
| 77 | P3 | 磨製石鏃 | 欠あり | 長 (4.2)cm・幅 (1.7)cm・厚 0.2cm・重 (1.8)g | 石材：頁岩 | | 石材：頁岩。凹基無茎式で側面凸角形の断面であるが、基部に鋸の丸み調整である。右凸は稜線である。元部四分の調整並び形状は不明。 |
| 78 | 孔上？ | 管玉 | 欠あり | 長 (2.9)cm・幅 1.0cm・厚 1.0cm・重 (4.7)g | 石材：ガラス | | 緑色ガラスで表面は光沢。表面ガラスが変質するため全体は不明。 |

SI-8

| 番号 | 出土位置 | 器種 | 残存 | 計測値 | 焼成 | 色調 | 成・整形技法・施文の特徴など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 79 | 竪穴 | 底 | 口縁～胴部 | (17.3)・・・(8.9) | 良好 | 橙色 | 外面：口縁部横ヨコ、頸部。口縁部縦ナナデ。縦刷毛ハケ（粗）→縦位ヘラミガキ。→胴部横端面状文の痕跡あり。内面：横ナデ。→ヘラミガキ。 |
| 80 | 竪穴 | 底 | 胴部片並 | ・・・・(7.7) | 不良 | にぶい黄色 | 外面：横方単線刷毛目。4本1組。刷毛目。その上下に単線状文。1段。刷毛目あり。ハケ（粗）の後に横端面状文を施文。その後に縦方ヘラミガキ。内面：ハケ＋ナデ？ |
| 81 | 竪穴 | 底 | 頸部破片 | ・・・・・(5.3) | 良好 | 茶褐色 | 外面：ハケ（中）→上方→横端面状文。5本1組。刷毛目。2段。内面：ナデ？→ヘラミガキ？。 |
| 82 | 竪穴 | 底 | 頸部付近破片 | ・・・・・(4.9) | 良好 | にぶい褐色 | 外面：ハケ（中）→上方→横端面状文2段。5本1組。刷毛目。内面：ハケ（中） |
| 83 | 竪穴 | 底 | 胴部破片 | ・・・・・(2.9) | やや良好 | 灰黄褐色 | 外面：ハケ→横端面状文。内面：ナデ？ |
| 84 | 竪穴 | 底 | 口縁～胴部上位 | (12.6)・・・(7.6) | 良好 | 黒褐色 | 外面：内側一：口縁部横ナデ→縦刷毛ハケ。→横刷毛ハケ。→縦位ナデ。→横端面状文。単線1本。5本1組。右回転。→胴部横ハケ。→横端面状文。5本7組。刷毛目。3段。内面：上下半全体はヘラミガキ。 |
| 85 | 竪穴 | 台付型？ | 口縁～頸部上位 | (30.1)・・・(9.6) | 良好 | 暗褐色 | 外面：口縁～頸部上位縦端面状文。7本7組。3段。右回転。胴部縦ハケ＋ナデ。内面：横ハケ＋ナデ。 |
| 86 | 竪穴 | 底 | 口縁部破片 | ・・・・・(5.0) | 良好 | 橙色 | 外面：口縁部横ヨコ（一部ナデ）。口縁部縦ハケ→横ハケ。→ナデ。横端面状文。単線1本。2本以上1組。内面：横ハケ→横ハケ→ヘラミガキ。 |
| 87 | 竪穴 | 底 | 口縁部破片 | ・・・・・(3.5) | 良好 | にぶい褐色 | 外面：口縁部横ナデ→横端面状文5本1組。右回転。胴部横端面状文3段。内面：横ナデ→横ハケ→ナデ。 |
| 88 | 竪穴 | 底 | 口縁部破片 | ・・・・・(3.0) | 良好 | 灰黄褐色 | 外面：口縁部横端面状文。内面：横ナデ。ハケ→ヘラミガキ。 |
| 89 | 竪穴 | 底 | 頸～胴部破片 | ・・・・・(4.2) | 良好 | 灰黄褐色 | 外面：胴部横端面状文。4本1組。単線方単線止め。右回転。→胴部横ハケ。内面：下半全体はヘラミガキ。 |
| 90 | 床 | 底 | 頸～胴部破片 | ・・・・・(9.7) | やや良好 | 黒褐色 | 外面：口縁部横ヨコ。口縁部縦ナナデ。→横ハケ。→ヘラミガキ。内面：不明瞭。 |
| 91 | 竪穴 | 底 | 口縁～胴部上位破片 | ・・・・・(10.4) | やや良好 | にぶい黄色 | 外面：口縁部横ヨコ。口縁部縦ナナデ。胴部横刷毛状ハケ。単線方。5本1組。右回転。その後下に横端面状文。5本1組。2段に施す。その下。少し見れて3段目が横端面状。内面：不明瞭。 |
| 92 | 竪穴 | 底？ | 胴部破片 | ・・・(4.7) | 良好 | 灰黄色 | 外面：ハケ→ヘラ調整状端面文を別に施す。横状結び痕跡。内面：ヘラナデ？。 |
| 93 | 竪穴 | 底 | 胴部破片 | ・・・(5.3) | 良好 | 灰黄色 | 外面：縦位単線刷毛目6本1組。内面：横位ヘラミガキ。 |
| 94 | 竪穴 | 底 | 胴部破片 | ・・・・・(4.7) | 良好 | にぶい赤褐色 | 外面：横端斜格子文7本1組。内面：横ナデ。 |
| 95 | 竪穴 | 底 | 胴部破片 | ・・・・・(2.9) | 良好 | 赤色 | 外面：ヘラミガキ。赤色。内面：ヘラミガキ。赤彩。 |
| 96 | 竪穴 | 底 | 口縁部破片 | ・・・・・(3.5) | 良好 | 赤色 | 外面：ヘラミガキ。赤色。内面：ヘラミガキ。赤彩。 |
| 97 | 竪穴 | 底 | 胴部破片 | ・・・・・(1.8) | 良好 | 赤色 | 外面：ヘラミガキ。赤色。内面：ヘラミガキ。赤彩。 |
| 98 | 竪穴 | 高杯 | 脚部口縁～体部 | (19.8)・・・(4.9) | 良好 | 明赤褐色 | 外面：口縁部縦位ナデ。内面：ミガキ。口縁部まで剥離。外面の赤彩は観察できない。口縁部に4箇1組の刻目あり。全体で6箇あり。 |
| 99 | 竪穴 | 高杯 | 脚部 | ・・・・・(5.3) | やや不良 | 赤色 | 外面：縦位ヘラミガキ。赤彩。内面：横ミガキ。赤彩。脚部ナデ？。脚内部あり。 |
| 100 | 竪穴 | 高杯 | 脚部 | ・・・11.1・(5.3) | 良好 | 赤色 | 外面：縦位ヘラミガキ。赤彩。内面：ナデ。 |
| 101 | 竪穴 | 鉢 | 底部破片 | ・・・5.5・(1.8) | 良好 | 赤色 | 外面：ヘラ状。縦押ナデ。内面：ミガキ。赤彩。 |
| 102 | 竪穴 | 底 | 穿孔 | ツマミ | 4.1・・・(3.3) | やや良好 | 赤褐色 | 外面：指痕。粗雑。孔無？あり。穿のツマミとして誤かしたが、小型ミニ状の部分の可能性もあるが。 |
| 103 | 竪穴 | 台石 | 完形 | 長 24.1cm・幅 20.4cm・厚 5.7cm・重 4200g | 石材：頁岩 | | 石材：頁岩。凹凸面。表面：全面。裏面：平面。 |
| 104 | P13 | 炭材 | | 長 7.0cm・幅 3.5cm・厚 0.7cm・重 16.1g | 石材：不明 | | 炭化材。周囲：表面：全面。裏面：平面。 |
| 105 | 竪穴 | 炭材 | | 長 3.1cm・幅 2.2cm・厚 0.3cm・重 2.6g | 石材：不明 | | 炭化材。周囲：表面：全面。裏面：平面。 |

## 第７表　弥生時代遺物観察表（3）

### SI-8

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 106 | 覆土 | 磨製 | | 長 4.4cm・幅 1.2cm・厚 0.3cm・重 2.0g　石材：頁岩。板状で両面が研磨される。端部は丸く研磨される。端部以外は全面は研磨が多く施されている。 |
| 107 | 覆土 | 未製品？ | | 長 1.1cm・幅 0.7cm・厚 0.2cm・重 0.1g　石材：黒曜石。表面未研磨。剥ぎ取る剥離は「刃」状になる。三角形の平面形をなす。石器完成品の未成形製品と考えたい。 |
| 108 | 覆土 | 未製品？ | — | 長 1.5cm・幅 0.5cm・厚 0.2cm・重 0.2g　石材：頁岩。板状で、全部は研磨と剥離する。一部剥離が残る。一部剥離が残る。剥ぎ取る剥離は「刃」状になる。何らかの石製の未成形製品の可能性がある。 |

### SI-12

| 番号 | 出土位置 | 器種 | 残存 | 計測値 | 焼成 | 色調 | 成・整形技法・施文の特徴など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 109 | 床 | 壺 | 口縁～底部、部分的に欠損 | (15.1)・(10.7)・14.5 | 良好 | 黄橙色 | 外面：口縁部へ屈曲。櫛状ナデ。胴部ハケ（粗）→横位ハケ（細）。底部ナデ。内面：ナデ。 |
| 110 | 床 | 壺 | 底～胴部上位 | —・—・(18.4) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：胴部縦位、底部横。→ヘラ状工具痕。胴部ハケ（粗）。内面：ハケ（中）。ナデ。 |
| 111 | 覆土 | 壺 | 胴部付近破片 | —・—・(4.3) | 良好 | 浅黄橙色 | 外面：ハケ（中）。ヘラ調整状文。内面：ハケ（中）。櫛者・文間隔の天地が記り可能だあり。 |
| 112 | 覆土 | 壺 | 底部 | —・—・(14.6) | 良好 | 浅黄色 | 外面：ハケ（粗・中・密）。→胴部縦部下に多数のヘラ状工具痕状文がある。２本１組程度具に２６４条的施文の可能性。その上にヘラ描沈線がある。２本１組の可能文が、上下１組の列状のにんじんモノ沈線が施文がある。神付文の痕はは２本１組の可能文で、櫛歯状で施文痕が多数みられ、後２は同変形か、２本１組の沈線本の線が使用されたかもしれない。又は平面上位は胴部ヘラ状文痕によって区分されるが、胴体変態に合む所がある。底文は自縦。ナかとしんの触ある文。神付文は２本１組の文が記載施文とかられる。内面：ハケ（粗・中・密）。櫛者：底面あり。 |
| 113 | 床 | 壺 | 胴部下位破片 | —・—・(7.9) | やや良好 | 黒褐色 | 外面：斜位ハケ（粗・密）。→ヘラ状文。平走を表現面。右回転。櫛者：黒面あり。内面：横位ハケ（粗）。　　No.112と同一個体と考えられる。 |
| 114 | 床 | 壺 | 胴部 | —・—・(13.3) | やや良好 | にぶい黄橙色 | 外面：斜位ハケ（粗）。内面：横斜位ハケ（粗・中）。 |
| 115 | 覆土 | 壺 | 底部 | ・9.5・(4.6) | やや良好 | にぶい黄橙色 | 外面：縦位ハケ（粗）。→底に調整あり。内面：横位ハケ（粗・中）。　櫛者：No.112かNo.114のどちらかと同一個体の可能性あり。 |
| 116 | P4 覆土 | 壺 | 口縁部破片 | —・—・(3.2) | 良好 | 橙色 | 外面：口縁部横ナデ。平滑１条。口縁部垂直ナデ～横撫は形式。２本１組。内面：横位ナデ～ミガキ。 |
| 117 | 覆土 | 壺 | 胴部破片 | ・・・(3.5) | 良好 | 褐黒橙色 | 外面：櫛歯斜格子文。４本１組。内面：横位ハケ（粗）。 |
| 118 | 炉 | 壺 | 底～胴部破片 | —・—・(11.4) | 良好 | 黒褐色 | 外面：縦横撫ハケ（密）。→横撫撫状文。平滑間は。５本１組。右回転。胴部ハケ（密）。→横撫状文。５本１組。内面：下部方横位ハケ（粗）。 |
| 119 | 床 | 鉢 | 口縁完形 | 12.9・6.7・10.6 | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：口縁部横撫ハケ。胴部ヘラ状ナデ。底部ヘラナデ。内面：横斜位ハケ（中）。→ヘラミガキ。櫛者：縦文なし。赤彩痕跡見付せない。 |

### SK-7

| 番号 | 出土位置 | 器種 | 残存 | 計測値 | 焼成 | 色調 | 成・整形技法・施文の特徴など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 120 | 覆土 | 壺 | 胴部上位 | —・—・(14.0) | 良好 | にぶい赤褐色 | 外面：斜位ハケ（中）。内面：横位ハケ（中）。 |
| 121 | 覆土 | 壺 | 胴～底部 | —・9.6・(15.2) | 良好 | にぶい赤褐色 | 外面：胴部ハケ（粗・中）。→ヘラミガキ。底部胴部を部分的にミガキ。内面：ハケ（粗・中・密）。 |
| 122 | 覆土 | 壺 | 胴部 | —・—・(12.8) | やや不良 | 褐黒橙色 | 外面：縦～斜位ハケ（密）。内面：横位ハケ（粗）。 |
| 123 | 覆土 | 壺 | 胴部破片 | —・—・(8.7) | やや良好 | 褐黒橙色 | 外面：斜ハケ（中）。内面：ハケ。 |
| 124 | 覆土 | 壺 | 口縁部破片 | —・—・(4.4) | 良好 | 赤色 | 外面：口縁部横ナデ（平滑部）。口縁部横位ナデ。胴部斜位ハケ（中）。→横位ヘラ状工具。内面：ハケ（密）。 |
| 125 | 覆土 | 壺 | 胴部破片 | ・・・(5.3) | 良好 | 褐黒橙色 | 外面：縦位櫛歯状文。４本１組。内面：ハケ（中）。 |
| 126 | 覆土 | 壺 | 胴部破片 | —・—・(4.9) | 良好 | 黒褐色 | 外面：ハケ（中）→横位櫛撫状文。４本？１組。内面：ヘラミガキ。 |
| 127 | 覆土 | 台付壺 | 第一胴部破片 | —・—・(4.6) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：ハケ（中）→ヘラ状沈線による重ケ文（ほの？）痕あり？。内面：横位ヘラミガキ。 |

### SK-31

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 128 | 覆土 | 底石 | 破片 | 長 (8.5)cm・幅 (7.1)cm・厚 7.4cm・重 (166.7)g　石材：多孔質輝石安山岩。表面部が磨られる。形状は扁平。敲痕は見られず。破損面も丸めて赤色味を帯びる部分がある。 |

### SK-45

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 129 | 覆土 | 凹石 | 完形 | 長 11.6cm・幅 7.0cm・厚 3.4cm・重 437.6g　石材：輝石安山岩。質文遺物の可能性もあり。両面に凹痕がある。扁平面と側面の一部が色付ける。赤付痕は不明瞭。 |

### P-54

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 130 | 覆土 | 磨石 | 1/4 残 | 長 (10.0)cm・幅 (8.0)cm・厚 4.4cm・重 (565.4)g　石材：輝石安山岩。扁平面の表面が磨滅に磨られる。側面に敲打痕がある。赤色味を帯びる部分がある。 |

### P-159

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 131 | 覆土 | 磨石 | 1/2 残 | 長 12.0cm・幅 (8.2)cm・厚 2.9cm・重 (374.9)g　石材：多孔質輝石安山岩。扁平な形状。石質は軟。が磨られている。側面に敲打痕がある。 |

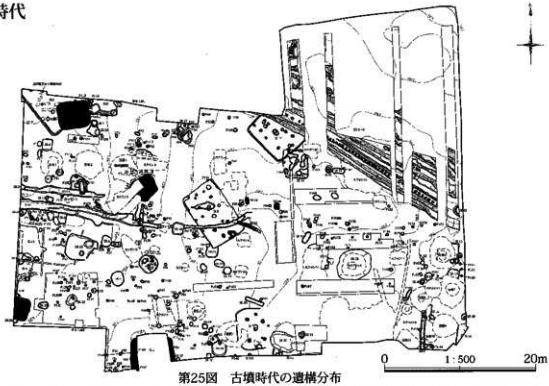
### P-148

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 132 | 覆土 | 台石 | 部分欠 | 長 (23.5)cm・幅 21.5cm・厚 5.8cm・重 (2850)g　石材：砂岩。表面部は磨られており、両面ともにくぼむ。色調は赤色化しており、焼熱の影響かう。 |

### その他

| 番号 | 出土位置 | 器種 | 残存 | 計測値 | 焼成 | 色調 | 成・整形技法・施文の特徴など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 133 | 表土 | 壺 | 胴部破片 | ・・・(4.1) | 良好 | にぶい橙色 | 外面：斜位ハケ（中）→縦文。平滑１条→横位ヘラ状文痕文。内面：ナデ？ |
| 134 | 表土 | 壺 | 胴部破片 | —・—・(2.0) | 良好 | 浅黄橙色 | 外面：横位ヘラ状文痕文による区画内に平滑文を施文。内面：不明瞭。 |
| 135 | 旧第４号遺構 | 壺 | 胴部破片 | ・・・(4.4) | 良好 | 黒褐色 | 外面：ヘラ状沈線による横位区画内に、ヘラ状工具文と竹管状の円文を交互に施す。内面：不明瞭。 |
| 136 | 旧第４号遺構 | 壺 | 第一～底部破片 | —・—・(8.6) | 良好 | にぶい褐色 | 外面：ヘラミガキ。内面：ヘラミガキ |
| 137 | 旧第４号遺構 | 壺 | 胴部破片 | —・—・(8.5) | 良好 | 黒褐色 | 外面：縦位櫛撫状文。７本？１組。内面：横位ヘラミガキ。 |
| 138 | 旧第６号遺構 | 壺 | 第一胴部破片 | —・—・(14.8) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：斜櫛撫施策状文。等間隔が。４本１組。右回転。胴部ハケ（斜位櫛撫文。４本１組。内面：横位ハケ。 |
| 139 | 旧第４号遺構 | 壺 | 胴部破片 | —・—・(4.4) | 良好 | 黒褐色 | 外面：横撫施策文。２本１組。内面：ハケ（粗）→横位ヘラ状文。 |
| 140 | 旧第４号遺構（第第遺構？） | 壺 | 口縁部破片 | ・・・(3.6) | 良好 | 褐灰色 | 外面：口縁部横位ナデ。縦状ボの穴跡。ヘラ状工具文。内面：横位ナデ。不明瞭ながら外面の可能性あり。無理はとして同手法のしたが。口縁部内側面が凹凸状でもあるか？ |
| 141 | 表土 | 壺 | 口縁部破片 | ・・・(14.5) | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：口縁部斜位ハケ（粗）→横位ナデ→横撫状文。無間隔状文。内面：横位ハケ（粗）。櫛者：後期。 |
| 142 | SK-34 | 壺 | 胴部破片 | ・・・(3.4) | 良好 | にぶい赤褐色 | 外面：胴部横撫施策文。２間止。１１本？１組。右回転。２段→横撫施策文。内面：ヘラミガキ。櫛者：後期。 |
| 143 | SD-8・9 砂利層 | 鉢 | 第一～胴部破片 | ・・・(17.1) | 良好 | にぶい赤褐色 | 外面：横撫施策文。２間止。１２本１組。右回転。胴部斜位ハケ（粗）→横撫状文。２段。内面：斜位ハケ（粗）→ヘラミガキ。櫛者：後期。 |
| 144 | SK-25 | 壺 | 胴部破片 | ・・・(3.5) | やや不良 | 橙色 | 外面：横位ハケ→横撫施策文。ヘラ状工具文。２段。内面：斜位ハケ（粗）。横撫施策。内面：不明瞭。櫛者：後期。 |
| 145 | 表土（SD-8 周辺） | 壺 | 胴部破片 | ・・・(2.7) | やや不良 | 橙色 | 外面：横位ハケ→横撫状文。ヘラ状工具。ヘラ状工具痕。横撫状文。内面：不明。櫛者：後期。 |
| 146 | SD-8・9 | 甕 | 胴部破片 | —・—・(3.1) | 良好 | 橙色 | 外面：ヘラ状痕跡状文痕を表現文で完成。内面：不明瞭。櫛者：後期。 |
| 147 | P-79 | 壺 | 胴部破片 | —・—・(3.7) | 良好 | にぶい橙色 | 外面：ヘラ状沈線状痕による横位区画内を竹管状ヘラ状工具痕状で完成。その下。横撫文内を竹管状工具痕状で完成する。横撫施策状。内面：ナデ？。櫛者：後期。 |

## 4. 古墳時代




第25図　古墳時代の遺構分布

古墳時代の遺構は、すべて前期に帰属すると判断した。調査した遺構は竪穴住居跡2軒と土坑4基、複数のピットである。土坑のうち、SK-9とSK-23は小型の竪穴住居跡、もしくは竪穴状遺構の可能性がある。調査区内での遺構分布は中央から西側にかけて散在する。各遺構からの出土遺物は少なく、時期判断には覆土の特徴を重視した。

### (1)　竪穴住居跡

**SI-1**（遺構第26・27図、遺物第29図）

**位置（座標）** 調査区北西隅（X=633・Y=-753付近）　**重複関係**　SI-3より新しく、P-113より古い。　**平面形態**　隅丸長方形　**規模**　東西4.28m・南北3.63m　深度6cm　**長軸方位**　N-77°-E　**床面の状況**　重複するSI-3覆土上を床面とし、全面的にわずかに硬化する。　**柱穴の状況**　床面精査時には柱穴の存在をつかめず、SI-3調査過程において認識した。主柱穴はP1・2・3・4と考えられ、南壁直下のP5・6は出入り口関連のピットであろうか。　**周溝**　床面では確認できない。　**炉**　確認できない。　**掘り方**　基本的にはSI-3覆土を直接床面としているが、壁面に沿うように溝状の掘り込みがあり、これを掘り方の痕跡と考えた。周溝のようにも見えるが、幅広である。西壁から南壁の直下で「L」字形に廻る。　**出土遺物**　S字状口縁付台付甕の破片が出土した。覆土出土の平安時代以降の遺物は、耕作攪乱からの混入とみなした。　**調査所見**　本住居跡は多くの耕作溝によって攪乱される。床面では炉の存在を確認できないが、耕作溝によって破壊された可能性もある。出土遺物は少量で、且つ小破片が主体である。S字甕の出土と覆土の特徴から、古墳時代前期の遺構と判断した。　**時期**　古墳時代前期

**SI-9**（遺構第27図、遺物第29図）

**位置（座標）** 調査区南端西寄り（X=601・Y=-738付近）　**重複関係**　SB-2より古い。　**平面形態**　隅丸長方形か。　**規模**　東西5.83m・南北4.27m（検出長）　**深度**　20cm（断面から計測）　**長軸方位**　N-82°-E　**床面の状況**　硬化強い。　**柱穴の状況**　不明　**周溝**　なし　**炉**　不明　**掘り方**　床面から最大20cm程度深く、ローム混土によって床とする。　**出土遺物**　二重口縁壺の口縁部が出土した。　**調査所見**　樹木（もちの木）部分は

調査区外になる。調査前では車両出入り口になっていたため削平が著しく、当初確認できたのは掘り方の底面近くのみであった。その後、樹木部分の調査区壁面精査に合わせて、部分的に床面を検出した。少量の出土遺物と覆土の特徴から、古墳時代前期の帰属と判断した。　**時期**　古墳時代前期

### (2)　土坑（遺構第27・28図、遺物第29図）

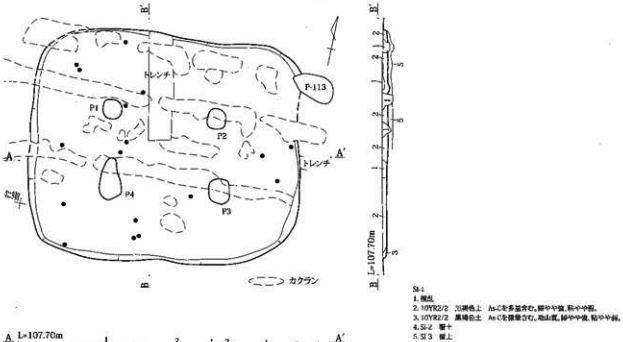
SK-9・23の2基の土坑は方形プランの比較的大きな掘り込みである。底面形状も平坦気味であり、小型の竪穴住居跡、もしくは竪穴状遺構の可能性がある。ただし床面として認識できるような硬化面は無く、柱穴や炉の痕跡も見出せない。SK-28・29は長方形プランの小土坑である。性格は不明である。

第8表　古墳時代の土坑一覧表　※規模欄の（　）＝残存値、〔　〕＝検出値、＜　＞＝推定値である。

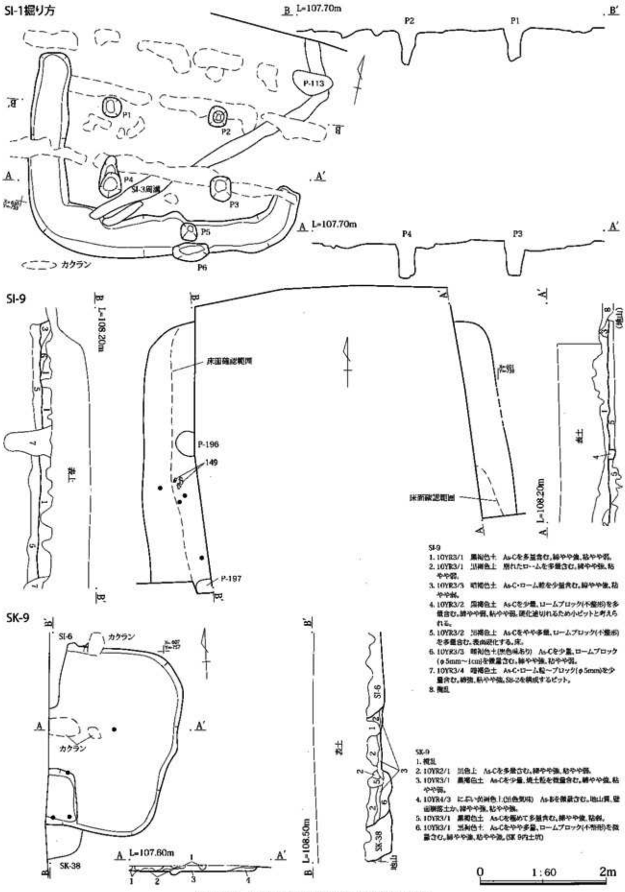
| 番号 | 位置 | 平面形状 | 長軸方向 | 規模（長×短×深）cm | 出土遺物 | 重複関係 | 開口形状 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK-9 | X=607・Y=757 | 楕円(方)形か | N-14°-E | (207) × 295 × 14 | 弥生 | SI-8より古<br>SK-38より新 | 底面は比較的平坦だが、確定しない。柱穴も確認できない。小型の竪穴住居跡や竪穴状遺構の可能性もあろうか。 |
| SK-23 | X=622・Y=740 | 歪み方隅丸方形 | N-53°-E | 300 × 286 × 5 | 弥生 | SK-30より新<br>P60・63より古 | 底面は比較的平坦だが、確定しない。特に確認できない。小型の竪穴住居跡や竪穴状遺構の可能性もあろうか。 |
| SK-28 | X=619・Y=725 | 長方形 | N-1°-W | 69 × 83 × 15 | 土師？ | なし | 底面は比較的平坦である。 |
| SK-29 | X=621・Y=726 | 長方形 | N-4°-W | 48 × 86 × 26 | なし | 覆土あり | 掘り込みの壁面は垂直気味で、底面も比較的平坦である。 |

### (3)　その他の出土遺物　（遺物第29図）

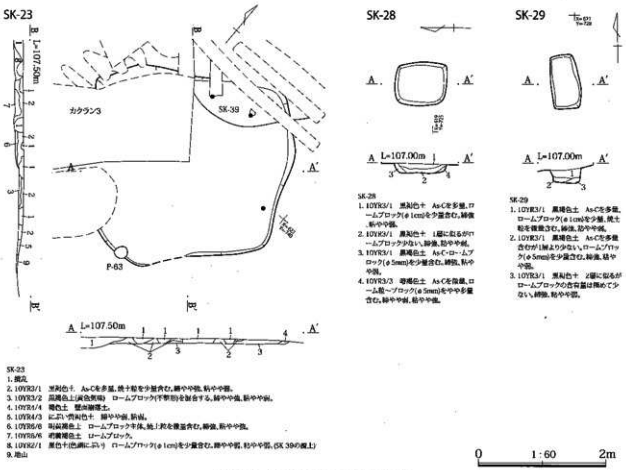
古墳時代の遺物には、平安時代以降の別時期の遺構から出土したものがある。竪穴住居跡や土坑、溝などの覆土に含まれていたものであるが、量的には少ない。帰属時期は前期であり、明らかに中期以降の遺物は目に付かない。



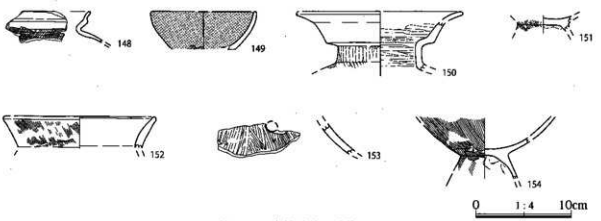

第26図　SI-1 平面・断面




第27図　SI-1 掘り方・SI-9・SK-9 平面・断面




第28図　SK-23・28・29 平面・断面

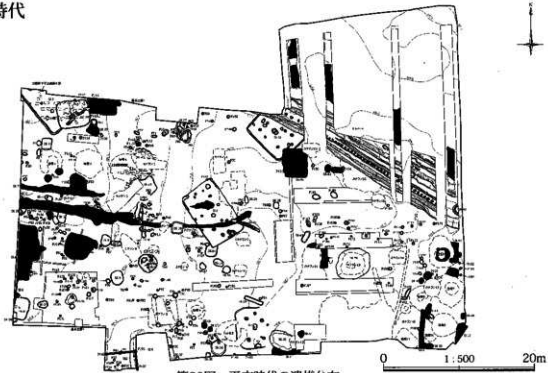



第29図　古墳時代の遺物

**第９表　古墳時代遺物観察表**　　計測値欄の（　）＝残存値、［　］＝復元値を示す。単位は cm。

| 番号 | 出土遺構 | 出土位置 | 器種 | 残存 | 計測値 | 焼成 | 色調 | 成・整形技法の特徴など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 148 | SI-1 | 覆土 | ５字状口縁台付甕 | 口縁部片 | －・（3.3） | 良好 | 淡褐色 | 外面：横～縦ヘラミガキ。内面：横方向に横位ハケ目。 |
| 149 | SI-1 | 覆土 | 鉢？ | 口縁～体部 | （11.0）・（3.7）・（4.0） | 良好 | にぶい赤褐色 | 内外面：ヘラミガキ。赤彩。外面黒斑有(底にハケ。内面：ナデ。ミガキ？ |
| 150 | SI-9 | 床 | 二重口縁壺 | 口縁～胴部 | （17.）・－・－（6.0） | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：上縦形横位ナデ。胴部は縦位ヘラミガキ。内面：ヘラミガキ。 |
| 151 | SK-23 | 覆土 | 台付甕 | 底部破片 | －・－・（1.9） | 良好 | にぶい黄橙色 | 内外面：ハケ。 |
| 152 | SI-4 | 覆土 | 甕 | 口縁破片 | －・－・（3.3） | 良好 | 淡黄色 | 外面：縦斜位ハケ。横位ナデ。内面：横位ナデ。ミガキ？ |
| 153 | SK-2 | 覆土 | 器台？ | 脚部破片 | －・－・（3.2） | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：縦位ヘラミガキ。内面：横位ヘラミガキ。透孔あり。 |
| 154 | SD-5 | 覆土 | 台付甕 | 脚下位～脚部 | －・－・（6.6） | 良好 | にぶい黄橙色 | 外面：縦位ハケ。内面：ナデ。脚外面にハケ判あり。 |

## 5. 平安時代




第30図　平安時代の遺構分布

平安時代の遺構は、竪穴住居跡10軒・掘立柱建物跡1棟・土坑19基以上・溝5条・複数のピットなどを調査した。土坑の中には竪穴住居跡の掘り方に相当するものが含まれている可能性もある。調査区内での当該期の遺構分布状況をみると、全体的に遺構が散在しているものの、中央部の密度が薄いように見受けられる。しかし旧耕作による攪拌や宅地造成時の削平と、残存する当該期の遺構深度を考慮すれば、すでに痕跡を留めない遺構が存在した可能性がある。本来的には調査区中央部においても当該期の遺構が存在したものと推測する。

### (1)　竪穴住居跡

SI-2（遺構第31図、遺物第39図）

**位置（座標）** 調査区北西隅（X=631・Y=-747付近）　**重複関係**　SI-3より新しく、P-113・114より古い。　**平面形態**　隅丸長方形か。　**規模**　東西3.46m・南北2.09m（検出長）　**深度**　3cm　**主軸方位**　N-95°-E　**床面の状況**　比較的平坦で、硬化はあまり強くない。　**柱穴の状況**　確認できない。　**周溝**　南壁沿いに幅広の溝状掘り込みがあるが、周溝に相当するかは不明。　**カマド**　東壁で検出した。遺存状態は不良、袖も確認できない。覆土には焼土を含むが、火床の被熱痕跡は見出せない。　**掘り方**　未調査　**出土遺物**　貯蔵穴から墨書のある土師器坏と須恵器埦が出土した。　**調査所見**　耕作による攪拌のため遺構の残存状態は不良。南東隅に楕円形状の貯蔵穴がある。南西隅の不整円形土坑は重複遺構の可能性が低く、本住居跡に伴うと考えた。　**時期**　平安時代

SI-4（遺構第31・32図、遺物第39図）

**位置（座標）** 調査区西端南寄り（X=608・Y=-757付近）　**重複関係**　SI-5・10より新しい。　**平面形態**　隅丸長方形か。　**規模**　東西0.57m（検出長）・南北4.56m　**深度**　4cm　**主軸方位**　N-92°-E　**床面の状況**　カマド前の硬化が顕著。　**柱穴の状況**　不明　**周溝**　確認できない。　**カマド**　東壁南東隅で検出。残存状態不良。覆土に焼土を含むが、火床の被熱痕跡は見出せない。　**掘り方**　床面からの深度は15cm程度　**出土遺物**　土師器甕、土師質土器坏・高台付坏が出土。　**調査所見**　全体的な耕作攪拌により、残存状態不良。貯蔵穴とカマド、及びカマド前面の掘り込みは検出したが、それ以外の平面形態は土層断面からの復元である。　**時期**　平安時代

SI-5 （遺構第32図、遺物第39図）

**位置（座標）** 調査区西端南寄り（X=608・Y=-757付近） **重複関係** SI-4より古く、SI-6・10より新しい。 **平面形態** 隅丸長方形か。 **規模** 東西2.02m（検出長）・南北3.66m（推定長） **深度** 0cm **床面の状況** 遺構確認面で床面が露出している状態である。硬化は弱いが、周囲の地山とは識別できる。 **柱穴の状況** 確認できない。 **周溝** 確認できない。 **カマド** わずかな焼土痕跡から東壁南寄りに設けられていたと考えられる。掘り込みは不明瞭。 **掘り方** 地山を床面とする。 **出土遺物** 酸化焔焼成気味の須恵器壺・羽釜、須恵器甕、貯蔵穴から土師器甕が出土。 **調査所見** 壁面は全て失われている。床面のわずかな硬化と貯蔵穴の位置、土層断面の状況から平面形態を復元した。また、本住居跡の南側には耕作溝の痕跡が多い。 **時期** 平安時代

SI-6 （遺構第31・32図、遺物第39図）

**位置（座標）** 調査区西端南寄り（X=608・Y=-757付近） **重複関係** SI-5より古く、SK-9より新しい。 **平面形態** 不明 **規模** 東西0.40m（検出長）・南北3.21m（復元残存長） **深度** 10cm **主軸方位** N-94°-E **床面の状況** 硬化する。 **柱穴の状況** 不明 **周堀** 不明 **カマド** 東壁南寄りで検出。覆土に焼土を含み、一部灰が混じる。火床の被熱痕跡は見出せない。煙道部には耕作攪乱あり。 **掘り方** 床面からの深度は浅い。 **出土遺物** 灰釉陶器高台付皿が出土した。 **調査所見** 東壁の一部とカマドを検出したのみである。 **時期** 平安時代

SI-10 （遺構第32図、遺物第39図）

**位置（座標）** 調査区西端南寄り（X=617・Y=-757付近） **重複関係** SI-4・5より古い。 **平面形態** 隅丸長方形か。 **規模** 東西2.78m（推定検出長）・南北4.49m（推定長） **深度** 0cm **主軸方位** N-86°-E **床面の状況** 地山を床とし、わずかに硬化する。 **柱穴の状況** 確認できない。 **周溝** 確認できない。 **カマド** 焼土の痕跡から東壁南寄りに設けられていたと考えられる。 **掘り方** なし **出土遺物** 土師器甕が出土した。 **調査所見** 壁面は全て失われている。床面のわずかな硬化と貯蔵穴の位置、土層断面の状況から平面形態を復元した。床面上の覆土が局所的に残る部分があり、遺物はここから出土した。 **時期** 平安時代

SI-11 （遺構第33図）

**位置（座標）** 調査区南端ほぼ中央（X=600・Y=-721付近） **重複関係** SK-30との関係は不明。 **平面形態** 不明 **規模** 東西3.73m（推定長）・南北 不明 **深度** 29cm（土層断面） **調査所見** 調査区壁の土層断面にて確認した。平面的な精査を行ったが、痕跡は不明瞭である。床下上坑状の掘り込みと、周溝の一部の可能性のある小溝を確認した。カマドの存在は確定できないが、上層断面の東端に焼土を多く含む層が認められる。よって東壁に存在する可能性がある。平面精査時に土師器と須恵器の小破片が出土しており、平安時代の帰属を推測した。

SI-13 （遺構第33図、遺物第39図）

**位置（座標）** 調査区東端南寄り（X=611・Y＝-701付近） **重複関係** なし **平面形態** 方形か **規模** 東西2.75m・南北2.70m **深度** 9cm **主軸方位** N-91°-E **床面の状況** 比較的平坦で、硬化は弱い。 **柱穴の状況** 確認できない。 **周溝** 確認できない。 **カマド** 東壁南寄りで検出。覆土には焼土粒と灰層が認められる。火床の被熱痕跡は明瞭でなく、袖も不明である。 **掘り方** なし **出土遺物** 酸化焔焼成気味の埦が出土した。 **調査所見** 樹木の抜根時に住居跡中央部が壊された。南東隅には貯蔵穴が存在し、西隣には深さ10cm弱の小穴がある。西壁の掘り込みは残らないが、地山との土質の境界を壁面ラインとして把握した。 **時期** 平安時代

SI-14 （遺構第33図、遺物第39図）

**位置（座標）** 調査区南東隅付近（X=605・Y=-705付近） **重複関係** SD-3より古い。 **平面形態** 隅丸方形か **規模** 東西0.77m（残存長）・南北2.03m（残存長） **深度** 5cm **主軸方位** N-100°-E **床面の状況** 地山を

床とする。比較的平坦で、カマド前面は硬化する。 **柱穴の状況** 確認できない。 **周溝** 確認できない。 **カマド** 東壁で検出。覆土に焼土を含む。火床の被熱痕跡は明瞭ではない。 **掘り方** なし **出土遺物** カマドから土師器甕が出土した。 **調査所見** 撹乱によって多く壊され、確認できたのはカマドとその周辺である。貯蔵穴も確認できず、完全に壊されたのだろう。カマド前面の小穴は、床面からの深さ7cm程度である。 **時期** 平安時代

SI-15 （遺構第34図、遺物第39図）

**位置（座標）** 調査区南東隅（X=604・Y=-700付近） **重複関係** なし **平面形態** 長方形か **規模** 東西1.15m（残存値）・南北2.81m（推定残存値） **深度** 5cm **東西軸方位** N-98°-E **床面の状況** 地山を床とし、比較的平坦で硬化は無い。 **柱穴の状況** 確認できない。 **周溝** 確認できない。 **掘り方** なし **出土遺物** 土師器坏が出土した。 **調査所見** 掘り込みは全体的に浅く、遺構最北部での壁面は不明瞭になる。この部分の平面形態は、調査区壁の土層断面（未記録）を根拠にして推定復元した。結果として方形基調の形態が復元できることと、底面の硬化は無いが平坦であることから、竪穴住居跡のコーナー部分として判断した。 **時期** 平安時代

SI-16 （遺構第34図、遺物第39図）

**位置（座標）** 調査区中央東寄り（X=613・Y=-717付近） **重複関係** P-183・184不明 **平面形態** 長方形か **規模** 東西2.67m（推定値）・南北3.37m（推定値） **深度** 4cm **主軸方位** N-92°-E **床面の状況** 撹乱によって大部分が壊される。硬化は弱い。 **柱穴の状況** 確認できない。 **周溝** 確認できない。 **カマド** 東壁南寄りで検出した。煙道部分は撹乱によって壊される。焚口部にて袖の残痕を確認した。 **掘り方** なし **出土遺物** 土師質土器坏と須恵器甑？が出土した。 **調査所見** 削平と撹乱によって壊されているため、全体的な残存状態は不良である。北東隅部分はトレンチ掘削時に失ってしまった。南東隅にて貯蔵穴を検出した。 **時期** 平安時代

## (2) 掘立柱建物跡

SB-2 （遺構第34図）

**位置（座標）** 調査区南端西寄り（X=600・Y=-745付近） **重複関係** SI-9より新しい。 **平面形態** 長方形か **規模（柱穴心々）** 東西3m97cm（検出長）・南北2m34cm（検出長） **深度** P140・27cm/P41・49cm/P-196・42cm/P-197・15cm **長軸方位** N-85°-E **出土遺物** なし **調査所見** ピット深度にバラつきがあるが、規則的な配列であることから掘立柱建物跡として認定した。調査区外へと続くため全容不明だが、おそらく東西2間以上・南北1間の東西棟側柱建物になると思われる。帰属時期は覆土の特徴から判断した。 **時期** 平安時代

## (3) 土坑 （遺構第34・35・36図、遺物第39図）

土坑は9基以上を調査したが、多くは性格不明である。中でもSK-25とSK-45は比較的大きな長方形基調のプランであり、竪穴住居跡の掘り方残痕や、竪穴状遺構の可能性は考えられる。また、SK-49は竪穴住居跡のコーナー部分の可能性も考えられる。

第10表 平安時代の上坑一覧表 ※規模欄の（ ）＝残存値、［ ］＝検出値、＜ ＞＝推定値である。

| 番号 | 位置 | 平面形態 | 長軸方向 | 規模（長×短×深）cm | 出土遺物 | 重複関係 | 調査所見 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK-1 | X-623・Y-755 | 歪んだ円形 | N-8°-E | 96×90×10 | 須恵 | なし | 第十七ローム層ブロックをややきく含む解が多る。周囲は比較的すり鉢である。 |
| SK-2 | X-624・Y-752 | 歪んだ楕円形 | N 81°-E | 99×84×14 | 土師 | なし | 周囲は緩い丸底状になる。 |
| SK-5 | X-622・Y-749 | 不整形 | N-4°-W | (237)×218×58 | 土師・須恵・不明（製品）・須恵 | SD2より古 | 不明部の中央部分と、掘り込みの浅い長楕円風味の土坑部分からなる。ロームブロックを含む層がある。壁の開しの印象は深い。性格不明。 |
| SK-10 | X-617・Y-754 | 不整形 | N-9°-E | 113×93×10 | なし | なし | 底面に凹凸が多くある。壁の開閉による可能性が高い。 |
| SK-16 | X-603・Y-754 | 歪んだ円形 | N-76°-E | 72×70×27 | なし | なし | 底面は平坦気味で、壁際は盛内気味に開りとされる。 |
| SK-17 | X-602・Y-754 | 歪んだ円形 | N-8°-W | 85×57×28 | 土師 | なし | 底面は平坦気味で、壁際は盛内気味に開りとされる。 |
| SK-21 | X-622・Y-758 | 隅丸長方形か | N-61°-W | (64)×84×17 | なし | SD-2より新 | 底面には起伏があり、緩い丸底状になる。 |
| SK-25 | X-612・Y-749 | いびつな形基調 | N 140°-E | 343×329×12 | 土師・須恵・新生 | なし | 底面の起伏が多くい。北東隅の突出部分は別十坑・竪穴などの想定か。共同壁の掘り方の可能性もある。 |
| SK-35 | X-630・Y-749 | 不整形 | N-81°-W | 171×(107)×20 | 土師・須恵・灰釉陶器・土師質 | SE-1より古 | 底面は緩く起伏し、東壁際に掘り形状の盛り込みがある。 |

| 番号 | 位置 | 平面形態 | 長軸方向 | 規模（長×短×深）cm | 出土遺物 | 重複関係 | 調査所見 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK-40 | X=624・Y=718 | 楕円形 | N-9°-E | 102 × 80 × 31 | 土師・須恵 | なし | 竪土中の礫は底面より 10cm 前後ぶつ.位置での出土. |
| SK-41 | X=624・Y=717 | 歪んだ長楕円形 | N-89°-E | 113 × 58 × 10 | なし | P-194 より新 | 竪土ロームブロックを多く含む層あり. 遺構の規模は弱い. |
| SK-44 | X=611・Y=701 | 長方形状か | N-68°-W | 156 × (108) × 1 | 土師・須恵・弥生 | なし | 当初を掘削によって確ずれる. 規模は不明である. |
| SK-45 | X=625・Y=720 | 瓜小形 | N-20°-W | 376 × 328 × 16 | 土師・弥生 | SB-12 より古. P-161 より新. | 遺構には十分伝の溝らるみがある. 在初時の掘り方の可能性もある. |
| SK-46 | X=609・Y=706 | 点人円形 | N 9°-E | 76 × 62 × 21 | 土師・弥生 | なし | 規模には 段 上がる度ち込みがある. |
| SK-47 | X=610・Y=705 | 楕円形 | N-71°-E | 108 × 98 × 10 | 土師・須恵・弥生 | P-167 より新 | 規模は比較的平坦である. |
| SK-48 | X=605・Y=700 | 歪んだ隅丸方形か | N-5°-W | 68 × (62) × 8 | 土師? | なし | 東側は調査区外. 規模は不明で, 西に延びるのみがある. |
| SK-49 | X=601・Y=704 | 不整形 | S-87°-W | (107) × (77) × 5 | なし | SD-3 より古 | 西側は調査区外で, 内側は SD-3 に壊されている. 全容は不明. 当初掘穴状遺構の可能性も考えたが, 規模は狭くたない. 底面に西へ落ち込みがあるが, 全体的には平坦. 硬化なし. |
| SK-51 | X=603・Y=721 | 不整形 | N 15°-E | 97 × 80 × 29 | なし | なし | 地面には硬い地区がある. |
| SK-52 | X=618・Y=736 | 不整形 | N-87°-E | 315 × 103 × 7 | 弥生 | SI-8 より新 | 第 11 図参照. 写本 B 南東に下検出. 不整形で底面付近のみの検出である. 本来は長軸が別か. |

## (4) 溝

### SD-1 （遺構第 37 図）

**位置（座標）** 調査区東壁中央から東方向（X=620・Y=-750 付近から東方向） **重複関係** SK-20・18・SI-8 より新しく、SK-3・22 より古い。 **平面形態** 幅は不均一で、直線的ながらも湾曲気味に走向する。 **規模** 全長約 32m・幅約 1m40cm **深度** 18cm 程度 **走行方位** N-97°-E 前後 **出土遺物** 土師器・須恵器 **調査所見** 東側が浅くなり、調査区中央付近では痕跡を留めない。SD-2 と並ぶ位置関係にある。 **時期** 平安時代

### SD-2 （遺構第 37 図）

**位置（座標）** 調査区東壁中央から東方向（X=620・Y=-750 付近から東方向） **重複関係** SK-5 より新しく、SK-21 より古い。 **平面形態** 幅は不均一で、直線的に走向する。 **規模** 全長約 11m・幅約 92cm **深度** 26cm 程度 **走行方位** N-95°-E 前後 **出土遺物** 土師器・須恵器 **調査所見** 東西方向の走行方位を示すが途中で途切れてしまう。SD-1 と並走する位置関係にあるが、同時的な遺構であるかは不明である。 **時期** 平安時代

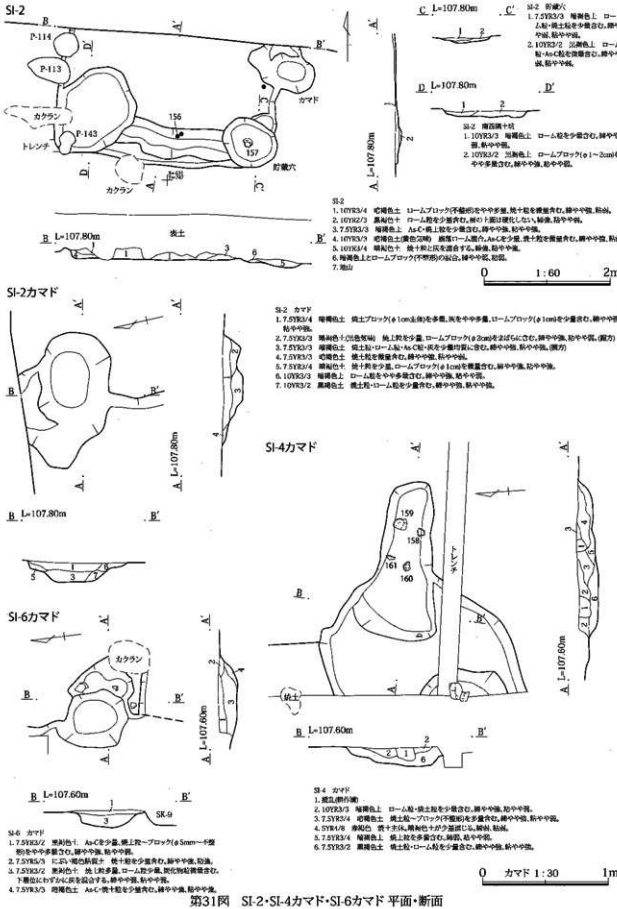
### SD-3 （遺構第 37 図）

**位置（座標）** 調査区南東隅（X=600・Y=-705 付近） **重複関係** SI-14・SK-49 より新しい。 **平面形態** 幅はほぼ均一で直線的。 **規模** 全長 5m11cm・幅 60cm **深度** 12～41cm **走行方位** N-3°-E **出土遺物** 縄文土器・土師器・須恵器・灰釉陶器 **調査所見** 走行は連続せず途中で途切れる。底面の高さは一定しない。 **時期** 平安時代

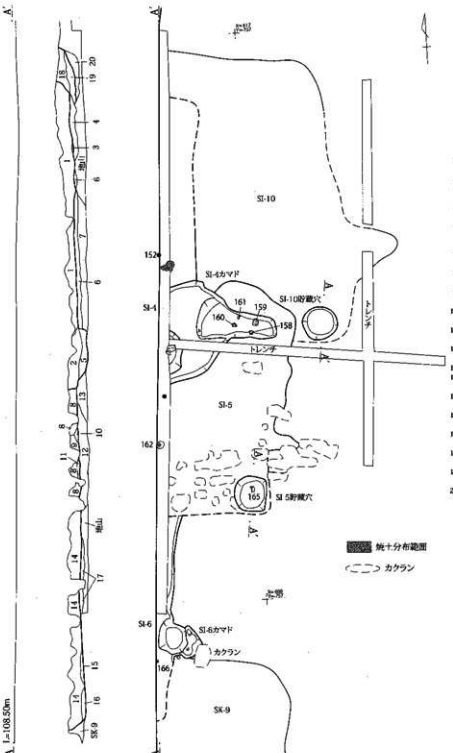
### SD-4～9 （遺構第 38 図、遺物第 39 図）

SD-4～9 は調査区北東（X=630・Y=-720 付近）で検出した。複数の溝が重複状態にある。全体としての検出長は 31m 程度、最大幅は 11m 程度と推測される。走行方位は N-122°-E を指向する。平面的に確認できた部分について遺構番号を付与しており、土層断面のみで確認した部分には遺構番号は与えていない。このうち SD-4～7 では現代遺物が出土しており、近現代の溝であることが判明した。SD-4 は平面的に掘りドげたが、SD-5 の掘りドげに伴い無くなった。最も北側に位置する SD-8・9 は重複状態にあるが、新旧関係は不明確である。しかし、両者共に出土遺物は平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦などであり、帰属する時代は平安時代と考えられる。SD-8 が 1.95m 程度の深さ、SD-9 が 2.69m 程度の深さを測り、底面付近には砂粒の堆積が認められる。調査時点では湧水があった。南東側では重複することによって 1 本の溝状になる。牛か馬と考えられる歯の出土もあった。

SD-4～9 は同一場所で南側へと位置をずらしながら開削された用水路跡と考える。最初に SD-8 ないし SD-9 が掘削され、中近世の出土遺物が少ないことは気にかかるものの、平安時代以降現代に至るまで連綿と継続された可能性を考えておきたい。古地図等で確認をとっていないため断定を避けるが、取水は北西の唐沢川、落水は南東の井野川であったと推測する。南東方向へと通水し、比較的短距離を灌漑したのであろう。SD-8・9 北側の土層断面ではグライ化した土壌と鉄分沈着層を確認することができ、近現代の水田の存在を推測する。




第31図　SI-2・SI-4カマド・SI-6カマド 平面・断面




SI-5貯蔵穴

A L=108.50m A'



SI-5 貯蔵穴
1. 最後(廃作用)
2. 10YR3/3 暗褐色土 As-C・焼土粒を少量含む。締やや強、粘やや強。
3. 10YR3/1 黒褐色土 As-C・焼土粒を少量、炭粒が点ロームブロック(φ2cm)を含む。
4. 10YR3/3 暗褐色土(黄色気味) As-Cを微量含む。締やや強、粘やや弱。

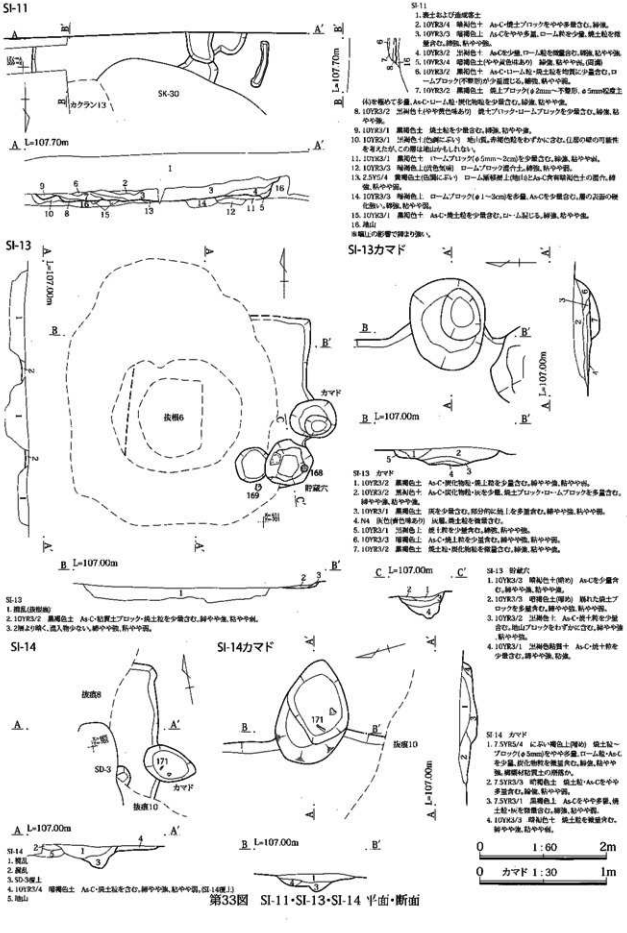
SI-10貯蔵穴

A L=108.50m A'

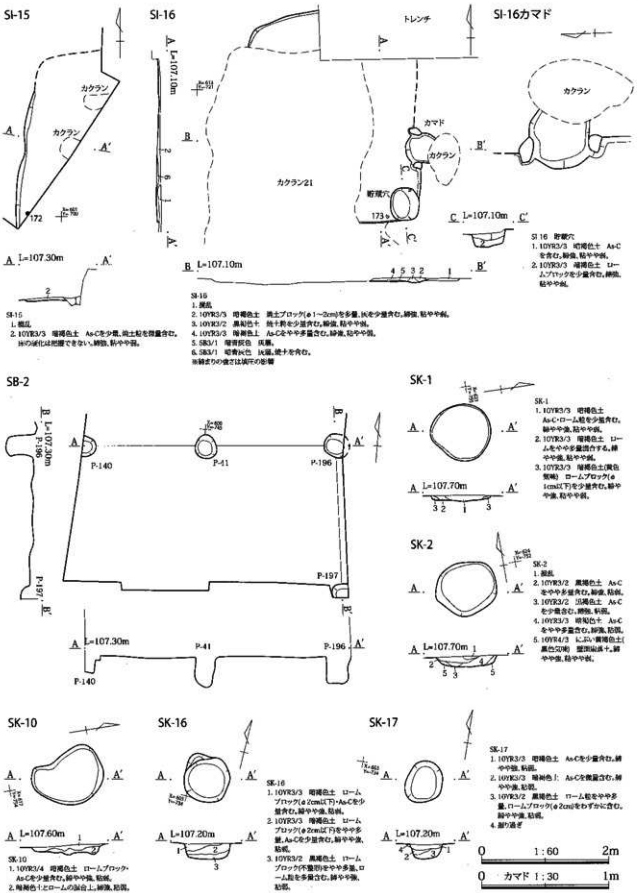
SI-10 貯蔵穴
1. 10YR3/3 暗褐色土 As-Cを少量含む。締やや強、粘やや弱。粘やや強。
2. 10YR3/2 黒褐色上 締やや強、粘やや強。
3. 10YR3/3 暗褐色土(黄色気味) As-Cを微量含む。締やや強、粘やや強。

0 1:60 2m

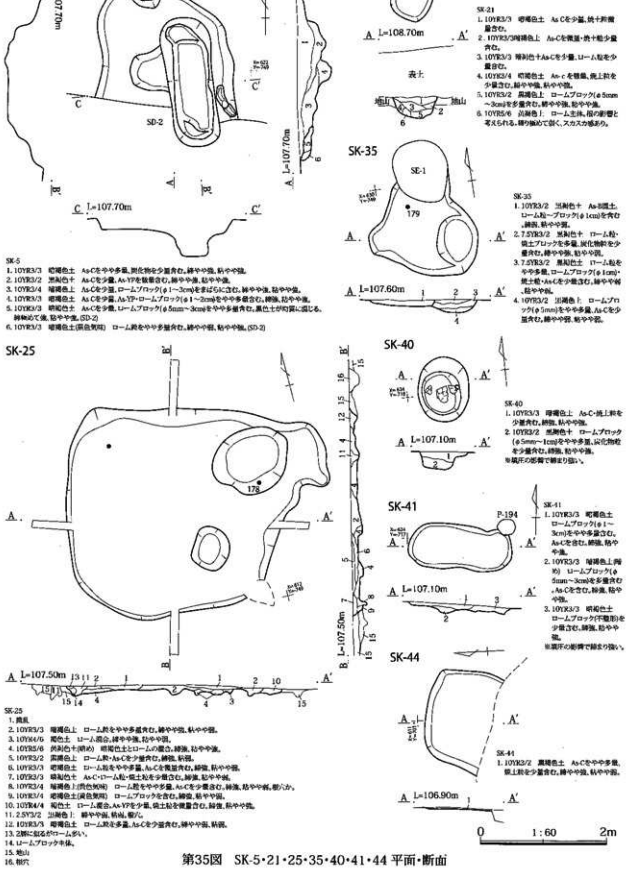
第32図 SI-4～6・10 平面・断面



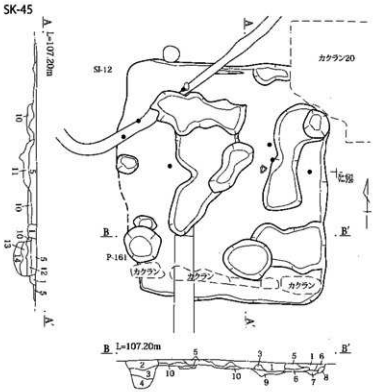

第33図 SI-11・SI-13・SI-14 平面・断面



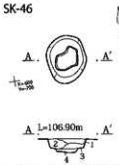

第34図　SI-15・16・SB-2・SK-1・2・10・16・17 平面・断面



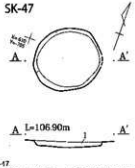

第35図 SK-5・21・25・35・40・41・44 平面・断面



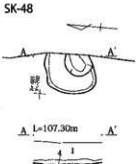

SK-45
1. 撹乱
2. 10YR3/3 暗褐色土 As-Cを多量,焼土ブロック(φ1cm以下)・炭化物粒を微量含む,締強,粘やや弱.(P161)
3. 10YR3/2 黒褐色土 As-C・ローム粒を少量含む,締強,粘やや弱.(P161)
4. 10YR3/2 黒灰色土 As-Cを微量,ロームブロック(φ5mm)を少量含む,締強,粘やや弱.(P161)
5. 10YR3/2 黒褐色土 As-C・ロームブロック(φ5mm)をやや多量,焼土粒を微量含む,締強,粘強.
6. S層に似るがAs-Cが少ない.
7. 10YR3/4 黒褐色土 焼土粒をやや多量含む,締強,粘やや弱.
8. 10YR3/4 暗褐色土 崩れたロームブロックを多量含む,締強,粘やや弱.
9. 10YR3/3 明褐色土 ロームブロック(φ5mm)を少量,焼土粒を微量含む,締強,粘やや弱.
10. 10YR3/2 黒褐色土(黄色味) As-Cを少量含む,ローム粒に.締強,粘やや弱.
11. 10YR3/2 黒灰色土 ロームブロック(不整形)をやや多量,As-Cを少量含む,締強,粘やや弱.
12. 10YR3/1 黒褐色土 焼土粒を少量含む,締強,粘やや弱.
13. 10YR3/1 黒灰色土 焼土粒を多量含む,締強,粘やや弱.
14. 10YR3/1 黒褐色土 焼土粒を少量,ロームブロック(φ2～4cm)を補的に含む,締強,粘やや弱.
※補足の数字は掘平の断面による.



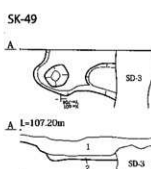

SK-46
1. 10YR3/2 黒褐色土 As-Cを少量含む,締やや強,粘やや強.
2. 10YR3/3 暗褐色土 As-C・焼土粒を微量含む,締やや強,粘やや弱.
3. 10YR3/3 暗褐色土 粗人物少ない,締やや強,粘やや強.
4. 10YR3/4 明褐色土 地山ブロック混在,ロームブロック(φ3cm)を局所的に含む,締やや強,粘やや強.



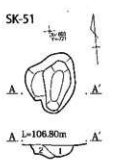

SK-47
1. 10YR3/3 暗褐色土 As-Cを少量,焼土粒を微量含む,締やや強,粘やや弱.
2. 10YR3/4 明褐色土 As-C・焼土粒を微量含む,締やや強,粘やや強.(P-167)




SK-48
1. 盛土
2. 10YR3/3 暗褐色土 As-Cを含む,締強,粘やや弱.
3. 7.5YR3/3 暗褐色土 As-Cを含む,焼土粒を多量含む,締強,粘やや弱.
4. 10YR3/3 暗褐色土 As-Cを含む,焼土粒を少量含む,締強,粘やや強.
5. 10YR3/2 黒褐色土 As-Cを含む,焼土粒を微量含む,締強,粘やや弱.
6. 10YR4/2 にぶい黄褐色土 焼土粒を微量含む,締強,粘やや弱.
7. 10YR3/2 黒褐色土(黄色味あり) 焼土粒を微量含む,締強,粘やや弱.
※第FE区形層で解析が強い.



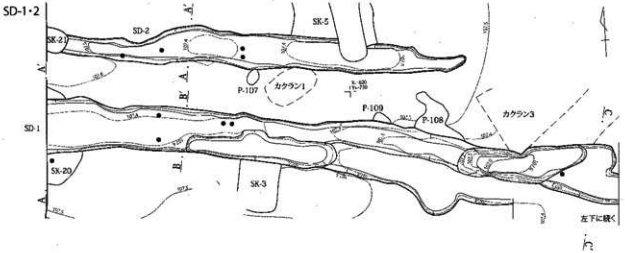

SK-49
1. 撹乱.
2. 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(φ1cm以下)を少量含む,締やや弱,粘やや弱.

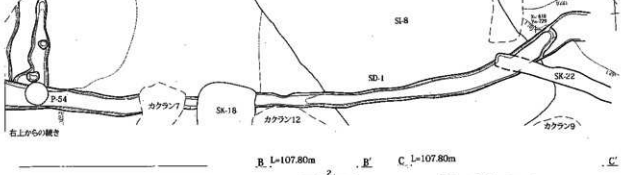



SK-51
1. 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック(不整形)を少量含む,締やや強,粘やや強.
2. 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(不整形)を多量含む,締やや弱,粘やや弱.

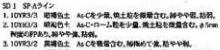
0 1:60 2m

第36図 SK-45～49・51 平面・断面

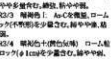


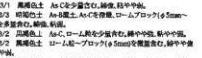

表土




SD-1 SP-A ライン
1. 10YR3/3 暗褐色土 As-Cを少量、焼土粒を微量含む、締やや弱、粘弱。
2. 10YR3/3 暗褐色土 As-C・ローム粒を少量、焼土粒を微量含む、φ5mm程度の炭あり、締やや強、粘弱。
3. 10YR3/2 黒褐色土 As-Cを微量含む、極稀めて強、粘やや弱。
4. 10YR3/3 暗褐色土 As-Cを少量、ローム粒～ブロック(φ5mm)をやや多量含む、締やや強、粘やや弱。
5. 10YR3/2 黒褐色土 As-C・ローム粒～ブロック(φ1cm以下)を多量、焼土粒を微量含む、締極めて強、粘強。
6. 10YR3/3 暗褐色土 As-C・ローム粒を少量含む、締やや強、粘やや弱。

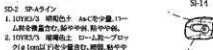



SD-1 SP-B ライン
1. 撹乱(耕作溝)
2. 10YR3/3 暗褐色土 As-Cを少量、ローム粒をやや多量含む、締弱、粘やや強。
3. 10YR3/3 暗褐色土 As-Cを微量、ロームブロック(不明瞭)を少量含む、締やや強、粘やや弱。
4. 10YR5/4 暗褐色土(黄色気味) ローム粒～ブロック(φ1cm)を少量含む、締やや弱、粘やや強。
5. 10YR3/2 暗褐色土 As-Cを微量、ローム粒～ブロック(φ1cm程度十)を微めて多量含む、黒色土ブロック(φ1～2cm)を少量含む、締強の強、粘やや強。

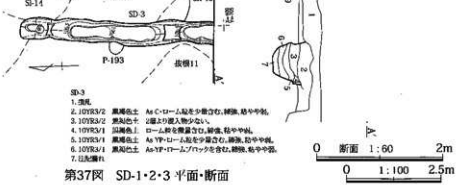



SD-1 SP-C ライン
1. 撹乱
2. 7.5YR3/1 黒褐色土 As-Cを少量含む、締強、粘やや強。
3. 10YR3/3 暗褐色土 As-B層土、As-Cを微量、ロームブロック(φ5mm～2cm)を多量含む、締強、粘弱。
4. 10YR3/2 黒褐色土 As-C、ローム粒を少量含む、締やや強、粘やや弱。
5. 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒～ブロック(φ5mm)を微量含む、締やや強、粘やや弱。
6. 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒をやや多量、ロームブロック(φ5mm)を少量含む、締やや強、粘やや弱。
7. 10YR3/2 黒褐色土 As-Cを微量含む、締やや強、粘やや弱。
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 地山崩落土
9a. 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック(φ5cm～4cm/φ1～2cmを稀)を多量含む、締強、粘やや弱。
9b. 9a層よりもロームブロックが少ない。
10. 地山
11. 根株

SD-3



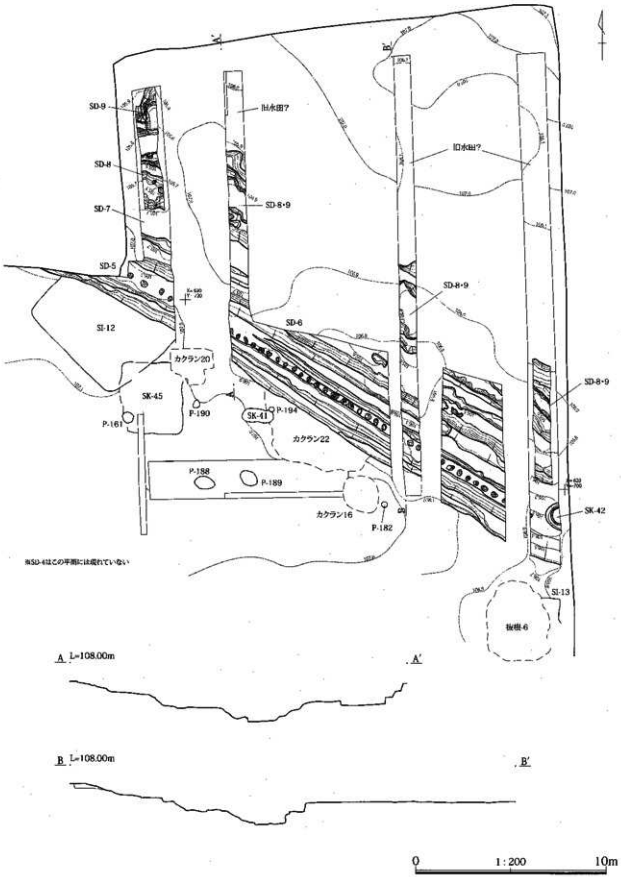

SD-2 SP-A ライン
1. 10YR3/3 暗褐色土 As-Cを少量、1～2層を微量含む、粘やや弱、粘やや強。
2. 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒～ブロック(φ1cm以下)を少量含む、締弱、粘やや弱。
3. 暗褐色土上ロームの崩落、粘やや弱、粘やや強。
4. 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒～ブロック(φ5mm中強、最大φ3cm程度)を多量含む、締やや強、粘やや弱。



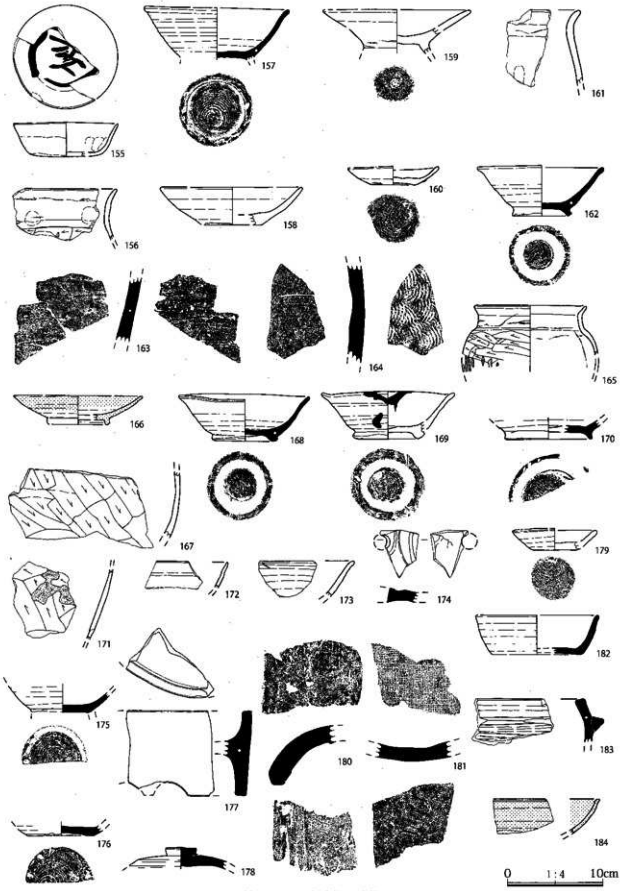

SD-3
1. 撹乱
2. 10YR3/2 黒褐色土 As-C・ローム粒を少量含む、締強、粘やや弱。
3. 10YR3/2 黒褐色土 公園より流入物ならん。
4. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒を微量含む、締強、粘やや弱。
5. 10YR3/1 黒褐色土 As-YP・ローム粒を少量含む、締強、粘やや弱。
6. 10YR3/1 黒褐色土 As-YP・ロームブロックを含む、締強、粘やや強。
7. 杭配置杭

0 断面 1:60 2m
0 1:100 2.5m

第37図 SD-1・2・3 平面・断面




第38図　SD-5～9 平面・エレベーション




第39図　平安時代の遺物

第11表　平安時代遺物観察表　　出土遺構の（　）＝残存値、〈　〉＝復元値を示す。単位は cm。

| 番号 | 出土遺構 | 出土位置 | 器種 | 残存 | 法量 | 焼成 | 色調 | 成・整形技法の特徴など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 155 | SI 2 | 貯蔵穴 | 土師器・杯 | 1/3 程度残 | (11.0)・(7.5)・3.6 | 酸化 | 明色 | 外面に線状痕あり ナデ。体部強張感。底部ヘラケズリ。内面：漆黒あり。判断不明。 |
| 156 | SI 2 | 貯蔵穴 | 土師器・杯 | 口縁破片 | ・・・・(5.4) | 酸化 | にぶい黄色 | 外面上端一部線状痕ナデ。強張感。底部ヘラケズリ。 |
| 157 | SI 2 | 貯蔵穴 | 土師器・皿 | 口縁 1/2 欠 | 15.0・(7.7)・(5.5) | 酸化気味 | にぶい黄橙色 | 内外面ヨコナデ整形。底部周縁あり 指押 指押 ナデ。底部外面墨書あり? |
| 158 | SE 4 | カマド | 土師器・杯 | 口縁一底欠 | (14.8)・(6.2)・4.0 | 酸化 | にぶい橙色 | 内外面ヨコナデ整形。底部周縁あり ナデ。 |
| 159 | SE 4 | カマド | 土師器・須恵打圏 | 口縁 3/4 欠 | 15.4・(4.5)・(7.1) | 酸化 | 橙色 | 内外面ヨコナデ整形。円板ナデ。底部回り 歪 ノ痕跡 後ナデ。 |
| 160 | SE 4 | カマド | 土師器・皿 | 口縁一底欠 | 9.4・4.6・2.0 | 酸化 | 橙色 | 内外面ヨコナデ整形。円板ナデ。底部周縁あり。 |
| 161 | SE 4 | カマド | 土師器・杯 | 口縁破片 | ・・・・8.1 | 酸化 | にぶい黄橙色 | 口縁部破片ナデ。 |
| 162 | SI 5 | 床 | 須恵器・瓶 | 口縁一体 1/2 欠 | 13.2・5.8・5.3 | 酸化気味 | 浅黄橙色 | 内外面ヨコナデ整形。底部周縁あり 指押 内部付。 |
| 163 | SI 5 | 覆土 | 須恵器・瓶 | 胴破片 | ・・・(8.8) | 酸化気味 | 浅黄橙色 | 内外面ヨコナデ整形。 |
| 164 | SI 5 | 覆土 | 須恵器・瓶 | 胴破片 | ・・・(10.0) | 還元 | 黄灰色 | 外面平行タタキ?。内面：青海波文。 |
| 165 | SI 5 | 貯蔵穴 | 七師器・瓶 | 口縁一頸破片 | (11.6)・・・(7.1) | 酸化 | にぶい黄橙色 | 胴部外面ヘラケズリ。頸・頸部ヨコナデ。 |
| 166 | SI 6 | 覆土 | 灰釉・高台付皿 | 口縁一高台破片 | (13.4)・(6.3)・3.1 | 還元 | 黄白色 | 内外面ナデ整形。底部切り離し技術不明。内外面とも体部中位まで施釉。 |
| 167 | SI 10 | 覆土 | 七師器・瓶 | 胴破片 | ・・・(7.0) | 酸化 | にぶい黄橙色 | 胴部外面ヘラケズリ。内面ヘラ。 |
| 168 | SI 13 | 貯蔵穴 | 須恵器・瓶 | 底部 | 13.6・6.1・5.0 | 酸化気味 | にぶい黄橙色 | 内外面：ヨコナデ整形。底部周縁あり切り離技法痕跡。 |
| 169 | SI 13 | 床 | 七師器・瓶 | 口縁 2/3 欠 | (13.6)・6.3・5.0 | 還元 | 黒褐色 | 内外面：ヨコナデ整形。底部周縁あり切り離技法痕跡。口縁部に重色付着物あり。釉か? |
| 170 | SI 13 | 貯蔵穴 | 須恵器・瓶 | 底部片 | ・(9.0)・(2.5) | 還元 | 灰色 | 内外面：ヨコナデ整形。底部周縁あり切り離技法痕跡。 |
| 171 | SI 14 | カマド | 土師器・瓶 | 胴破片 | ・・・・(7.5) | 酸化 | 橙色 | 外面ヘラケズリ。粘土付着。 |
| 172 | SI-15 | 壁土 | 土師器・杯 | 口縁破片 | ・・・・・(2.8) | 酸化 | 明赤褐色 | 口縁部破片ナデ。 |
| 173 | SI-16 | 壁土 | 土師器・瓶 | 口縁破片 | ・・・・・(3.8) | 酸化 | 褐灰色 | 内外面ヨコナデ整形。 |
| 174 | SI-16 | カマド | 須恵器・鉢? | 底破片 | ・・・・・ | 還元 | 灰白色 | ロクロ整形。焼成前に内面孔が穿たれる。 |
| 175 | SK-5 | 覆土 | 須恵器・瓶 | 体一底破片 | ・・・(6.4)・(3.1) | 還元 | 灰白色 | 内外面ヨコナデ整形。底部周縁あり 指押 ノ痕跡。 |
| 176 | SK-5 | 覆土 | 須恵器・坏 | 底破片 | ・・・7.5・(1.5) | 還元 | 灰白色 | 内外面ヨコナデ整形。底部周縁あり。 |
| 177 | SK 5 | 覆土 | 不明土製品 | 破片 | ・・・9.0 | 酸化気味 | 橙色 | 全面ミガキが施される。特徴資料から平安時代の遺構が考えられるが、詳細不明。機械部と共に補修は、平内技の切り込みがあり、それが連続するものと推定した。 |
| 178 | SK-25 | 覆土 | 須恵器・蓋 | 天井部破片 | ・・・・・(2.4) | 還元 | 黒灰色 | 内外面ヨコナデ整形。ツマミ貼付。 |
| 179 | SK-35 | 覆土 | 土師器・鉢 | 口縁 3/4 欠 | (8.6)・4.5・2.3 | 酸化 | 浅黄橙色 | 内外面ヨコナデ整形。底部周縁あり。 |
| 180 | SD-5 | 覆土 | 丸瓦 | 破片 | ・・・・ | 酸化 | 灰黄色 | 凸面有 凹面 無 ・SD-5 は近代溝。 |
| 181 | SD-7 | 覆土 | 平瓦 | 破片 | ・・・・ | 還元 | 灰黄色 | 凸面有 凹面 無 ・中心部に穿孔。 |
| 182 | SD-8・9 | 砂利層 | 須恵器・坏 | 口縁一底破片 | (12.7)・9.4・4.2 | 還元 | 灰白色 | 内外面ヨコナデ整形。底部周縁あり。 |
| 183 | SD-8・9 | 砂利層 | 羽釜 | 口縁破片 | ・・(8.6) | 酸化気味 | にぶい黄橙色 | 内外面ヨコナデ整形。 |
| 184 | SD-8・9 | 砂利層 | 灰釉・瓶 | 口縁破片 | ・・・(3.7) | 還元 | 灰白色 | 内外面ヨコナデ整形。口縁部間くスロ状。内外面施釉。 |

## 6、中世以降

中世以降の遺構の時期判断は、覆土が As-B 混土であることを根拠としている。そのため As-B 降下以降から近現代までの遺構が含まれていることになるが、具体的な時期は明らかにしがたい。覆土の印象としては中世段階まで遡り得るものは少なく、おそらくほとんどが近世～近現代の帰属であろう。そうした中で、SE-1 井戸跡は中世後半期の遺構として位置付けられそうである。また、同一場所で重複する SD-4 ～ 9 の内 SD-4 ～ 7 は近現代の溝であることから、本来的には本項で扱うべき遺構であるが、平安時代の項に掲載している。

### (1)　井戸

**SE-1　（遺構第 40 図、遺物第 41 図）**

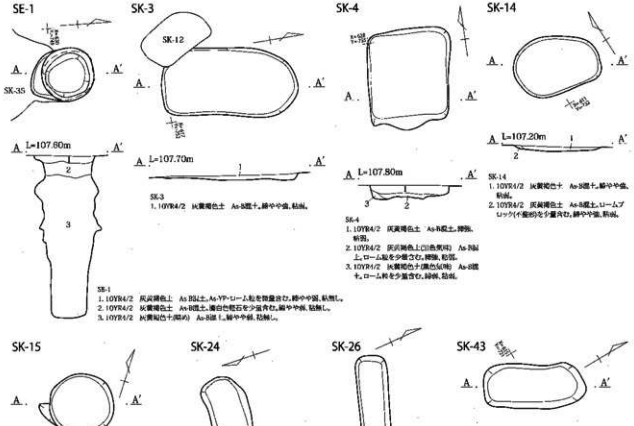
**位置（座標）**　調査区北西　（X=630・Y=-749 付近）　**重複関係**　SK-35 より新しい。　**平面形態**　歪んだ円形　**規模**　長軸 85cm・短軸 82cm　**深度**　2.52m　**出土遺物**　すり鉢・土師器・須恵器　**調査所見**　遺構確認面から 2.52m で底面となる。調査時点での湧水は無いが、壁面にはアグリの痕跡が残る。　**時期**　中世後半

### (2)　土坑　（遺構第 40 図）

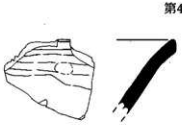
中世以降として 10 基を調査したが、同時代性は弱いと考える。調査区内での特徴的な分布傾向も伺えない。出土遺物によって近世以降であることが明らかな遺構については、個別遺構図は掲載していない。

第12表　中世以降の土坑一覧表　※規模欄の（　）＝残存値、〈　〉＝検出値、＜　＞＝推定値である。

| 番号 | 位置 | 平面形態 | 長軸方向 | 規模 (長×短×深) cm | 出土遺物 | 重複関係 | 調査所見 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK-3 | X-615・Y-752 | 歪んだ楕円以/方形 | N-5°-E | 216 × 107 × 13 | 弥生・土師・土師器 | SK-12 不明 | 底面は平坦である。 |
| SK-4 | X-628・Y-755 | 歪んだ楕円/方形 | N-6°-E | 160 × 127 × 19 | 弥生・土師・須恵 | なし | 底面には凹凸がある。 |
| SK-12 | X-617・Y-754 | 歪んだ楕円以/方形 | N-33°-W | 104 × 62 × 8 | 土師・須恵器 | SK-3 不明 | 底面には凹凸があるが、概ねの平坦化あり。 |
| SK-14 | X-611・Y-732 | 歪んだ楕円形 | N-67°-W | 138 × 94 × 9 | 石臼破片 | なし | 底面は比較的平坦である。 |
| SK-15 | X-610・Y-731 | 円形 | N-72°-E | 100 × 97 × 21 | 弥平・土師 | なし | 底面は平坦である。壁面の一部に張り巡ぎあり。 |
| SK-22 | X-616・Y-728 | 歪んだ長方形状 | N-68°-W | 392 × 44 × 15 | 弥生・土師・須恵・近世陶器 | なし | 隠ぶい遺構を伴える。底面には平凡な張り込みがあり、鐵穴痕跡と考えられる。近世以降の遺構構成か。 |
| SK-24 | X-614・Y-746 | 歪んだ楕円長方形状 | N-85°-W | 138 × 65 × 14 | 弥生・土師 | なし | 底面には凹凸がある。 |
| SK-26 | X-608・Y-727 | 隅丸長方形 | N-46°-W | 254 × 46 × 19 | なし | なし | 底面には凹凸がある。 |
| SK-42 | X-619・Y-701 | 円形状か | N-96°-W | 146 × 〈74〉 × 62 | 赤土・土師・石臼・磁器・現代金属製品 | SD-5 不明 | 確認あり。詳細かか。 |
| SK-43 | X-615・Y-721 | 隅丸長方形状 | N-30°-E | 163 × 60 × 14 | なし | なし | 底面は平滑である。中央へと緩く傾斜する。 |




第40図 SE-1・SK-3・4・14・15・24・26・43 平面・断面




第41図 中世以降の遺物

第 13 表 中世以降遺物観察表 計測値欄の( )＝残存値、〔 〕＝復元値を示す。単位は cm。

| 番号 | 出土遺構 | 出土位置 | 器種 | 部位 | 形状 | 成形 | 色調 | 成・整形技法の特徴など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 185 | SE-1 | 覆土 | すり鉢 | L縁～体部破片 | ―・―・(7.8) | 還元 | 灰色 | 口縁部端位チデ、胎土緻あり。表面のゆがみあり、外面が付くと考えられる。内面は良く磨られているが、擦り目は確認できない。 |

## 7. その他の遺構

### (1) 時期不明の土坑

SK-33・36・37 は時期不明である。出土遺物がなく、さらに覆土の状態の観察を行わなかったため、帰属時期の推定ができなかった。個別遺構図版なし。

### (2) 倒木痕

SK-30・34・50 は覆土の堆積状態から倒木痕と判断した。SK-30・34 からは出土遺物が無く、SK-50 からは縄文土器の小破片が出土した。倒木痕跡は隣接する雨宿遺跡でも確認されているようである。個別遺構図版なし。

### (3) ピット

調査区からは 197 基以上のピットを検出した。調査区西側に多く分布する傾向がある。明確な配列は SB-1・2 以外では抽出できず、ほとんどが単独ピットの様相を示す。ただし、掘り込みの深いものや、斜めの掘り込みをもつ特徴的なピットも存在した。各ピットの帰属時期は覆土の特徴から推定した。詳細は第 14 表を参照されたい。

第 14 表　ピット一覧表

凡例

| 覆土分類 | 覆歴 | 推定時期 |
|---|---|---|
| A | に近い暗黄褐色上　　褐りの強いものが上層であるが、褐りの強いものも含まれる。 | 縄文 |
| B | に近い黒褐色上　　As-Cを含むものがあり、泥色味の強いものもある。 | 弥生 |
| C | 黒褐色土　　黒色味が強い、As-Cを多く含む。 | 古墳時期 |

| 覆土分類 | 覆歴 | 推定時期 |
|---|---|---|
| D | 暗褐色上　　As-Cを含む。ローム・ブロックを多く含むものもある。 | 平安 |
| E | 灰褐色～灰色系色土　　As-B 混土 | 中世以降 |
| ※ | 掘方の単位は cm。括弧内の　括め　は ピットの掘り込みが浅めであることを示す。 | |

| 番号 | 覆土 | 深さ | 備考 | 番号 | 覆土 | 深さ | 備考 | 番号 | 覆土 | 深さ | 備考 | 番号 | 覆土 | 深さ | 備考 | 番号 | 覆土 | 深さ | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P-1 | D | 14 | | P-41 | D | | SB-2 | P-81 | D | 23 | | P-121 | A | 12 | | P-161 | 平安 | — | 第 16 図 |
| P-2 | D | 16 | | P-42 | A | 23 | | P-82 | D | 11 | | P-122 | A | 15 | | P-162 | D | 8 | |
| P-3 | D | 16 | | P-43 | 不明 | 12 | | P-83 | D | 11 | | P-123 | A | 21 | | P-163 | D | 8 | |
| P-4 | E | 6 | | P-44 | A | 15 | 掘り込ぎか | P-84 | E | 6 | | P-124 | B | 7 | | P-164 | D | 5 | |
| P-5 | A | 6 | | P-45 | C | 35 | | P-85 | D | 9 | | P-125 | B | 9 | | P-165 | D | 18 | |
| P-6 | B | 59 | | P-46 | A | 7 | 細穴か | P-86 | D | 20 | | P-126 | B | 13 | | P-166 | B | 24 | |
| P-7 | E | 8 | | P-47 | B | 10 | | P-87 | D | 31 | | P-127 | B | 14 | | P-167 | 不明 | 6 | |
| P-8 | E | 6 | | P-48 | B | 15 | | P-88 | D | 13 | | P-128 | B | 9 | | P-168 | E | 20 | |
| P-9 | B | 14 | | P-49 | B | 20 | | P-89 | B | 7 | | P-129 | B | 15 | | P-169 | B | 13 | |
| P-10 | B | 15 | | P-50 | D | 55 | 括め | P-90 | B | 6 | | P-130 | B | 10 | | P-170 | B | 18 | |
| P-11 | A | 6 | | P-51 | D | 9 | | P-91 | B | 12 | | P-131 | B | 17 | | P-171 | B？ | 26 | |
| P-12 | | — | SB-1 | P-52 | D | 24 | | P-92 | D | 26 | | P-132 | D | 14 | | P-172 | A | 10 | |
| P-13 | | — | SB-1 | P-53 | D | 14 | | P-93 | D | 42 | | P-133 | A | 19 | | P-173 | B | 15 | |
| P-14 | B | 4 | 細穴か | P-54 | B？D？ | 32 | | P-94 | D | 19 | | P-134 | B | 22 | | P-174 | D | 31 | |
| P-15 | A | 5 | 細穴か | P-55 | D | 19 | | P-95 | D | 8 | | P-135 | D | 8 | | P-175 | D | 29 | |
| P-16 | E | 4 | 細丸か | P-56 | D | 62 | | P-96 | D | 12 | | P-136 | 不明 | 11 | | P-176 | D | 27 | |
| P-17 | A | 4 | 細穴か | P-57 | D | 50 | | P-97 | A | 8 | 細穴か | P-137 | D | 11 | | P-177 | D | 21 | |
| P-18 | D | 7 | | P-58 | D | 59 | | P-98 | A | 8 | 細穴か | P-138 | E | 17 | | P-178 | D | 25 | |
| P-19 | A | 4 | 細穴か | P-59 | E | 14 | | P-99 | B | 14 | | P-139 | D | 13 | | P-179 | E | 31 | |
| P-20 | E | 8 | | P-60 | C | 14 | SK-23か | P-100 | A | 12 | | P-140 | — | — | SB-2 | P-180 | E | 9 | |
| P-21 | D | 30 | | P-61 | D | 14 | | P-101 | D？ | 28 | | P-141 | B | 5 | | P-181 | 不明 | 21 | |
| P-22 | D | 11 | | P-62 | — | — | SB-1 | P-102 | A | 8 | | P-142 | 不明 | 17 | | P-182 | D | 20 | |
| P-23 | B | 76 | 括め | P-63 | E | 11 | | P-103 | A | 16 | | P-143 | D | 不明 | | P-183 | 不明 | 10 | 細穴か |
| P-24 | D | 5 | | P-64 | D | 7 | | P-104 | D | 11 | | P-144 | B | 67 | 括め | P-184 | B | 9 | |
| P-25 | E | 8 | 括鉢か | P-65 | 不明 | 41 | | P-105 | D | 19 | | P-145 | D | 20 | | P-185 | A？ | 11 | |
| P-26 | D | 19 | | P-66 | A | 34 | 十抜状 | P-106 | D | 22 | | P-146 | 不明 | 8 | | P-186 | 不明 | 12 | 細穴か |
| P-27 | D | 16 | | P-67 | B | 50 | 括め | P-107 | D | 20 | | P-147 | 不明 | 65 | 括め | P-187 | E | 18 | |
| P-28 | D | 8 | 細穴か | P-68 | D | 26 | | P-108 | D | 16 | | P-148 | B | 16 | | P-188 | D | 6 | |
| P-29 | | — | SB-1 | P-69 | E | 13 | | P-109 | D | 4 | | P-149 | D | 79 | | P-189 | D | 5 | |
| P-30 | E | 17 | | P-70 | E | 9 | | P-110 | D | 29 | | P-150 | D | 14 | | P-190 | B | 12 | |
| P-31 | E | 22 | | P-71 | B | 21 | | P-111 | D | 23 | | P-151 | D | 6 | | P-191 | D | 22 | |
| P-32 | B | 19 | | P-72 | 不明 | 11 | | P-112 | D | 18 | | P-152 | D | 12 | | P-192 | E | 10 | |
| P-33 | D | 32 | | P-73 | B | 10 | | P-113 | E | 21 | | P-153 | D | 23 | | P-193 | 不明 | 16 | |
| P-34 | C | 9 | | P-74 | 不明 | 6 | | P-114 | E | 16 | | P-154 | D | 9 | | P-194 | D | 9 | |
| P-35 | E | 28 | | P-75 | A | 9 | | P-115 | E | 19 | | P-155 | D | 18 | | P-195 | 赤色 | — | 第 16 図 |
| P-36 | B | 9 | | P-76 | A | 12 | | P-116 | E | 22 | | P-156 | D | 27 | | P-196 | — | — | SB-2 |
| P-37 | E | 16 | | P-77 | E | 7 | | P-117 | A | 28 | | P-157 | D | 38 | | P-197 | — | — | SB-2 |
| P-38 | A | 6 | 細穴か | P-78 | A？ | 7 | | P-118 | B | 6 | | P-158 | D | 40 | | | | | |
| P-39 | B | 33 | | P-79 | D | 20 | | P-119 | D | 15 | | P-159 | D | 30 | | | | | |
| P-40 | A | 3 | 細穴か | P-80 | D | 31 | | P-120 | A | 7 | | P-160 | B | 33 | | | | | |

# V．まとめ

**はじめに**　本遺跡では縄文・弥生・古墳・平安・中世～近現代に帰属する遺構を調査した。各時代の概要については別項に記載していることもあり、本項では特に弥生時代について触れ、今回の発掘調査のまとめにかえたい。

**弥生時代の遺構**　弥生時代の遺構は、竪穴住居跡（SI）4 軒・掘立柱建物跡（SB）1 棟・土坑（SK）11 基である。多数見つかったピットの中にも同時期のものが含まれていよう。時期的には SI-3・7・12 が中期後半に、SI-8 が後期初頭に属する。SB-1 は覆土の観察によって弥生時代の帰属と判断した。土坑からの出土遺物は少ないが、出土遺物のある SK-7 は中期後半の帰属が考えられる。SK-7 の平面形態はやや大きめの円形基調であり、類似する平面形態の SK-6・8・18・31 などは同時期としてとらえることも可能である。これら遺構からの出土遺物で注目できるのは、SI-3・7・12 出土の土器群と SI-8 出土の磨製石鏃製作関連遺物である。

**一括性の高い上器群**　SI-3・7・12 の 3 軒はすべて焼失住居であり、土器を主体とする遺物を出土した。出土遺物量に差があるものの、それぞれ高い一括性を有する。SI-3・7 出土遺物の主体は、床面から若干浮いた覆土中からの出土である。調査では各住居跡に伴うと判断したが、直接的に伴うかについては異論もあろう。ただ、各住居跡に直接伴わないとしても、埋没の初期段階、あるいは焼失直後の一括投棄としてとらえることができ、出土土器群の一括性の高さは変わらないと言える。その場合、出土遺物の年代観をもって遺構の年代とみなすことができよう。SI-12 出土土器は少量ながらも床面直上からの出土であり、住居跡に伴うと考えて差し支えない。こうした出土土器群のうち、特に SI-3 では器形を復元しうる個体が多い。惜しむらくは遺構の一部が調査区外になることと、覆土の上位が耕作などによって滅失していることである。ゆえに今回出土遺物が本来の全容を示していると限らないが、一括性の高さと豊富な復元資料は十分に注目できる。また、SI-7 は削平が著しいため出土遺物が SI-3 より少ない。しかしある程度まで復元できる個体が複数あり、こちらも良好な資料である。SI-3・7 ともに器形を復元・推定できる資料は多いが、特に壷については胴部下位から底部の欠損が目立ち、全形を復元できるものは無い。

**出土資料の位置付け**　群馬県における弥生土器は、若狭　徹氏によって大別Ⅴ期に編年されている（若狭 1996）。中期後半はⅣ期にあたり、Ⅳ－1、Ⅳ－2 期の 2 期に細分される。Ⅳ期以降になると利根川を境とし

第42図　木遺跡周辺の弥生時代遺構分布

た東西で地域差が現れるとし、その西側、西毛地域のⅣ－２期はさらなる細分の可能性を指摘した上で、新相・古相とされている。そして、その指標として、壺の太頸化、壺・甕口縁の仲長、縄文の消失などが挙げられている。

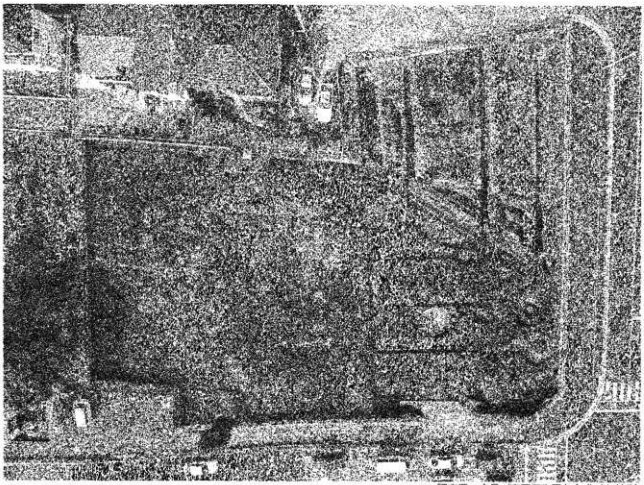
今回 SI-3・7・12 から出土した資料を概観すると、SI-3 出土の壺には口唇部と頸部文様帯に縄文を施文するもの（No.12・14 など）が一定量存在し、さらに胴部に縦位区画の文様帯があるいわゆる装飾壺も出土している（No.10・11）。一方で櫛描文系の施文がなされるものは皆無であり、施文の主体はヘラ描沈線文である。口縁部形態では受け口が存在せず、外反もしくは大きく外反するものが主体をなしている。甕でも口唇部と胴部に縄文施文されるもの（No.27・30）が存在し、受け口状の口縁部文様帯では、無文（No.25・29）とヘラ描山形文のもの（No.24）がある。頸部には櫛描簾状文（No.25・26）、櫛描波状文（No.24・28）、あるいは無文（No.27・30）が存在する。胴部には櫛描羽状文（No.24・25・29）、横位多段の櫛描波状文（No.26・28）、縄文施文されるもの（No.27・30）がある。櫛描羽状文は縦位のみで横位は出土していない。胴部縄文施文の個体には頸部施文がなされていない。SI-7 でも同様の傾向が認められるが、こちらでは頸部無文の壺（No.52）や、ずんぐりとした器形で無文と考えられる壺（No.57）が出土している。甕にはヘラ描コの字重ね文の資料がある（No.67）。SI-12 では出土資料数が少なく、甕の復元個体が存在しない。壺では口縁部に刻みの施されるもの（No.109）があるが、頸部文様帯はヘラ描沈線によるもので、縄文が施されるものもある（No.110）。また、胴部中位に重層する連弧文を施文する資料がある（No.112）。これらを全体的にみると、器形や各文様帯の施文様の組合せに、多様なバリエーションがあることが看取できる。

こうした出土土器群の諸特徴は、例えば前橋市清里・庚申塚遺跡や、高崎市浜尻Ａ・Ｂ地点遺跡出土資料と比べて古手と考えられ、Ⅳ－２期でも古相に近いと考えたい。ただし、SI-12 出土壺（No.109）の胴部最大径の位置は上昇傾向にあるように見え、調査した竪穴住居跡相互にも、若干の時期差がある可能性には注意しておきたい。

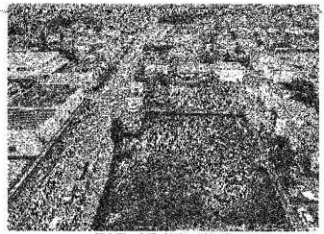
**磨製石鏃製作関連遺物の出土**　一方、SI-8 では磨製石鏃製作に関わる遺物の出土があった。土器の出土は少なく、且つ破片資料が主体であるが、壺頸部に櫛描簾状文や波状文が施文される（No.79・80 など）こと、甕口縁部の伸長傾向（No.90・91）からみて後期初頭、Ⅴ－１期相当と判断した。磨製石鏃製作関連遺物は石材鑑定の結果、複数の石材が含まれており、千枚岩、粘板岩、頁岩の３種が存在した。鑑定時における石岡智武氏の教示によれば、千枚岩については利根川上流域、沼田市付近の川場変成岩類に属する可能性があるという。井上慎也氏がまとめたように（井上 2007）、従来磨製石鏃製作関係の片岩系石材は、県南部の二波川帯で産出すると考えられており、今回の石材鑑定結果はこれと比較して興味深い。翻って、No.107 が磨製石鏃の未成欠損品であれば、No.108 の不明品と併せて製作址の存在を推定できる。両者が良岩を用いることに対して、素材である No.106 は粘板岩であり、加えて No.104 の大きめな千枚岩を製作初期段階の素材とみなしてよければ、複数石材を使用した製作址を想定できる。ただし、調査ではこれらが厳密に床面直上出土でないことを確認しており、篩がけで採集したチップ類も床面被覆の覆土出土である。チップ類が床面密着で出土しないことを考慮すれば、単純に SI-8 が製作址であったとは言い難い。現段階では、複数石材による磨製石鏃などの製作址が本遺跡の近くに存在し、そこから SI-8 覆土へと混入したと推測しておきたい。ちなみに完成品の磨製石鏃（No.77）は SI-7 出土で、中期後半の帰属である。

**おわりに**　第 42 図に本遺跡周辺の弥生時代遺構分布を示した。中期後半から後期までの遺構を含むが、おおまかな分布傾向がつかめよう。本遺跡南側の大八木伊勢組遺跡（1 次）では、弥生時代の遺構は検出されていない。弥生時代中期後半期では環濠を廻る集落遺跡の事例が知られている。今のところ、本遺跡および南霜遺跡では環濠は見つかっていない。当該期の墓域も不明確で、至近では福島富士腰南遺跡で後期方形周溝墓とされる溝が調査されたのみである。今回の調査では、一括性の高い土器群や磨製石鏃製作関連遺物など、良好な資料の出土が特筆でき、当地域における弥生時代中期後半～後期初頭期の集落の一端が明らかになったと言える。本集落の実相を考えていく上で、環濠の有無の確定や周辺における当該期の墓域・生産域の発見が期待される。

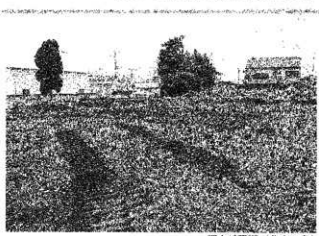
【参考文献】　井上　慎也　2007 「北関東における磨製石鏃の製作技法（下）」「上毛野の考古学」 群馬考古学ネットワーク
井上　慎也　2007 「北関東における磨製石鏃の製作技法（下）」『群馬考古学手帳』17　群馬考古器観会
利根　敦　1996 「群馬県地域」『YAY！弥生土器を語る会 20 回到達記念論文集』 弥生土器を語る会
※その他、多くの論文・発掘調査報告書などを参考としましたが、紙数の都合上、割愛させて頂きます。



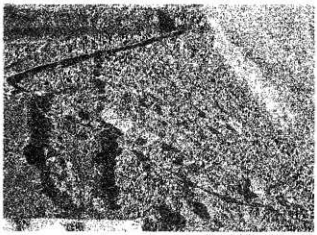
調査区　全景（東西調査区を合成／上が北）



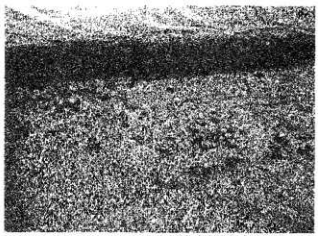
調査区　鳥瞰（左側の道路が雨童遺跡／南から）



調査前現況（北東から）

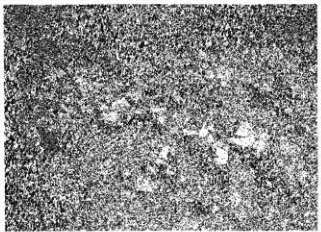


SI-3　全景（南東から）

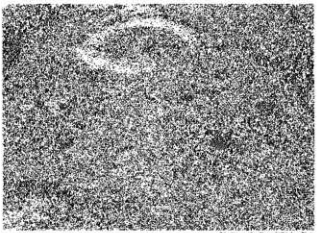


SI-3　遺物出土状況（1）（南西から）

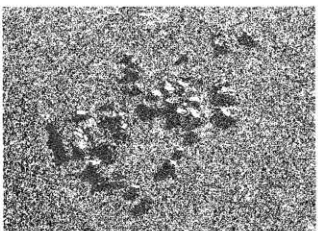
写真図版2



SI-3　遺物出土状況（2）（南から）



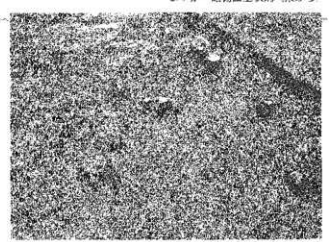
SI-7　全景（東から）



SI-7　遺物出土状況（北西から）

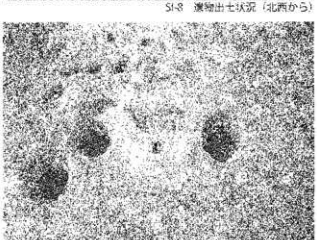
SI-7 炉　遺物出土状況（東から）

SI-8　全景（南東から）

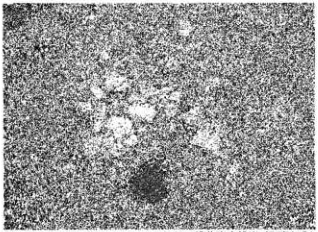


SI-8　遺物出土状況（北西から）

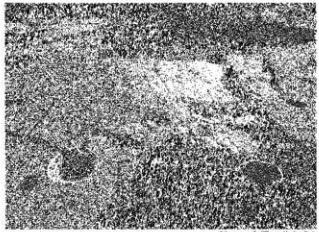
SI-12　全景（P14は未検出／南東から）



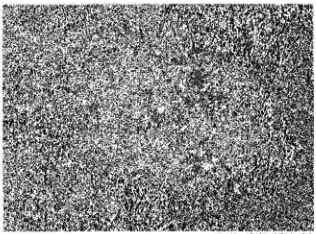
SI-12　P12・P14検出状況（南東から）



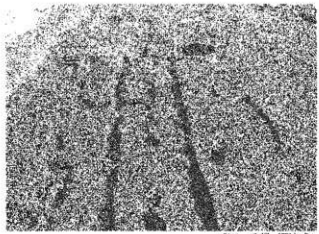
SI-12　遺物出土状況（南東から）



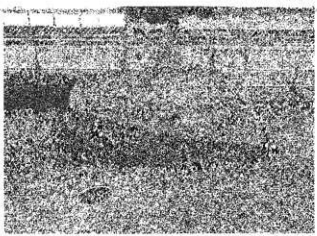
SB-1　全景（北から）



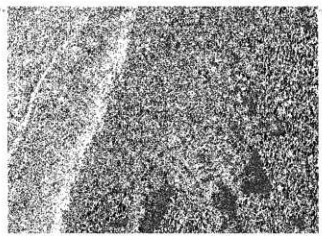
SK-7　全景（南から）



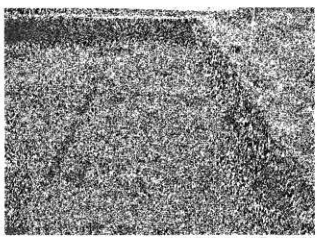
SI-1　全景（西から）



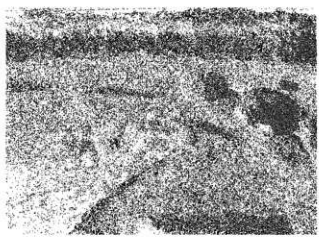
SI-9　全景（北から）



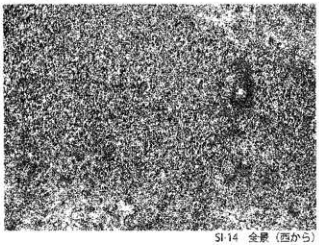
SI-2　全景（西から）



SI-4・5・6・10　全景（北から）

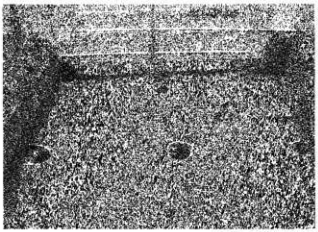


SI-13　全景（西から）

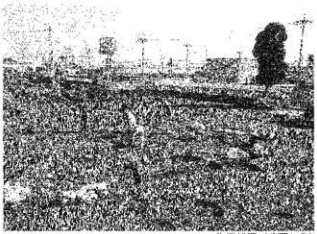


SI-14　全景（西から）

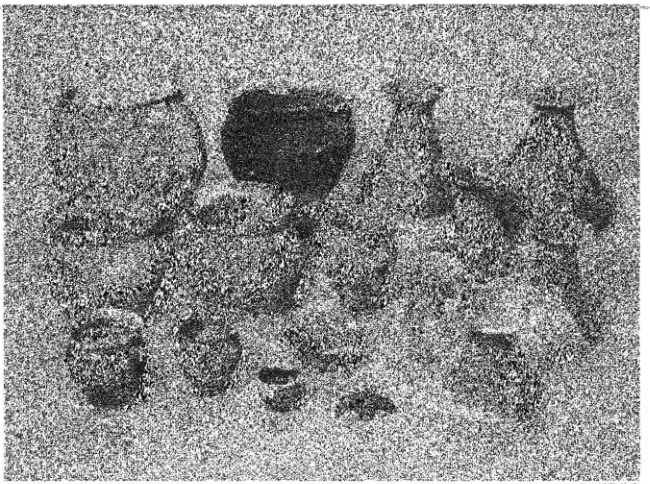
SI-16　全景（西から）



SB-2　全景（北から）

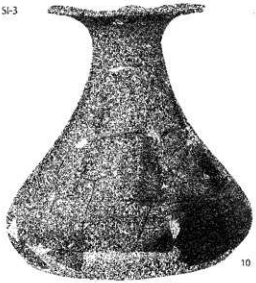


作業状況（北西から）



SI-3 遺物集合

SI-3


10

11

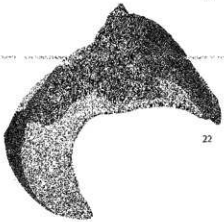
12

13

14

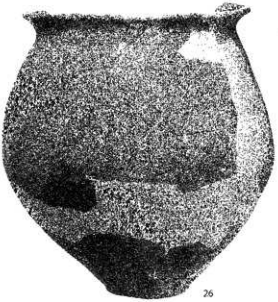
15

16


22

23

24


26

27

28

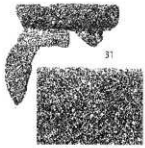
25

写真図版6

弥生時代（SI-3）

29

30


31

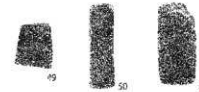
31 口縁拡大

33

40

44

47 48

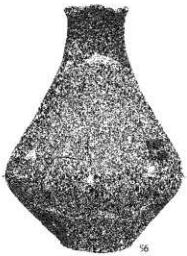

49 50 51

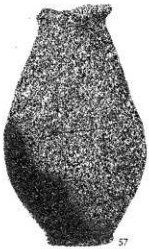
弥生時代（SI-7）

53

54

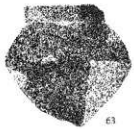
55


56

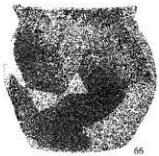

57

61

62


63

64


66

67

弥生時代（SI-7）

69

70

74

77

78

弥生時代（SI-8）

79

80

84

85

90

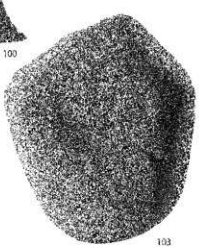
91

98

100

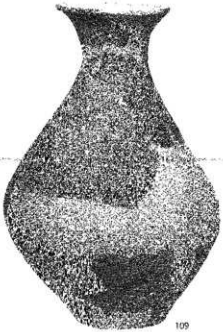
104 105

弥生時代（SI-12）


103

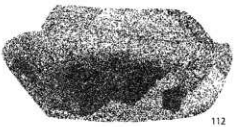
106

107 108


109

110

119


112

弥生時代（須備外）

140

古墳時代

148 150

平安時代

155

157

159

160

162

165

168

169

縄文時代

2

5

# 発掘調査報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | おおやぎ・いせめぐりいせき2 |
| 書名 | 大八木・伊勢廻遺跡2 |
| 副書名 | 店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 |
| 巻次 | — |
| シリーズ名 | 高崎市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第271集 |
| 編集者名 | 水谷 貴之 |
| 編集機関 | 高崎市教育委員会 |
| 所在地 | 〒370-8501 群馬県高崎市高松町35-1 |
| 発行年月日 | 2010年 8月 31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| おおやぎ<br>大八木・<br>いせめぐりいせき<br>伊勢廻遺跡<br>(だい2じ)<br>(第2次) | たかさき<br>高崎市<br>おおやぎまちいせめぐり<br>大八木町字伊勢廻<br>562-1、-4 ほか他 | 102020 | 456 | 36° 21′ 47″ | 139° 00′ 02″ | 2009.10.7 ～<br>2009.12.19 | 約2,134㎡ | 店舗建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大八木・伊勢廻遺跡<br>(第2次) | 集落 | 縄文時代<br>弥生時代<br>古墳時代<br>平安時代<br>中世以降 | 竪穴住居跡<br>掘立柱建物跡<br>土坑<br>溝<br>井戸<br>ピット | 石器<br>縄文土器<br>弥生土器<br>土師器<br>須恵器 | 調査した遺構のうち、弥生時代に帰属する4軒の竪穴住居跡を特記する。中期後半の3軒は焼失住居跡と考えられ、一括性の高い土器群が出土した。後期初頭の1軒からは磨製石鏃製作関連遺物が出土した。 |


要約

大八木・伊勢廻遺跡（第2次）の発掘調査では、縄文・弥生・古墳・平安の各時代と中世以降の帰属とした遺構を検出した。隣接する雨垂遺跡では旧発的に旧石器時代遺物が出土しているが、本遺跡からの出土は無かった。縄文時代の遺構として2基の土坑を掲載したが、出土遺物が伴わないため覆土からの推定である。弥生時代の遺構は4軒の竪穴住居跡が主体であり、中期後半の3軒では一括性の高い土器群が出土している。特に SI-3 出土の土器群は量的に豊富であり、群馬県内において良好な資料として位置付けられる。また、後期初頭の SI-8 からは磨製石鏃製作関連遺物が出土している。厳密に床面直上での出土が確認できなかったため、製作址と断定するには躊躇するが、近隣の熊野堂遺跡での出土例と併せて注目できる遺物である。弥生時代では他に掘立柱建物跡1棟と複数の土坑を調査している。古墳時代の遺構は全て前期の帰属と判断しており、竪穴住居跡2軒と複数の土坑がある。平安時代の遺構は本遺跡で最も多く確認され、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝がある。総じて残存状態が不良であったが、当地域が古代「八木郷」であったことを推定する場合、当該期の具体相には注意できよう。



高崎市文化財調査報告書第271集

大八木・伊勢廻遺跡2

—店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成22年8月20日 印刷

平成22年8月31日 発行

編集・発行 高崎市教育委員会

印 刷 上毎印刷工業株式会社